

ソフトウェア バージョン TC7.3  
2015 年 7 月



# アドミニストレータ ガイド

Cisco TelePresence SX20 Quick Set

シスコ製品をお選びいただきありがとうございます。

お使いのシスコ製品は、長年にわたり安全かつ信頼できる操作を行えるよう設計されています。

製品マニュアルのこの部分は、SX20 を設定する管理者を対象としています。

本書の主な目的は、ユーザの目標とニーズに対応することです。このガイドについてのご意見、ご感想をお聞かせください。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスし、このガイドの最新版を入手することを推奨します。

ユーザ ドキュメンテーションは次の URL から入手できます。  
▶ <http://www.cisco.com/go/telepresence/docs>

## 本ガイドの使用法

本書上部のメニュー バーと目次の各項目には、すべてハイパーリンクが設定されています。クリックすると、そのトピックに移動します。

## 目次

はじめに .....	4	強力なセキュリティ モードの設定 .....	42
ユーザ ドキュメンテーション .....	5	永続モードの変更 .....	43
Software .....	5	信頼リストの削除 (CUCM のみ) .....	44
このバージョンの新機能 .....	6	トラブルシューティング .....	45
Cisco TelePresence SX20 Quick Set の概要 .....	7	ログ ファイルのダウンロード .....	46
Web インターフェイス .....	8	拡張ロギングの開始 .....	47
Web インターフェイスへのアクセス .....	9	ユーザ インターフェイスのスクリーンショットのキャプチャ .....	48
システム パスワードの変更 .....	10	システム ソフトウェアのアップグレード .....	49
インタラクティブ メニュー .....	11	オプション キーの追加 .....	50
システム情報 .....	12	バックアップと復元 .....	51
スナップショットおよびリモート モニタリングの概要 (TC7.3.3 以降) .....	13	以前に使用していたソフトウェア バージョンへの復元 .....	52
スナップショットおよびリモート モニタリングの概要 (TC7.3.0 ~ TC7.3.2) .....	14	初期設定へのリセット .....	53
コールの開始 .....	15	リモート サポート ユーザ .....	54
コンテンツの共有 .....	16	システムの再起動 .....	55
コールの制御および監視 .....	17	システム設定 .....	56
カメラの制御 .....	18	システム設定の概要 .....	57
ローカル レイアウトの制御 .....	19	音声設定 .....	60
遠端カメラの制御 .....	20	カメラ設定 .....	63
コール情報へのアクセス .....	21	会議設定 .....	66
システム設定 .....	22	FacilityService 設定 .....	71
システム設定の変更 .....	23	H323 設定 .....	72
[管理者設定 (Administrator Settings) ] メニュー パスワードの設定 .....	24	ロギングの設定 .....	75
システム ステータス .....	25	ネットワーク設定 .....	76
お気に入りリストの管理 .....	26	NetworkServices 設定 .....	83
お気に入りリストのフォルダ .....	27	周辺機器の設定 .....	88
壁紙の選択 .....	28	電話帳の設定 .....	89
呼び出し音の選択 .....	29	プロビジョニング設定 .....	90
周辺機器の概要 .....	30	RTP 設定 .....	92
ユーザ管理 .....	31	セキュリティ設定 .....	93
サインイン バナーの追加 .....	35	SerialPort 設定 .....	95
スタートアップ スクリプトの管理 .....	36	SIP 設定 (SIP settings) .....	96
アプリケーション プログラミング インターフェイス .....	37	スタンバイ設定 .....	100
ビデオ システムの証明書の管理 .....	38	SystemUnit 設定 .....	101
信頼できる認証局のリストの管理 .....	39	時刻設定 .....	102
ブラインストールされた Edge プロビジョニングの証明書の管理 .....	41	UserInterface 設定 .....	105
		ビデオ設定 .....	106
		試験の設定 .....	119

パスワードの設定 .....	123
システム パスワードの設定 .....	124
メニュー パスワードの設定 .....	125
付録.....	126
電源ボタンおよび LED インジケータ .....	127
Touch 8 ユーザ インターフェイスの接続.....	128
Touch 10 ユーザ インターフェイスの接続.....	129
背面パネル .....	131
ピン配列方法.....	132
Cisco VCS プロビジョニング.....	133
モニタについて.....	134
最適鮮明度プロファイル.....	135
パケット損失の復元力: ClearPath.....	136
SX20 に接続するスピーカ システムの要件.....	137
コーデックの初期設定へのリセット .....	138
Touch 8 ユーザ インターフェイスの初期化.....	139
Touch 10 ユーザ インターフェイスの初期化.....	140
SX20 Quick Set の技術仕様.....	141
サポートされている RFC.....	144
シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション.....	145
シスコのお問い合わせ先 .....	146



## 第 1 章

# はじめに

このマニュアルは、高度なレベルで製品を管理するために必要な情報を示します。

製品のインストール方法および必要な初期設定は、インストール ガイドおよびスタートアップ ガイドでそれぞれ説明しています。

## このガイドの対象となる製品

- Cisco TelePresence SX20 クイック セット

## ユーザ ドキュメンテーション

TC ソフトウェアを実行する Cisco TelePresence システムのユーザ ドキュメンテーションには、さまざまなユーザ グループ向けの複数のガイドが含まれています。

- 『インストール ガイド』：  
製品のインストール方法
- 『スタートアップ ガイド』：  
システムを稼働させるために必要な初期設定
- 『CUCM での TC エンドポイントの管理』：  
製品を Cisco Unified Communications Manager (CUCM) とともに使用開始するために実行するタスク
- 『アドミニストレータ ガイド』(本書)：  
製品の管理に必要な情報
- 『クイック リファレンス ガイド』：  
製品の使用方法 (リモコンやタッチ コントローラ)
- 『ユーザ ガイド』：  
製品の使用方法 (リモコンやタッチ コントローラ)
- 『カメラ ユーザ ガイド』：  
PrecisionHD カメラのユーザ ガイド
- 『API リファレンス ガイド』：  
Application Programmer Interface (API) の使用方法、およびコマンドライン コマンドのリファレンス ガイド
- ナレッジ ベースの記事
- 『Video conferencing room primer』：  
会議室の設計とベスト プラクティスに関する一般的なガイドライン
- 『Video conference room acoustics guidelines』：  
音質を向上させるために実行する対策
- ソフトウェア リリース ノート
- 法令準拠および安全上の注意ガイド
- 法律およびライセンス情報

## ユーザ ドキュメンテーションのダウンロード

ユーザ ドキュメンテーションの更新バージョンについては、定期的にシスコの Web サイトにアクセスしてご確認ください。次のリンクにアクセスします。

▶ <http://www.cisco.com/go/telepresence/docs>

シスコの Web サイトにあるドキュメンテーションの検索ガイドラインについては、付録の ▶ 「シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション」を参照してください。

## ソフトウェア

製品のソフトウェアは、次のシスコの Web サイトからダウンロードできます。

▶ <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html>

次のサイトから、ソフトウェア リリース ノート (TC7) を参照することを推奨します。

▶ <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/tsd-products-support-series-home.html>

## このバージョンの新機能

ここでは TC7.3 ソフトウェア バージョンで追加または変更されたシステム設定および新しい機能の概要について説明します。

### ソフトウェア リリース ノート

新機能および変更のすべての概要については、ソフトウェア リリース ノート (TC7) を読むことを推奨します。次のリンクにアクセスします。

▶ <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/tsd-products-support-series-home.html>

### ソフトウェア ダウンロード

ソフトウェアは次の Web サイトからダウンロードできます。▶ <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html>

## 新機能および改善点

### コール中のプレゼンテーションのローカル プレビュー

これにより、相手先と共有する前にプレゼンテーションをローカルでプレビューすることができます。この機能は以前の EX システムで使用可能でしたが、ポートフォリオ全体で使用できるようになりました。

### 画面上の表示の新しいパッシブ モード

タッチ 10 の制御デバイスを使用すると、画面上の表示が他のポートフォリオに合わせた外観と操作性に更新されます。

### TC7.3.0 ~ TC7.3.2: スナップショット取得時のユーザへの通知

スナップショット機能がイネーブルの場合、画面上の表示および Web インターフェイスの両方に警告が表示されます。スナップショットが作成されると、通知が画面に表示されます。この機能がイネーブルになっているとこの通知が表示され、Web インターフェイスで管理者にアラートが通知されます。

また、システム ログには、スナップショットの作成時と要求の開始元である IP アドレスが記録されます。

スナップショットをリモートで許可および拒否できますが、通知されるユーザが不在の場合、部屋の監視はできません。

### TC7.3.3 以降: リモート モニタリング オプション キー

セキュリティ上の理由により、システムの Web インターフェイスの [コール制御 (Call Control)] ページからローカルおよび遠端のビデオ ストリームのスナップショットを取得するには、エンドポイントへのオプション キーのインストールが必要になりました。

リモート モニタリング オプション キーを追加できるのは、TC7.3.3 以降にアップグレードされたシステムのみです。オプション キーを追加してシステムを再起動すると、リモート モニタリングがイネーブルになります。イネーブルになっているリモート モニタリング機能をディセーブルにするには、オプション キーを削除する必要があります。

この機能を使用しても、部屋が監視されていることを伝える警告メッセージやインジケータはローカル システムに表示されません。システム管理者がカメラや画面を監視および制御する場合があります。このことを、システムのユーザに適切な方法で通知してください。

## システム設定の変更

### 新しい設定

Audio Input Line [1] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

Audio Input Line [1] VideoAssociation VideoInputSource

Cameras Preset TriggerAutofocus

H323 Profile Encryption KeySize

NetworkServices CDP Mode

### 削除されたコンフィギュレーション

H323 Profile [1] Encryption MinKeySize

Video AllowWebSnapshots (TC7.3.3)

### 変更されたコンフィギュレーション

FacilityService Service [5] Name

旧: <S: 0, 255>

新: <S: 0, 1024>

FacilityService Service [5] Number

旧: <S: 0, 255>

新: <S: 0, 1024>

Video AllowWebSnapshots (TC7.3.0 ~ TC7.3.2)

旧: <Off/On>, default Off

新: <Off/On/LocalDeviceOnly>, default LocalDeviceOnly

### Video モニタ

旧: Default: Single

新: Default: Auto

## Cisco TelePresence SX20 Quick Set の概要

Cisco TelePresence® SX20 Quick Set は標準フラット パネルディスプレイを強力なテレプレゼンス システムに変換できます。

ビデオ通信をこれから始める場合でも、大規模な展開を実装する場合でも、SX20 Quick Set は高い性能を提供します。

### 機能とメリット

- システムは簡単にインストールされます。また、壁への取り付けも容易です (オプションの壁面取り付けキット)。
- システムは Cisco Unified Communications Manager (UCM) または Cisco TelePresence WebEx TelePresence プロビジョニングで自己設定されます。ユーザが行う必要があるのは、エンドポイントをネットワークに認証させる作業のみです。
- パン、チルト、ズーム機能付の 3 つの PrecisionHD カメラ オプションにより、最適なフレーミングとビデオの明瞭さを保証します。
- 専用カメラのプリセットにより、どのような会議シナリオでも柔軟性と見やすさを実現します。
- 操作には、リモート コントロールと画面上のメニュー (デフォルト)、または 8 インチのタッチ インターフェイス (オプション) を使用します。
- ボタン 1 つを押すだけで通話を開始する機能が、一般的な予定表アプリケーションと統合されています。
- 最大 1080p60 のビデオ解像度とフレーム レート。
- 1080p15 解像度とフレーム レートで PC のコンテンツを共有できます。
- デュアル ディスプレイ オプションを利用できます。
- 最大 6 Mbps のポイントツーポイント帯域幅で H.323 と Session Initiation Protocol (SIP) をサポートします。
- システムは標準ベースのビデオ システムと互換性があり、機能を失うことはありません。
- Cisco TelePresence Multiway™ テクノロジーまたは組み込みの 4 方向 Cisco TelePresence MultiSite 機能 (外部ブリッジなし) を使用したマルチポイント会議機能。

### カメラのオプション



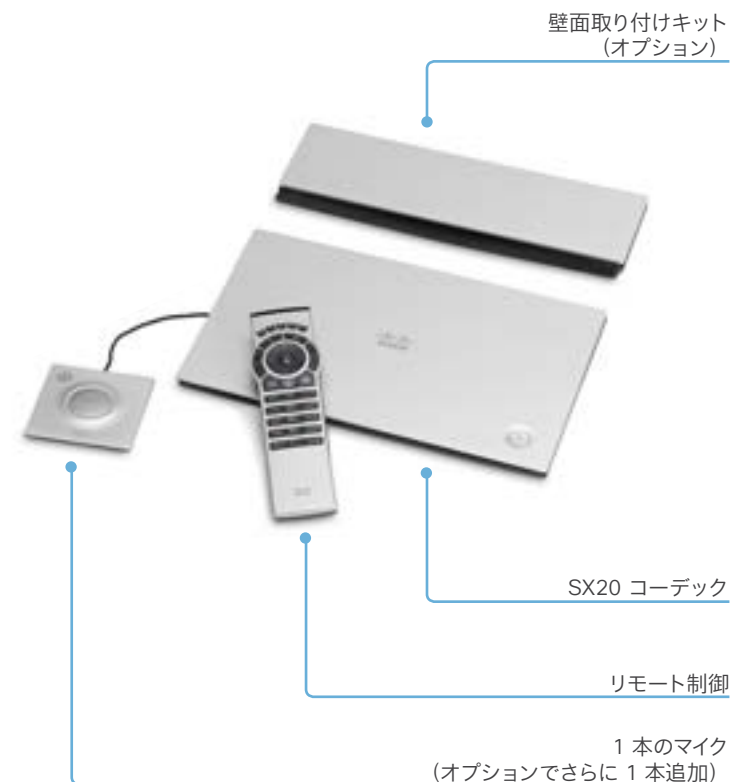
PrecisionHD 1080p12x



PrecisionHD 1080p4xS2



PrecisionHD 1080p2.5x





## 第 2 章

# Web インターフェイス



## Web インターフェイスへのアクセス

Web インターフェイスを使ってビデオ会議システムを詳細に設定できます。

コンピュータから接続して、システムをリモートで管理できます。

この章では、Web インターフェイスを使用してシステム設定とメンテナンスを行う方法について説明します。

主要な Web ブラウザの最新版を使用することを推奨します。

### 1.ビデオ システムへの接続

Web ブラウザを開き、ビデオ システムの IP アドレスをアドレス バーに入力します。



#### IP アドレスの確認方法

タッチ コントローラ: タッチ コントローラの左上隅にある連絡先情報をタップし、[\[設定 \(Settings\)\]](#) メニューを開きます。その後、[\[システム情報 \(System Information\)\]](#) をタップします。

リモート コントロール: [\[ホーム \(Home\)\]](#) > [\[設定 \(Settings\)\]](#) > [\[システム情報 \(System Information\)\]](#) に移動します。



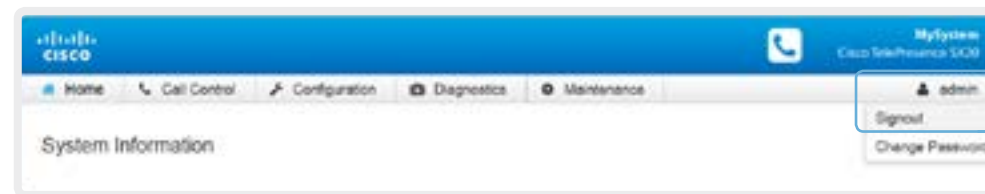
### 2.サインイン

ビデオ システムのユーザ名とパスワードを入力して、[\[サインイン \(Sign In\)\]](#) をクリックします。



システムには出荷時にデフォルト ユーザ admin (パスワードなし) が設定されています。初めてサインインするときに、[\[パスワード \(Password\)\]](#) フィールドを空白のままにします。

admin ユーザのパスワードを設定する必要があります。次のページを参照してください。



#### サインアウト

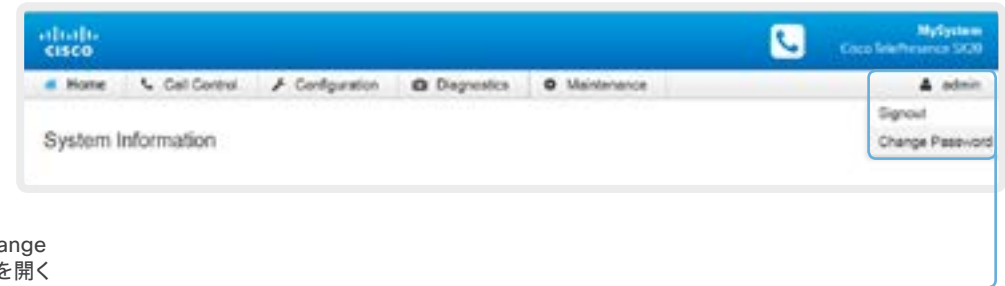
ユーザ名の上にマウスを移動し、ドロップダウン リストから [\[サインアウト \(Sign out\)\]](#) を選択します。

## システム パスワードの変更

**!** システム設定へのアクセスを制限するために、管理者特権を持つユーザのパスワードを設定する必要があります。これにはデフォルトの admin ユーザが含まれます。

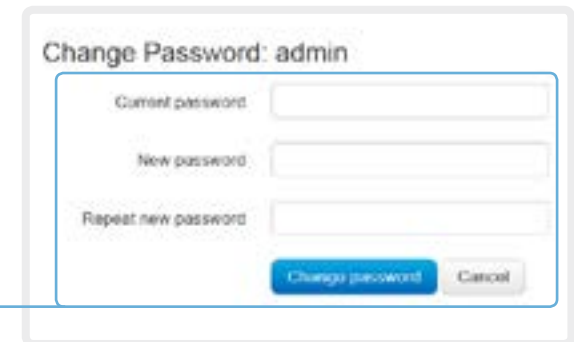
パスワードを設定するまで、システム パスワードが設定されていないという警告が画面に表示されます。

パスワードに関する詳細は、▶ [「パスワードの設定」](#)の章で確認できます。



### 1. [パスワードの変更 (Change Password)] ダイアログを開く

ユーザ名の上にマウスを移動し、ドロップダウン リストから [\[パスワードの変更 \(Change Password\)\]](#) を選択します。



### 2. 新しいパスワードを設定する

現在のパスワードと新しいパスワードを要求どおりに入力し、[\[パスワードの変更 \(Change Password\)\]](#) をクリックして変更を適用します。

**i** パスワードが現在設定されていない場合は、[\[現在のパスワード \(Current password\)\]](#) フィールドを空白のままにします。

## インタラクティブ メニュー

Web インターフェイスからタスクと設定にアクセスできます。これらはサインインしたときにページの上部に表示されるメイン メニューに表示されます。

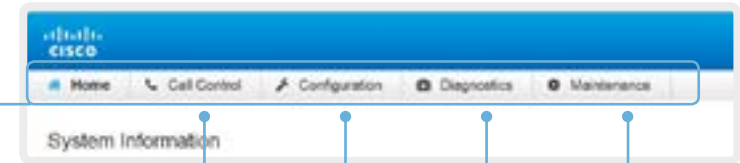
メイン メニューの項目の上にマウスを移動すると、関連するサブメニューに移動できます。

### メイン メニュー

関連するサブページのタイトルを確認するには、メイン メニューの項目の上にマウスを移動します。

サブ ページを開くには、サブ ページのタイトルをクリックします。サブページがない場合はメイン メニューの項目をクリックします。ユーザにアクセス権のあるページのみが表示されます。

[ホーム (Home)] をクリックすると、[システム設定 (System Settings)] ページに戻ります。



### サブページ

#### コール制御 (Call Control)

設定 (Configuration)
システム設定 (System Configuration)
システム ステータス (System Status)
ローカル連絡先管理 (Local Contacts Management)
パーソナライゼーション (Personalization)
周辺機器 (Peripherals)
ユーザ管理 (User Administration)
サインイン バナー (Sign In Banner)
スタートアップ スクリプト (Startup Scripts)
API
セキュリティ (Security)

診断 (Diagnostics)
トラブルシューティング (Troubleshooting)
Call History (通話履歴)
ログ ファイル (Log Files)
ユーザ インターフェイスのスクリーンショット (User Interface Screenshots)

メンテナンス (Maintenance)
ソフトウェア アップグレード (Software Upgrade)
オプション キー (Option Keys)
バックアップと復元 (Backup and Restore)
システム リカバリ (System Recovery)
再起動 (Restart)

\* ユーザ管理、ユーザ ロール、およびアクセス権に関する詳細情報は、「ユーザ管理」の項で確認できます。

## システム情報

ビデオ システムの [ホーム (Home)] ページには、システムの基本設定およびステータスの概要が表示されます\*。

ここではシステム名や製品タイプ、システムが動作するソフトウェアバージョン、IP アドレスなどの情報が含まれます。また、ビデオ ネットワーク (SIP および H.323) の登録ステータスのほか、システムにコールする際に使用する番号および URI も含まれます。

移動先: [ホーム (Home)]

System Information			
General		H323	
Product	Cisco TelePresence SX20	Status	Registered
Last boot	Last Wednesday at 21:43	Gatekeeper	192.168.1.1
Serial number	ABCD12345678	Number	123456
Software version	TC7.3.0	ID	firstname.lastname@company.com
Installed options	PremiumResolution		
System name	MySystem	SIP Proxy 1	
IPv4	192.168.1.120	Status	Registered
IPv6	2001:DB8:1001:2002:3003:4004:5005:F00F	Proxy	192.168.1.2
MAC address	01:23:45:67:89:AB	URI	firstname.lastname@company.com
Temperature	58.5°C / 137.3°F		

\* 図に示しているシステム情報は一例です。お使いのシステムとは異なる場合があります。

## スナップショットおよびリモート モニタリングの概要 (TC7.3.3 以降)

### ローカル入力ソースのスナップショット

ビデオ システムにリモート モニタリング オプション キーがインストールされている場合、ビデオ システムの入力ソースのスナップショットが [コール制御 (Call Control)] ページに表示されます。

スナップショットは、ビデオ システムがアイドル状態の際にも、通話中にも表示されます。

この機能は、たとえばカメラのビューをチェックしてカメラを制御するなど、リモート ロケーションからビデオ システムを管理するために使用できます。

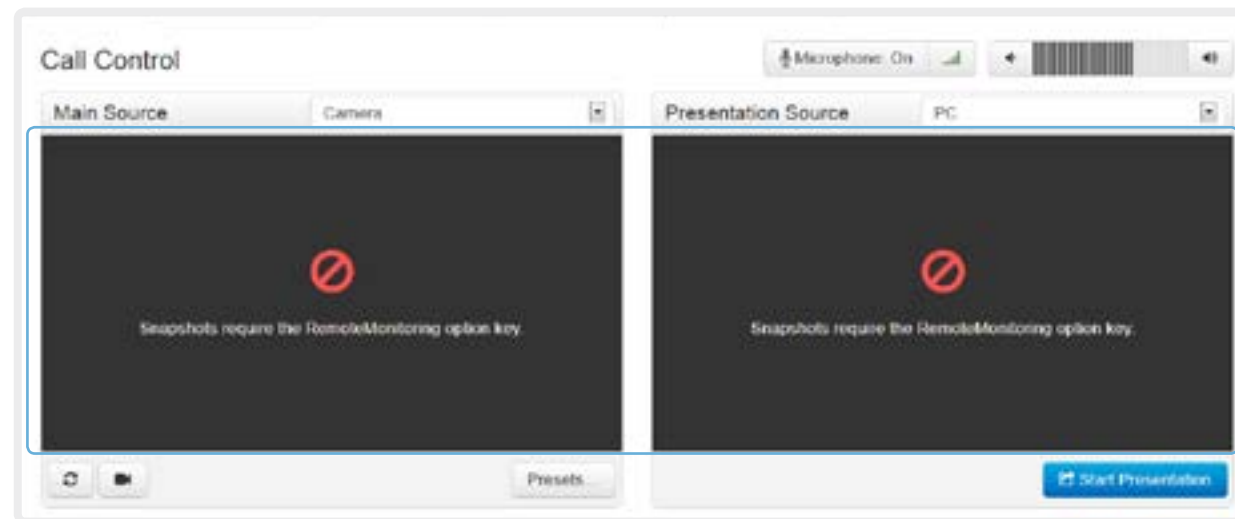
### 遠端のスナップショット

ビデオ システムにリモート モニタリング オプション キーがインストールされている場合、遠端のスナップショットもキャプチャできます。リモート モニタリング オプション キーが遠端のビデオ システムにインストールされているかどうかは、関係ありません。

暗号化された通話では、遠端のスナップショットは禁止されています。

リモート モニタリング オプションをイネーブルにする場合は、プライバシーに関する地域の法律および規制を遵守する必要があります。また、システム管理者がカメラや画面を監視および制御する場合があることを、システムのユーザに適切な方法で通知してください。システムの使用時にプライバシー規制を遵守するのはお客様の責任であり、シスコはこの機能の違法な使用について一切の責任を否認します。

移動先: [コール制御 (Call Control)]



#### 入力ソースからスナップショットを表示

リモート モニタリング オプション キーをインストールすると、この領域で選択したメイン ソースまたはプレゼンテーション ソースからスナップショットを表示できます。

## スナップショットおよびリモート モニタリングの概要 (TC7.3.0 ~ TC7.3.2)

### ローカル入力ソースのスナップショット

ビデオ システムでスナップショット機能がイネーブルになっている場合、ビデオ システムの入力ソースのスナップショットが [コール制御 (Call Control)] ページに表示されます。

スナップショットは、ビデオ システムがアイドル状態の際にも、通話中にも表示されます。

この機能は、たとえばカメラのビューをチェックしてカメラを制御するなど、リモート ロケーションからビデオ システムを管理する際に使用できます。



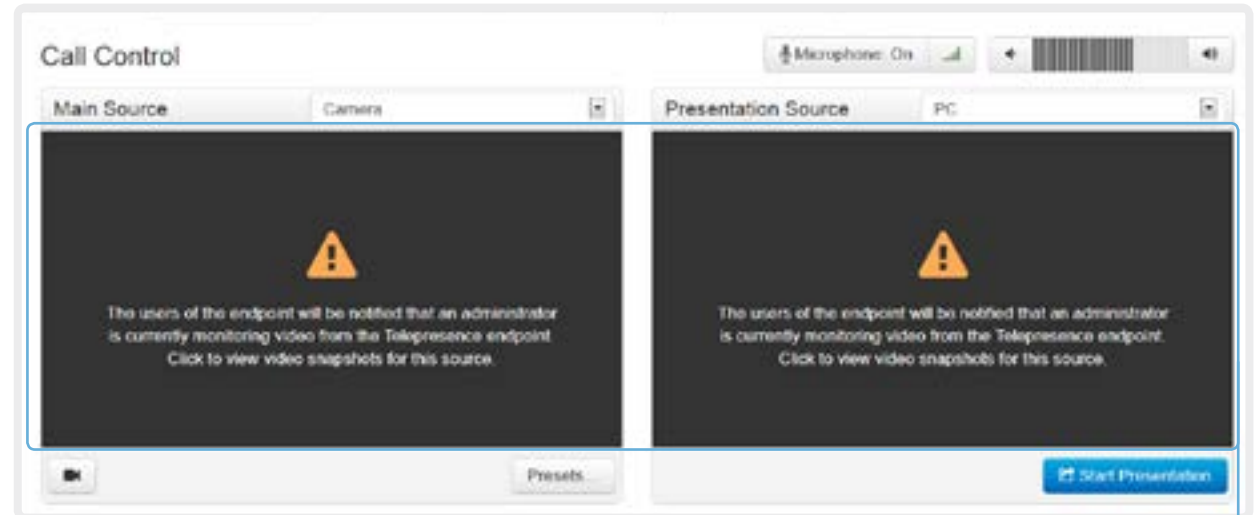
スナップショット機能を使用すると、ビデオ システムのユーザーに通知されます。管理者が視覚的に部屋を監視していることを伝える通知がビデオ システムのメイン ディスプレイに表示されます。

### 遠端のスナップショット

ビデオ システムでスナップショット機能がイネーブルになっている場合、遠端のスナップショットもキャプチャできます。遠端のビデオ システムでスナップショット機能がイネーブルになっているかどうかは、関係ありません。

暗号化された通話では、遠端のスナップショットは禁止されています。

移動先: [コール制御 (Call Control)]



### スナップショット機能のイネーブル化

デフォルトでは、スナップショット機能はディセーブルになっています。

Web インターフェイス またはリモート コントロールおよび画面のメニュー からこの機能をイネーブルにします。

#### Web インターフェイス

- [設定 (Configuration)] タブに移動し、[システム設定 (System Configuration)] を選択します。
- [ビデオ (Video)] > [Web スナップショットを許可 (AllowWebSnapshots)] に移動し、[オン (On)] を選択します。
- [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。

#### リモート コントロールと画面上のメニュー

- [詳細設定 (Advanced Configuration)] メニューに進み、[ビデオ (Video)] > [Web スナップショットを許可 (AllowWebSnapshots)] に移動して、[オン (On)] を選択します。

### 入力ソースからスナップショットを表示

この領域をクリックして、選択したメイン ソースまたはプレゼンテーション ソースからスナップショットを表示します。

メイン ソースまたはプレゼンテーション ソースのスナップショットが約 10 秒間表示されます。

## コールの開始

[コール制御 (Call Control)] ページを使用してコールを発信できます。

コールに使用されるのはビデオ システム (ディスプレイ、マイクおよびスピーカ) であり、Web インターフェイスを実行する PC ではありません。

### 発信

[ローカル (Local)], [ディレクトリ (Directory)] または [新着 (Recents)] リストで連絡先の名前を選択するか、[検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに完全な URI または番号を入力して、相手呼び出すことができます。次に、関連する連絡先カードで [コール (Call)] をクリックします。

### 連絡先リストの検索

[検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに 1 文字以上入力します。入力内容に応じて、[ローカル (Local)], [ディレクトリ (Directory)] または [新着 (Recents)] リストに一致するエントリが表示されます。

リストで正しいエントリを選択し、[コール (Call)] をクリックします。

### 複数の相手に発信

ポイントツーポイントのビデオ コール (2 者間限定のコール) を拡張して、音声専用でもう 1 人の参加者を増やすことができます。

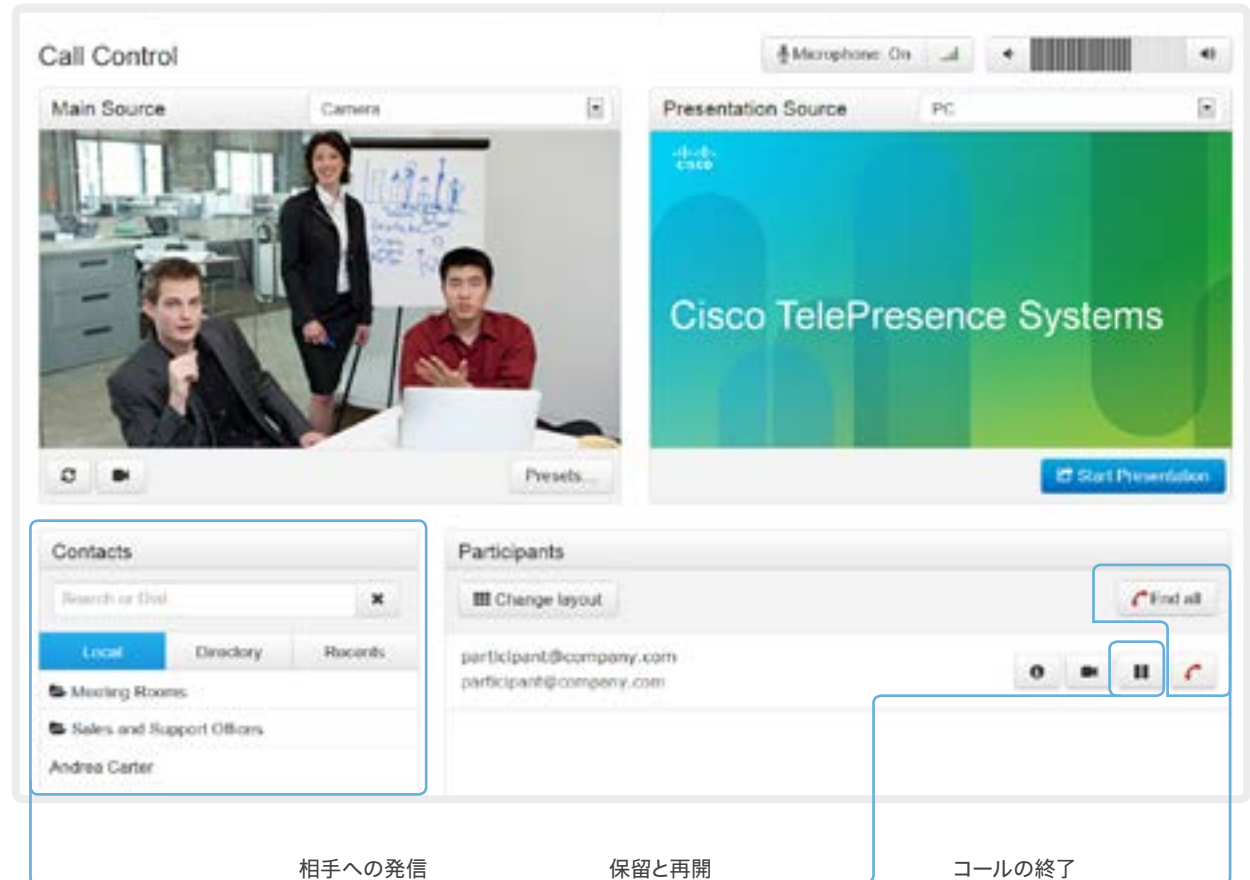
オプションの組み込み MultiSite 機能をシステムで使用している場合は、本人も含めて最大 4 人までがビデオ コール (会議) に参加できます。

最初の参加者を呼び出したときと同じ手順で、次の会議参加者を呼び出してください。

会議ブリッジを使用した複数のコール (CUCM のアドホック会議または MultiWay) は、ビデオ システムでサポートされていても Web インターフェイスではサポートされません。

入力ソースのスナップショットが図で示したように表示されるかどうかは、ソフトウェア バージョンや設定、ビデオ システムにインストールされているオプションによって異なります。「スナップショットおよびリモート モニタリングの概要」セクション (▶TC7.3.3 以降または▶TC7.3.0 ~ TC7.3.2) を参照してください。

移動先: [コール制御 (Call Control)]



### 相手への発信

[ローカル (Local)], [ディレクトリ (Directory)] または [新着 (Recents)] リストの連絡先名をクリックします。次に、連絡先カードで [コール (Call)] をクリックします。

または、[検索して発信 (Search and Dial)] フィールドに完全な URI または番号を入力します。次に、URI または番号の横に表示される [コール (Call)] ボタンをクリックします。

### 保留と再開

参加者の隣にある [保留] ボタンを使用すると、その人が保留状態になります。

コールを再開するには、保留中の参加者に表示される [再開] ボタンを使用します。

### コールの終了

コールまたは会議を終了する場合は、[すべて終了 (End all)] をクリックします。表示されるダイアログで選択内容を確認します。

1 人の参加者のみコールを終了するには、その参加者の [終了] ボタンをクリックします。

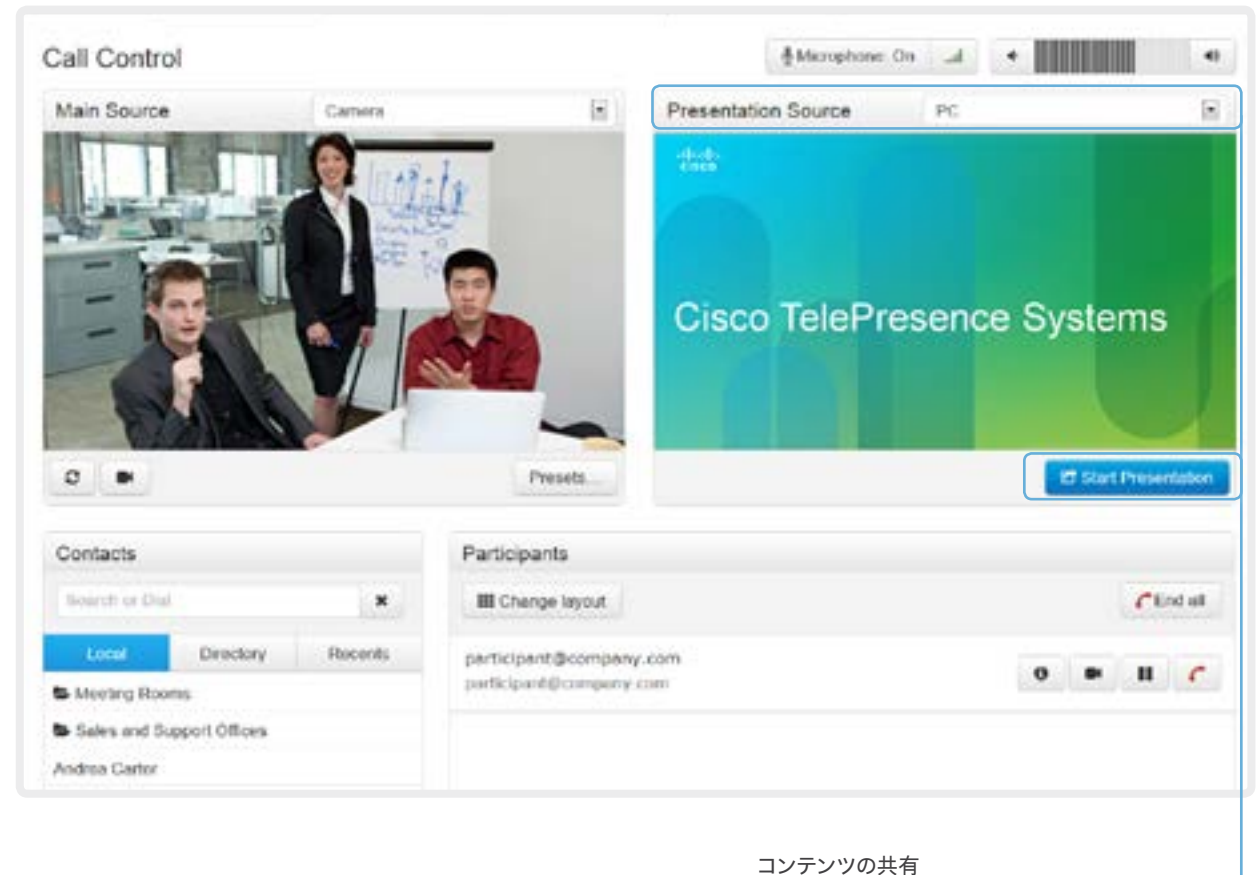
## コンテンツの共有

ビデオ システムの外部入力 の 1 つにプレゼンテーション ソースを接続できます。プレゼンテーション ソースとして最も多く使用されるのは PC ですが、システムの設定によってはその他のオプションを使用できる場合があります。

通話中に、他の参加者 (相手先) とコンテンツを共有できます。

コールを行っていない場合、コンテンツはディスプレイ上にローカルで共有されます。

移動先: [コール制御 (Call Control)]



### コンテンツの共有

1. プレゼンテーション ソースをドロップダウン リストから選択します。
2. [プレゼンテーションの開始 (*Start Presentation*)] をクリックします。

### コンテンツ共有の停止:

共有している間に表示される [プレゼンテーションを中止 (*Stop Presentation*)] ボタンをクリックします。

入力ソースのスナップショットが図で示したように表示されるかどうかは、ソフトウェア バージョンや設定、ビデオ システムにインストールされているオプションによって異なります。「スナップショットおよびリモート モニタリングの概要」セクション (▶TC7.3.3 以降または▶TC7.3.0 ~ TC7.3.2) を参照してください。



## コールの制御および監視

[コール制御 (Call Control)] ページを使用して、複数のコール機能を制御および監視できます。

移動先: [コール制御 (Call Control)]

### マイクのミュート

このボタンをクリックすると、マイクがミュートになります。すると、テキストが [マイク: オフ (Microphone: Off)] に変わります。

再度クリックすると、ミュートが解除されます。

The screenshot shows the Cisco TelePresence interface with several key elements:

- Microphone Control:** A 'Microphone On' button with a speaker icon and a volume slider. Labels '音量小' (Volume Low) and '音量大' (Volume High) point to the slider.
- Participants:** A list of participants with a 'Change layout' button and an 'End all' button.
- Call Information:** A table showing call details:

Call	
Protocol	SIP
Transmit call rate	768 kbps
Receive call rate	768 kbps
Encryption	NONE

Additional interface elements include a 'Presentation Source' window showing 'Cisco TelePresence Systems' and a 'Start Presentation' button.

### コールの詳細の表示/非表示

[情報ボタン (information button)] をクリックすると、コールの詳細情報が表示されます。

もう一度ボタンをクリックすると情報が非表示になります。

### コールの詳細

必要に応じて、ブラウザをスクロールしてコールの詳細を表示します。

入力ソースのスナップショットが図で示したように表示されるかどうかは、ソフトウェアバージョンや設定、ビデオシステムにインストールされているオプションによって異なります。「スナップショットおよびリモートモニタリングの概要」セクション (▶TC7.3.3以降または▶TC7.3.0～TC7.3.2) を参照してください。

## カメラの制御

ソフトウェア バージョン TC7.3.3 以降の場合：

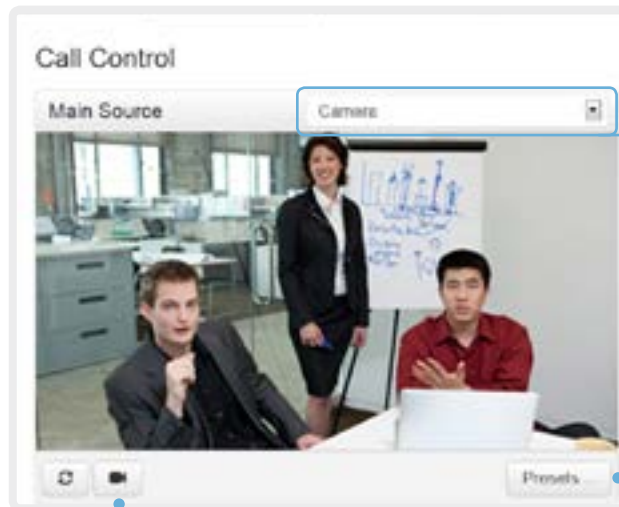
[コール制御 (Call Control)] ページからビデオ システムのカメラを制御 (パン、チルト、ズーム) できます。利用可能なカメラ コントロールのみが表示されます。

ソフトウェア バージョン TC7.3.0 ~ TC7.3.2 の場合：

[コール制御 (Call Control)] ページからビデオ システムのカメラを制御 (パン、チルト、ズーム) できます (Video AllowWebSnapshots 設定が On になっている場合)。利用可能なカメラ コントロールのみが表示されます。

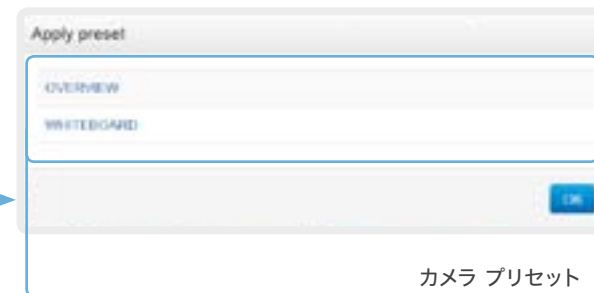
⚠ カメラのスナップショットが Web インターフェイスに表示されると、管理者がそのビデオを監視していることを伝える通知がビデオ システムのユーザに送信されます (メインディスプレイに表示)。

移動先: [コール制御 (Call Control)]



制御するカメラを選択

矢印をクリックすると、ドロップダウン リストが開きます。次に、制御するカメラを選択します。



カメラ プリセット

1 つまたは複数のプリセットが定義されている場合、[プリセット... (Presets...)] をクリックして使用可能なプリセットのリストを表示します。

プリセットの名前をクリックして、プリセット位置にカメラを移動します。

[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。

Web インターフェイスを使用してプリセットは定義できません。ビデオ システムのタッチ ユーザ インターフェイスを使用する必要があります。



カメラの制御

1. カメラ制御ウィンドウを開くには、カメラのアイコンをクリックします。
2. カメラのパンには左右の矢印キー、チルトには上下の矢印キー、ズームインとズームアウトには + および - を使用します。

ソフトウェア バージョン TC7.3.0 ~ TC7.3.2 の場合、コントロールを表示するにはカーソルをイメージ内に置く必要があります。

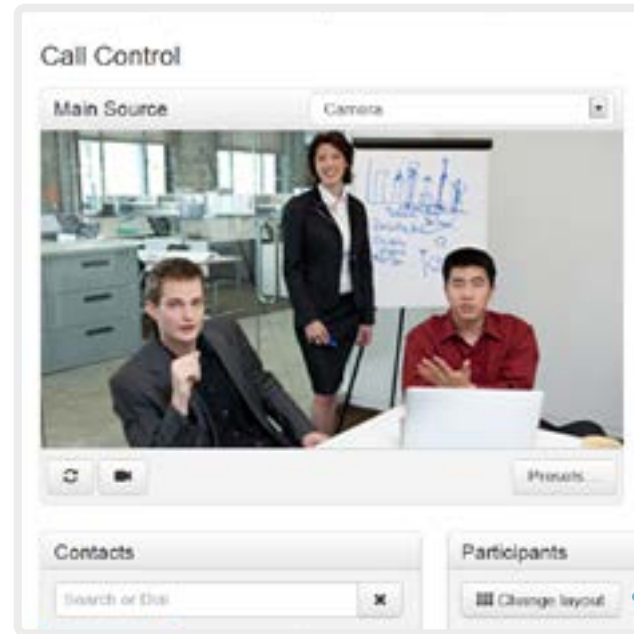
入力ソースのスナップショットが図で示したように表示されるかどうかは、ソフトウェア バージョンや設定、ビデオ システムにインストールされているオプションによって異なります。「スナップショットおよびリモート モニタリングの概要」セクション (▶TC7.3.3 以降または▶TC7.3.0 ~ TC7.3.2) を参照してください。

## ローカル レイアウトの制御

[コール制御 (Call Control)] ページを使用してローカル レイアウトを選択できます。

ここでいうレイアウトとは、会議参加者のビデオとプレゼンテーションを画面に表示するさまざまな方法のことです。会議の種類によって、レイアウトを変える必要があります。

移動先: [コール制御 (Call Control)]

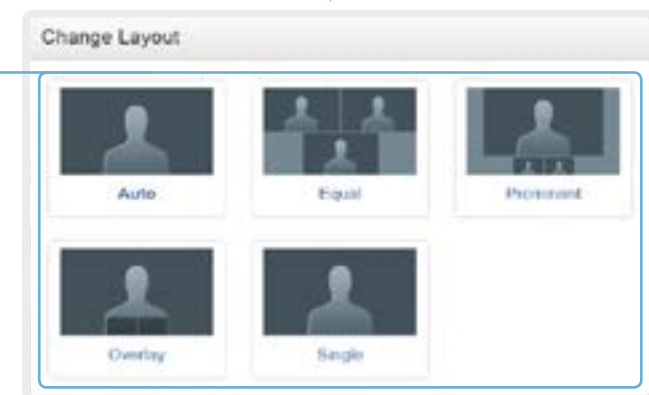


### レイアウトの変更

[レイアウトの変更 (Change layout)] をクリックし、表示されるウィンドウで優先するレイアウトを選択します。

選択するレイアウトのセットは、システム設定によって異なります。

コールの間にレイアウトを変更できます。



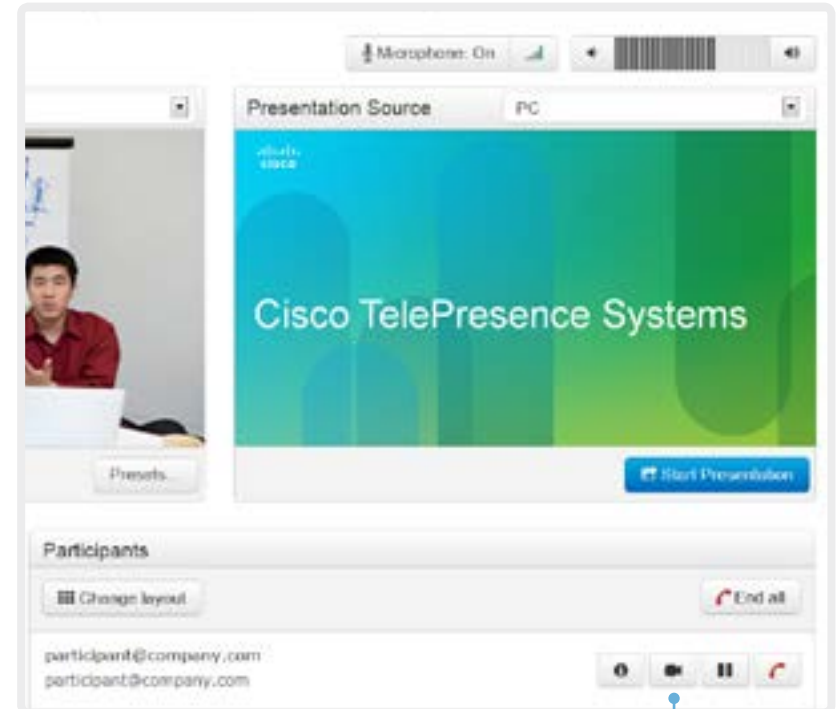
入力ソースのスナップショットが図で示したように表示されるかどうかは、ソフトウェア バージョンや設定、ビデオ システムにインストールされているオプションによって異なります。「スナップショットおよびリモート モニタリングの概要」セクション (▶TC7.3.3 以降または▶TC7.3.0 ~ TC7.3.2) を参照してください。

## 遠端カメラの制御

以下の条件において、通話中にリモート参加者のカメラ（相手先）を制御できます。

- ・ ビデオ システムにリモート モニタリング オプションがインストールされている（ソフトウェア バージョン TC7.3.3 以降）。
- ・ Video AllowWebSnapshots 設定が On になっている（ソフトウェア バージョン TC7.3.0 ~ TC7.3.2）。
- ・ Far End Camera Control (FECC; 遠端カメラ制御) が遠端システムでイネーブルになっている。表示されるのは利用可能なコントロールのみ。

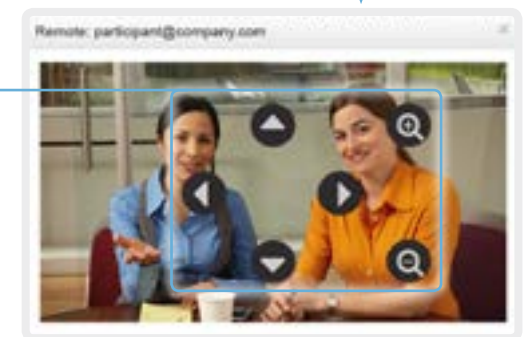
移動先: [コール制御 (Call Control)]



### リモート参加者のカメラを制御

1. リモート カメラ制御ウィンドウを開くには、カメラのアイコンをクリックします。
2. カメラのパンには左右の矢印キー、チルトには上下の矢印キー、ズームインとズームアウトには + および - を使用します。

ソフトウェア バージョン TC7.3.0 ~ TC7.3.2 の場合、コントロールを表示するにはカーソルをイメージ内に置く必要があります。



入カソースのスナップショットが図で示したように表示されるかどうかは、ソフトウェア バージョンや設定、ビデオ システムにインストールされているオプションによって異なります。「スナップショットおよびリモート モニタリングの概要」セクション（▶TC7.3.3 以降または▶TC7.3.0 ~ TC7.3.2）を参照してください。

## コール情報へのアクセス

コール状態インジケータは、Web インターフェイス上部のバーで使用できます。システムがコール中であるかどうかや、対応しているコール件数を示します。着信コールについてユーザに通知することもできます。

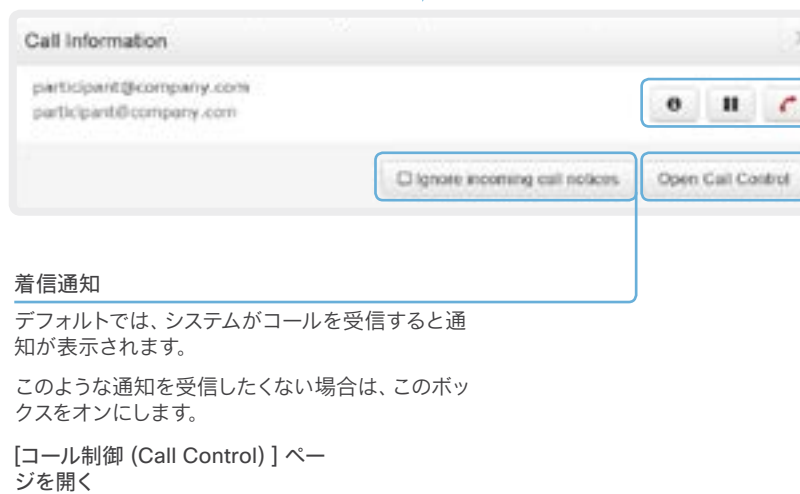


### コール状態インジケータ

コール状態インジケータは [コール制御 (Call Control)] ページ以外のすべてのページで使用できます。

バッジはアクティブ コール数を示します。システムがアイドル状態の場合、バッジはありません。

インジケータをクリックし、接続されているコールの詳細情報を表示します。



### コール制御

これらのボタンを使用して次を実行します。

- ・ コールの詳細を表示する
  - ・ コールを保留にする
  - ・ コールを切断する

### 着信通知

デフォルトでは、システムがコールを受信すると通知が表示されます。

このような通知を受信したくない場合は、このボックスをオンにします。

[コール制御 (Call Control)] ページを開く

[コール制御 (Call Control)] ページに直接移動するには、[コール制御を開く (Open Call Control)] をクリックします。

## システム設定

システム設定は複数のカテゴリにグループ化されます。左側のペインでカテゴリを選択すると、関連するすべての設定が右側に表示されます。

各システム設定については、▶「システム設定」の章で詳しく説明します。

[設定 (Configuration)] > [システム設定 (System Configuration)] に移動します。

設定の検索

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字を含むすべての設定 (値スペースも含め) が強調表示されます。

The screenshot shows the 'System Configuration' page for 'Conference 1'. On the left, a vertical menu lists various system categories: Audio, Cameras, Conferences (highlighted), FacilityService, H323, Logging, Network, NetworkServices, Peripherals, Phonebook Server, Provisioning, RTP Ports (Range), Security, SerialPort, SIP, Standby, SystemUnit, and Time. The main content area is titled 'Conference 1' and contains several configuration items, each with a dropdown menu or input field: ActiveControl Mode (Auto), CallProtocolIPStack (Dual), Encryption Mode (BestEffort), IncomingMultisite Call Mode (Allow), MaxReceiveCallRate (6000), MaxTotalReceiveCallRate (10000), MaxTotalTransmitCallRate (10000), MaxTransmitCallRate (6000), MicUnmuteOnDisconnect Mode (On), and Multipoint Mode (Auto). Below this is the 'AutoAnswer' section with Delay (0) and Mode (Off). At the top right of the main area, there is a search bar, a 'Refresh' button, and 'Collapse all'/'Expand all' buttons. A 'Set Administrator Settings menu password' link is also visible at the top right.

カテゴリの選択

システム設定はカテゴリ別に構造化されています。関連する設定を表示するには、カテゴリを選択します。

リストの展開と縮小

ボタンを使用して、すべてのリストに展開するか、個々のリストに縮小します。

\* 図に示している設定は一例です。お使いのシステムの設定とは異なる場合があります。

## システム設定の変更

すべてのシステム設定は [システム設定 (System Configuration)] ペインから変更できます\*。設定の値スペースは、ドロップダウン リストまたは入力フィールドに続くテキストで指定されます。

異なる設定には、異なるユーザ クレデンシャルが必要である場合があります。管理者はすべてのシステム設定を変更できるように、すべてのユーザ ロールを所有している必要があります。

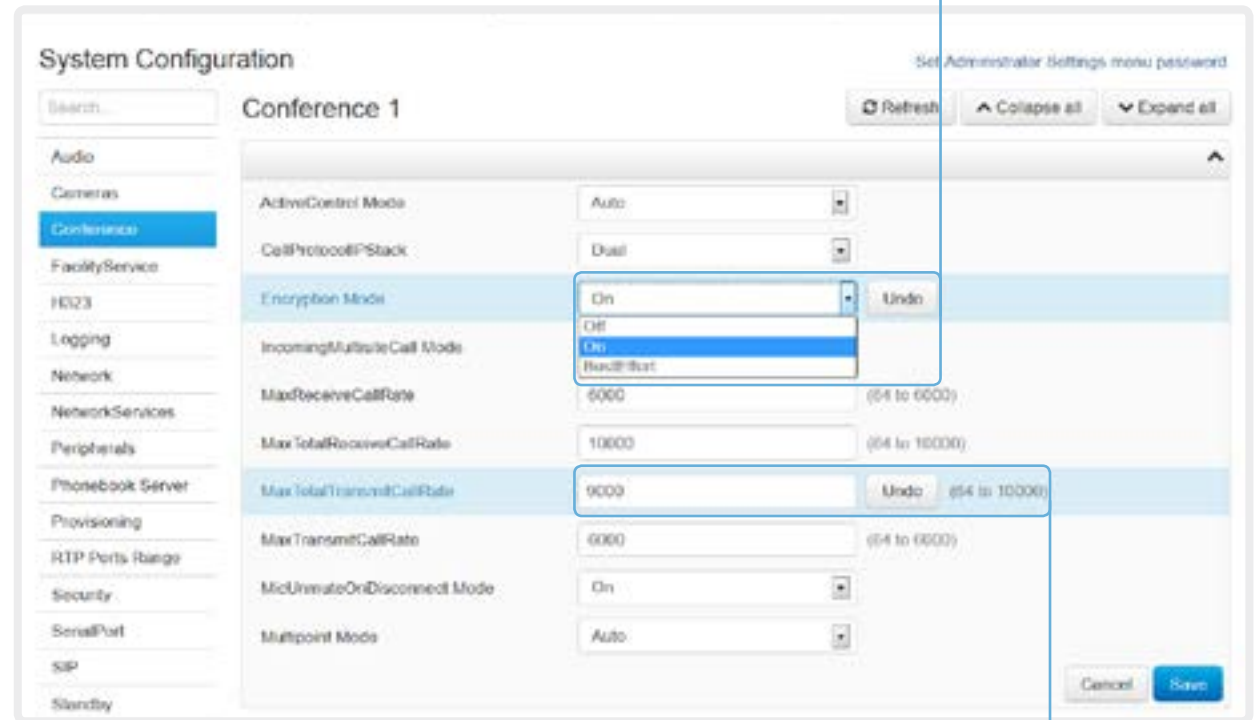
ユーザ管理およびユーザ ロールに関する詳細情報は、  
▶ 「ユーザ管理」の章で確認できます。

[設定 (Configuration)] > [システム設定 (System Configuration)] に移動します。

### ドロップダウン リスト

矢印をクリックしてドロップダウン リストを開き、優先する値を選択します。

[保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。



### テキスト入力フィールド

入力フィールドに新しいテキストを入力します。

[保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。

\* 図に示している設定は一例です。お使いのシステムの設定とは異なる場合があります。

## 【管理者設定 (Administrator Settings) ] メニュー パスワードの設定

このパスワードは、リモート コントロールを使用する場合に画面上で使用可能な [管理者設定 (Administrator Settings) ] メニューへのアクセスを制限します。

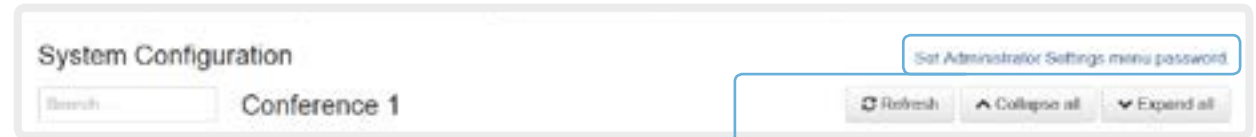
ビデオ会議システムの初回起動時は、メニュー パスワードが設定されていないため、誰でもこれらの設定にアクセスすることができます。

**!** 管理者設定はシステムの動作に大きく影響するので、メニュー パスワードを設定することを強く推奨します。

ソフトウェア バージョン TC7.0 から、メニュー パスワードは TRC5 のリモート コントロールでアクセスする画面の [管理者設定 (Administrator Settings) ] メニューにのみ適用されることに注意してください。タッチ コントローラ上の [管理者 (Administrator) ] メニューには適用されません。

パスワード保護に関する詳細は、▶ [「パスワードの設定」](#) の章で確認できます。

[設定 (Configuration) ] > [システム設定 (System Configuration) ] に移動します。



### メニュー パスワードの変更

[管理者設定メニュー パスワード設定/変更 (Set/Change Administrator Settings menu password) ] をクリックして、このダイアログを開きます。

テキスト入力フィールドに新しいパスワードを入力し、[設定 (Set) ] をクリックして設定します。

パスワードを入力しないで [設定 (Set) ] をクリックし、保護しない状態で [管理者 (Administrator) ] メニューを離れます (推奨しません)。





## システム ステータス

システム ステータスは複数のカテゴリにグループ化されます。左側のカラムでカテゴリを選択すると、関連するステータスが右側のウィンドウに表示されます。\*

移動先: [設定 (Configuration)] > [システム ステータス (System Status)]

The screenshot shows the 'System Status' interface. On the left is a navigation menu with categories: Audio, Camera, Conference (highlighted), H320 Gateway, H323, HttpFeedback, ICE, and Logging. The main area is titled 'Conference' and contains a search field, a 'Refresh' button, and 'Collapse all'/'Expand all' buttons. Below this are two expandable sections: 'Conference' with parameters 'DefaultLabel: Inactive', 'Multipoint Mode: Off', and 'SelectedCallProtocol: SIP'; and 'ActiveSpeaker' with 'Manual Switch: 0'. A search box at the top right is labeled 'ステータス エントリの検索'.

ステータス エントリの検索

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字を含むすべてのエントリ (値スペースを含む) が強調表示されます。

カテゴリの選択

システム ステータスはカテゴリで構造化されています。関連するステータス情報を表示するには、カテゴリを選択します。

リストの展開と縮小

ボタンを使用して、すべてのリストに展開するか、個々のリストに縮小します。

\* 図に示しているステータスは一例です。お使いのシステムのステータスとは異なる場合があります。

## お気に入りリストの管理

お気に入りリストのエントリはタッチ コントローラ、オンスクリーンメニュー（電話帳内の連絡先フォルダ）、および Web インターフェイスからアクセスできます。

移動先: [設定 (Configuration)] > [ローカルの連絡先管理 (Local Contacts Management)]

### 連絡先の追加

[連絡先の追加 (Add Contact)] をクリックし、ポップアップするフォームに入力します。次に [保存 (Save)] をクリックして連絡先をお気に入りリストに保存します。

### ファイルから連絡先をインポート/エクスポート

ローカルの連絡先をファイルに保存するには [エクスポート (Export)] をクリックし、ファイルから連絡先を取得するには [インポート (Import)] をクリックします。

ファイルから新しい連絡先をインポートすると、現在のすべての連絡先が消去されることに注意してください。

The screenshot shows the 'Local Contacts Management' interface. At the top, there is a search bar and buttons for 'Add folder', 'Add contact', 'Import', and 'Export'. Below this is a list of contacts with 'Mara Bartoli' selected. A modal dialog for adding a contact is open, showing fields for Name, Title, Folder (set to 'No folder'), Contact method, Number, Protocol (set to 'Auto'), Cell rate (set to 'Use default'), and Device. A 'Save' button is at the top right of the dialog.

### 連絡先の詳細情報の編集

[連絡先を編集 (Edit contact)] に続いて連絡先の名前をクリックします。フォーム内の詳細情報を必要に応じて変更し、[保存 (Save)] をクリックします。

### 連絡先の削除

[連絡先を編集 (Edit contact)] に続いて連絡先の名前をクリックします。次に [削除 (Delete)] をクリックしてエントリをお気に入りリストから削除します。

### 連絡先をフォルダに保存

ドロップダウン リストから適切なフォルダを選択します。

[フォルダなし (No folder)] は連絡先が最上位レベルに保存されることを意味します。

### 連絡方法の追加\*

連絡先ごとに、ビデオ、電話、モバイルなど複数の連絡方法を保存できます。

\* 最初の連絡方法のみがタッチ コントローラのお気に入りリストに表示されることに注意してください。すべての連絡方法は、リモート コントロールを使用して利用できます。

## お気に入りリストのフォルダ

お気に入りリストのエントリはフォルダに整理できます。

移動先: [設定 (Configuration)] > [ローカルの連絡先管理 (Local Contacts Management)]

**フォルダの追加**

[フォルダの追加 (Add Folder)] をクリックし、ポップアップするフォームに入力します。次に、[保存 (Save)] をクリックしてフォルダを作成します。

**フォルダを開く**

フォルダ名をクリックしてフォルダを開き、連絡先のリストを表示します。

**フォルダの変更または削除**

[フォルダの編集 (Edit folder)] をクリックし、ポップアップするフォームの情報を更新します。変更を保存する場合は [保存 (Save)] をクリックします。

フォルダとそのすべてのコンテンツおよびサブフォルダを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。ポップアップするダイアログで選択内容を確認します。

## 壁紙の選択

ビデオ システムには、一連の壁紙が事前定義されています。壁紙はディスプレイの背景として使用することもできます。

企業ロゴまたは別のカスタム画像をビデオ映像の背景に表示したい場合は、カスタムの壁紙をアップロードして、使用できます。

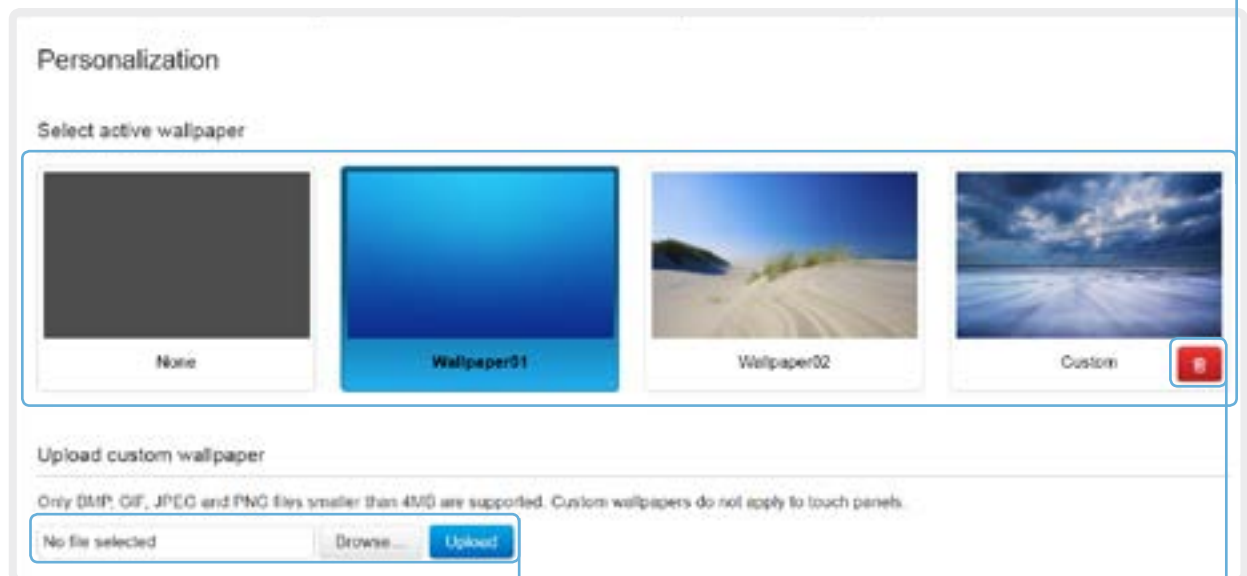
移動先: [設定 (Configuration)] > [パーソナライゼーション (Personalization)]

### 壁紙のアクティブ/非アクティブ化

使用可能な壁紙はミニチュアで表示されます。カスタムの壁紙をアップロードした場合は、リストに表示されます。

ミニチュアをクリックし、対応する壁紙に切り替えます。壁紙を適用しない場合は、[\[なし \(None\)\]](#) を選択します。

選択したオプションが強調表示されます。



### カスタムの壁紙のアップロード

[\[参照... \(Browse...\)\]](#) をクリックして、カスタム壁紙イメージ ファイルを特定します。

[\[アップロード \(Upload\)\]](#) をクリックして、ファイルをビデオ システムに保存します。

サポートされるファイル形式:

BMP, GIF, JPEG, PNG

最大ファイル サイズ 4MByte

カスタムの壁紙をアップロードすると、自動的にアクティブになります。

### カスタムの壁紙の削除

ビデオ システムからカスタムの壁紙を削除するには、削除記号をクリックします。これにより、イメージ ファイルが完全に削除され、再度使用する場合は新しくアップロードしなければならないことに注意してください。

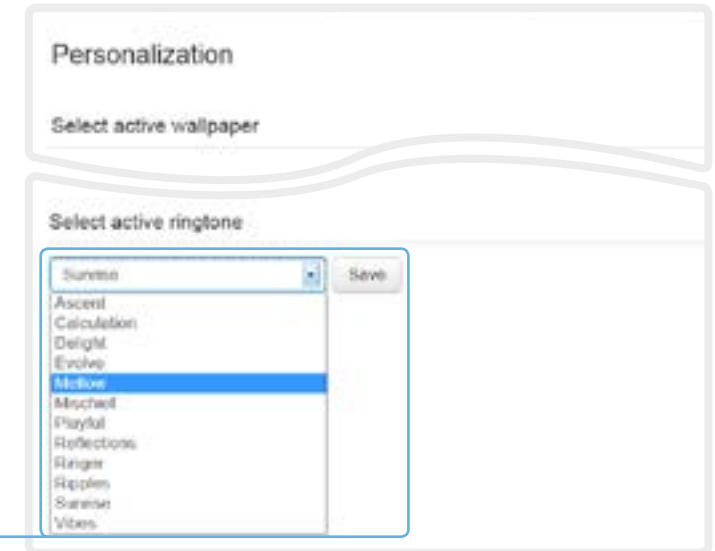
事前定義済みの壁紙は削除できません。

## 呼び出し音の選択

定義済みの呼び出し音から選択できます。選択された呼び出し音は、このページから再生できます。

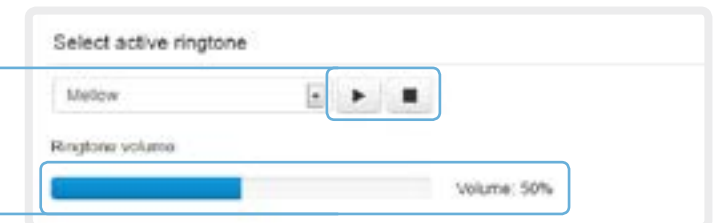
**i** 呼び出し音を再生するのはビデオ システムであり、Web インターフェイスではありません。

移動先: [設定 (Configuration)] > [パーソナライゼーション (Personalization)]



### 呼び出し音の変更

呼び出し音をドロップダウン リストから選択して [保存 (Save)] をクリックすると、それがアクティブな呼び出し音になります。



### 呼び出し音の再生

呼び出し音を再生するには、再生ボタン (▶) をクリックします。

再生を終了するには、停止ボタン (■) を使用します。

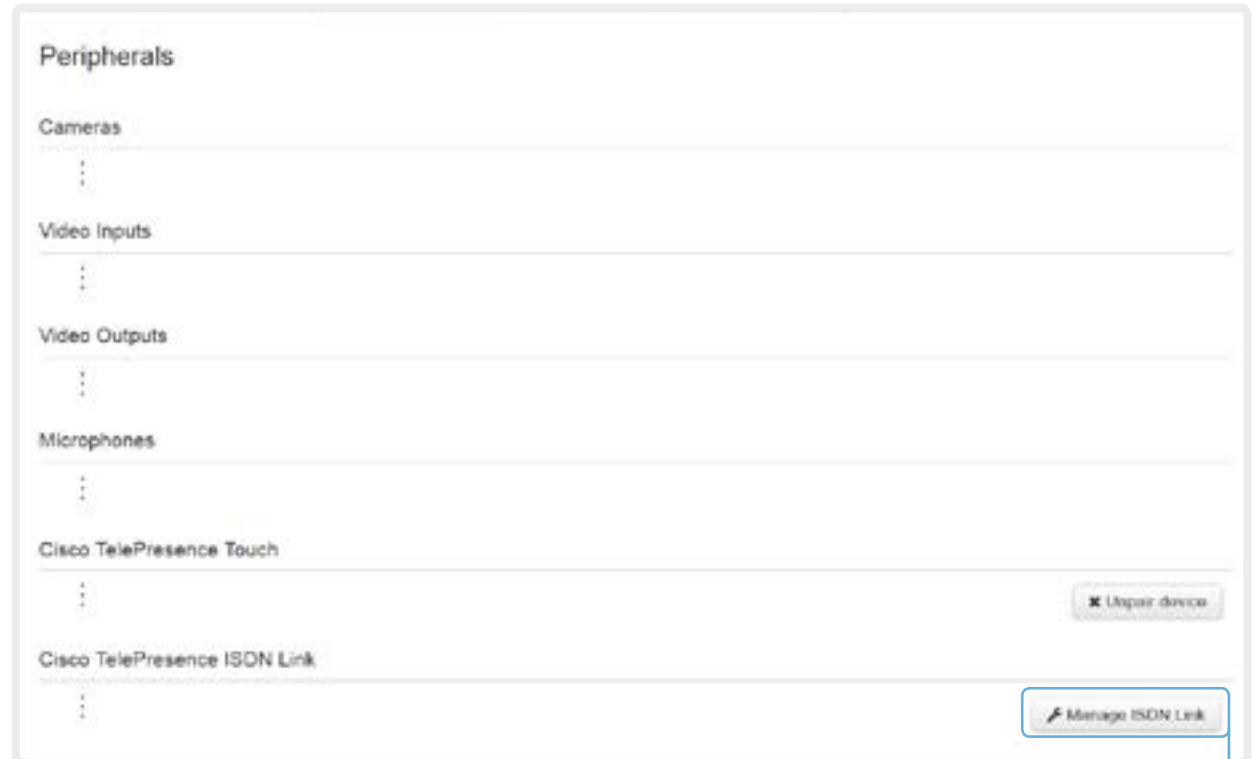
### 呼び出し音の音量の設定

呼び出し音の音量を調節するにはスライド バーを使用します。

## 周辺機器の概要

このページでは、ビデオ入出力、カメラ、マイク、ISDN リンク、タッチ コントローラなどのビデオ システムと接続されたデバイスの概要を表示します\*。

移動先: [設定 (Configuration)] > [周辺機器 (Peripherals)]



### ISDN リンクの管理

ISDN リンクがビデオ システムとペア化されていれば、このページから管理できます。

ISDN リンクの設定および使用の方法は、▶ <http://www.cisco.com/go/isdnlink-docs> の ISDN リンクのドキュメントに説明されています。


\* 図に示している周辺機器は一例です。お使いのシステムでは周辺機器とビデオ入出力の設定が異なる場合があります。

## ユーザ管理 (1/4 ページ)

このページからビデオ会議システムのユーザ アカウントを管理できます。

### デフォルトのユーザ アカウント

システムには初期状態でデフォルトの管理者ユーザ アカウントにフル アクセス権が与えられています。ユーザ名は admin で、パスワードは設定されていません。

 admin ユーザのパスワードを設定する必要があります。


パスワードに関する詳細は、▶ [「パスワードの設定」](#)の章で確認できます。

### ユーザ ロールについて

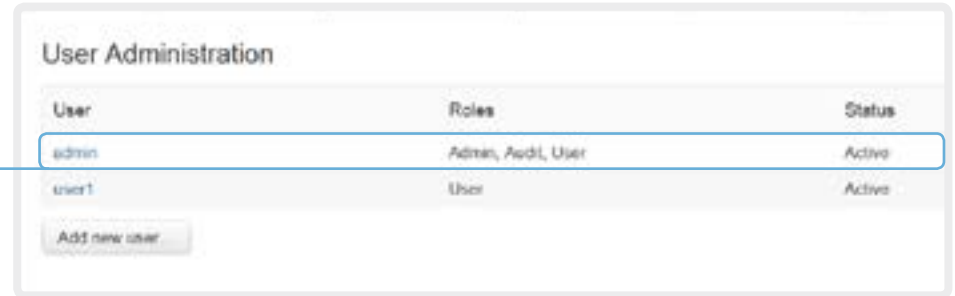
1 つのユーザ アカウントは、1 つのユーザ ロールまたはその複数の組み合わせを保持する必要があります。

権限がオーバーラップしていない、次の 3 つのユーザ ロールが存在します。

- ・ ADMIN: このロールを持つユーザは、新規ユーザの作成および大部分の設定の変更が可能です。このユーザは監査証明書のアップロードもセキュリティ監査設定の変更も行えません。
- ・ USER: このロールを持つユーザはコールの発信と電話帳の検索が可能です。このユーザは呼び出し音量の調整や時刻と日付の表示形式の変更など、いくつかの設定を変更できます。
- ・ AUDIT: このロールを持つユーザは、セキュリティ監査設定の変更および監査証明書のアップロードが可能です。

 フル アクセス権がある管理者ユーザ アカウント (デフォルトの admin ユーザなど) には、3 つのロールが付与されている必要があります。

移動先: [設定 (Configuration)] > [ユーザ管理 (User Administration)]



User	Roles	Status
admin	Admin, Audit, User	Active
user1	User	Active

Below the table is a button labeled "Add new user".

### デフォルトのユーザ アカウント

システムにはデフォルトのユーザ アカウントとして admin が登録されています。このユーザにはフル アクセス権があります。

## ユーザ管理 (2/4 ページ)

### 新しいユーザ アカウントの作成

次の手順に従って、新しいユーザ アカウントを作成します。

1. [新規ユーザを追加 \(Add New User\)](#) を選択します。
2. [ユーザ名 (Username)], [パスワード (Password)], および [PIN コード (PIN code)]\* に入力し、該当するユーザ ロールのチェックボックスをオンにします。

デフォルトでは、ユーザが初めてサインインしたときにパスワードと PIN コードを変更する必要があります。

HTTPS で証明書ログインを使用したい場合以外は、[クライアント証明書 DN (識別名) (Client Certificate DN)] フィールドには入力しないでください。

3. ユーザをアクティブにするには、[ステータス (Status)] を [アクティブ (Active)] に設定します。
4. [ユーザの作成 \(Create User\)](#) をクリックして変更内容を保存します。  
変更を加えないで終了するには、[戻る \(Back\)](#) ボタンを使用します。

移動先: [設定 (Configuration)] > [ユーザ管理 (User Administration)]

The screenshot shows the 'User Administration' page with a table listing users 'admin' and 'user1'. Below the table is a button 'Add new user...'. An arrow points from this button to a detailed 'Add new user' form. The form contains the following fields and options:

- Username: [Text input field]
- Roles:  Admin,  Audit,  User
- Status:  Active,  Inactive
- Client Certificate DN: [Text input field]
- Require password change on next user sign in
- Require PIN change on next user sign in
- Password: [Text input field]
- Repeat Password: [Text input field]
- PIN: [Text input field]
- Repeat PIN: [Text input field]
- Footer text: Used if login required has been enabled on TelePresence device menu
- Bottom button: Create User

\* パスワードは、Web インターフェイスとコマンドライン インターフェイスで使用します。PIN コードは Video OSD LoginRequired 設定を[オン (On)]にした場合に TRC5 リモート コントロールと画面上のメニューで使用します。



## ユーザ管理 (3/4 ページ)

### ユーザ権限の変更

次の手順に従って、ユーザ権限を変更します。

1. 既存のユーザ名をクリックすると、[ユーザの編集 (Editing user)] ウィンドウが開きます。
2. 適切なユーザ ロールのチェックボックスをオンにし、次回サインインするときにユーザがパスワードと PIN コードを変更する必要があるかを指定し、HTTPS で証明書ログインを使用する場合は [クライアント証明書 DN (Client Certificate DN)] フィールドに入力します。
3. [ユーザの更新 (Update User)] をクリックして変更内容を保存します。  
変更を加えないで終了するには、[戻る (Back)] ボタンを使用します。

### パスワードまたは PIN コードの変更

次の手順に従って、パスワードまたは PIN コードを変更します\*。

1. 既存のユーザ名をクリックすると、[ユーザの編集 (Editing user)] ウィンドウが開きます。
2. 新しいパスワードまたは PIN コードを適切な入力フィールドに入力します。
3. [Change Password] または [Change PIN] をクリックして変更内容を保存します。
4. 変更を加えないで終了するには、[戻る (Back)] ボタンを使用します。

\* パスワードは、Web インターフェイスとコマンドライン インターフェイスで使用します。PIN コードは Video OSD LoginRequired 設定を[オン (On)]にした場合にリモート コントロールとオンスクリーン メニューで使用します。

移動先: [設定 (Configuration)] > [ユーザ管理 (User Administration)]

The screenshot shows the 'User Administration' interface. On the left, a table lists users: 'admin' (Admin role) and 'user1' (User role). The 'user1' row is selected, and an arrow points to the 'Editing user: user1' window. This window has a 'Back' button in the top right. It contains the following sections:

- User Privileges:**
  - Roles:  Admin,  Audit,  User
  - Status:  Active,  Inactive
  - Client Certificate DN: [Text input field]
  - Require password change on next user sign in
  - Require PIN change on next user sign in
  - [Update User] button
- Change Password:**
  - Password: [Enter Password] [Text input field]
  - Repeat Password: [Repeat Password] [Text input field]
  - [Change Password] button
- Change PIN:**
  - PIN: [Enter PIN] [Text input field]
  - Repeat PIN: [Repeat PIN] [Text input field]
  - Used if login required has been enabled on TelePresence device menu
  - [Change PIN] button

## ユーザ管理 (4/4 ページ)

### ユーザ アカウントの非アクティブ化

次の手順に従って、ユーザ アカウントを非アクティブにします。

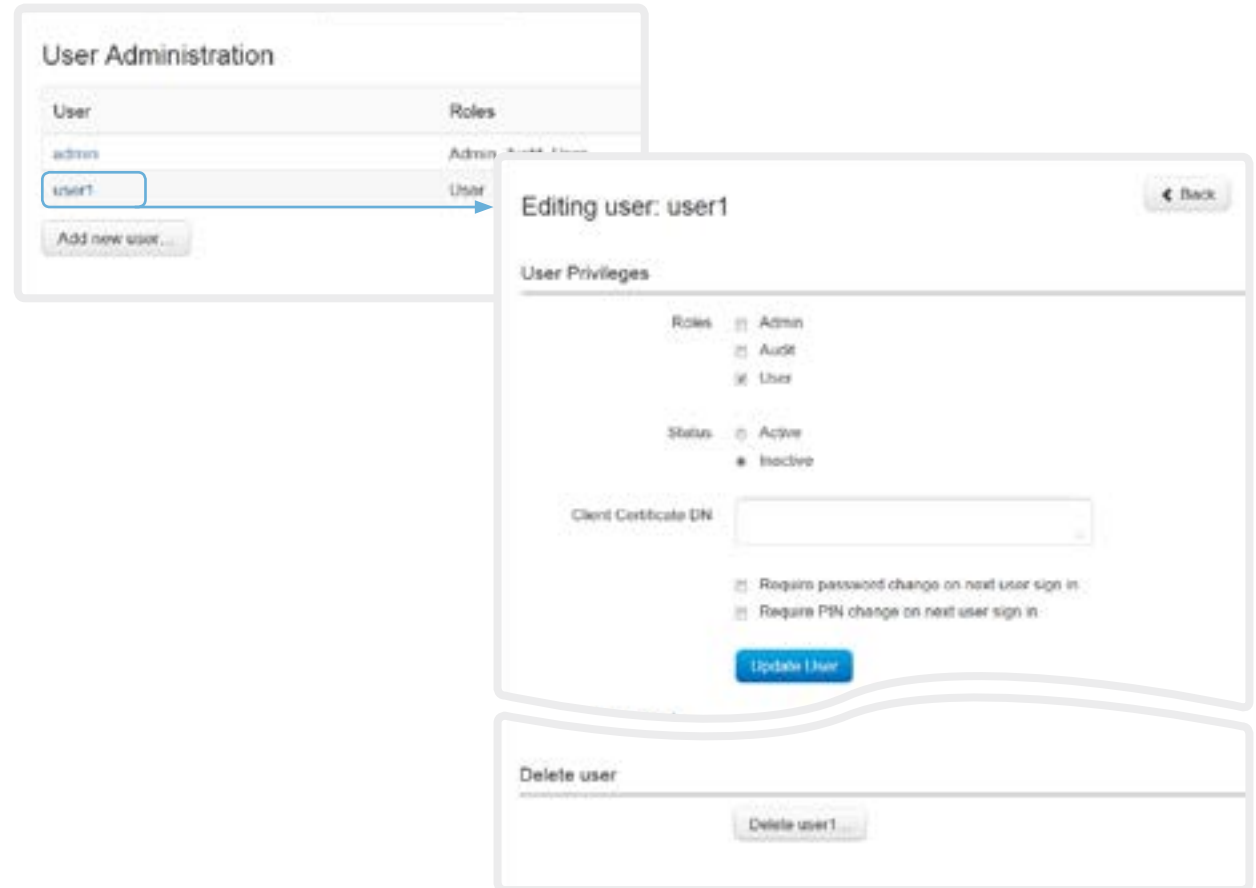
1. 既存のユーザ名をクリックすると、[ユーザの編集 (Editing user)] ウィンドウが開きます。
2. [ステータス (Status)] を [非アクティブ (Inactive)] に設定します。
3. [ユーザの更新 (Update User)] をクリックして変更内容を保存します。  
変更を加えないで終了するには、[戻る (Back)] ボタンを使用します。

### ユーザ アカウントの削除

次の手順に従って、ユーザ アカウントを削除します。

1. 既存のユーザ名をクリックすると、[ユーザの編集 (Editing user)] ウィンドウが開きます。
2. [削除 <ユーザ名>... (Delete <user name>...)] をクリックし、プロンプトが表示されたら確定します。

移動先: [設定 (Configuration)] > [ユーザ管理 (User Administration)]



## サインイン バナーの追加

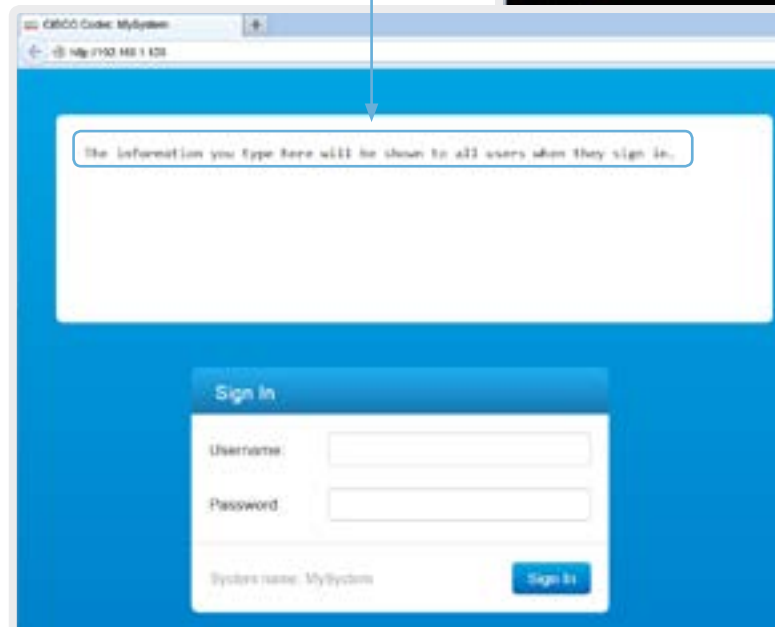
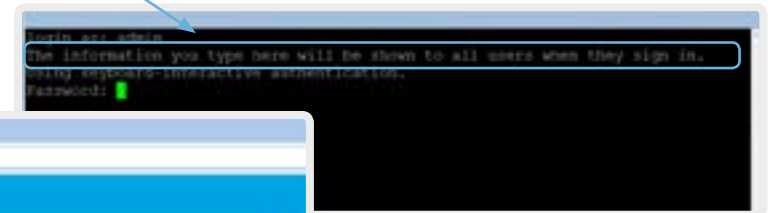
システム管理者がすべてのユーザに初期情報を提供したい場合、サインイン バナーを作成できます。メッセージは、ユーザが Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにサインインすると表示されます。

移動先: [設定 (Configuration)] > [サインイン バナー (Sign In Banner)]



サインイン バナーの追加

ユーザがサインインしたときに表示したいメッセージを入力し、**[保存 (Save)]** をクリックしてバナーをアクティブ化します。



## スタートアップ スクリプトの管理

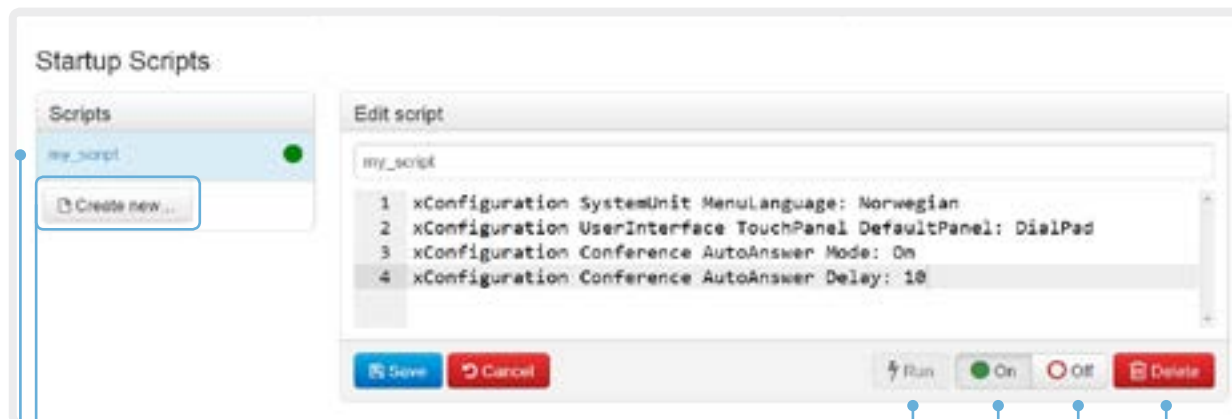
ビデオ システムを開始するときに実行される 1 つまたは複数のスタートアップ スクリプト\*を作成できます。

スタートアップ スクリプトには起動手順の一部として実行されるコマンド (xCommand) および構成 (xConfiguration) が含まれます。xCommand Boot など、いくつかのコマンドと構成はスタートアップ スクリプトに入れることはできません。不正なコマンドや構成が含まれるスクリプトは保存できません。

xCommand および xConfiguration の構文とセマンティックは、製品の API ガイドに説明されています。

複数のスタートアップ スクリプトがある場合は、リストの上から下に順番に実行されます。

移動先: [設定 (Configuration)] > [スタートアップ (Startup Scripts)] スクリプト



### スタートアップ スクリプトの作成

1. [新規作成... (Create new...)] をクリックします。
2. タイトル入力フィールドで入力したスクリプトの名前を入力します。
3. コマンド入力フィールドに出力するコマンドを入力します (xConfiguration または xCommand)。新しい行で各コマンドを開始します。
4. [保存 (Save)] をクリックします。

### スクリプトをすぐに実行する

実行するスクリプトを選択し、[実行 (Run)] をクリックします。

### 起動するたびにスクリプトを実行する

アクティブにするスクリプトを選択し、[オン (On)] をクリックします。

### 起動時にスクリプトを実行しない

非アクティブにするスクリプトを選択し、[オフ (Off)] をクリックします。

### スタートアップ スクリプトのリスト

スタートアップ スクリプトはここに表示されます。緑色の点はアクティブなスクリプトの横に、赤い丸は非アクティブなスクリプトの横に表示されます。

### スクリプトの削除

削除するスクリプトを選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。

\* 図に示しているスクリプト名とコマンドメッセージは一例です。独自のスクリプトを作成できます。

## アプリケーション プログラミング インターフェイス

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、ビデオシステムを使用する統合技術者や開発者を対象としたツールです。API に関する詳細は、システムの API ガイドで説明します。

### XML ファイル

XML ファイルはコーデックの API の一部です。それらはコーデックに関する情報を階層構造で示します。

- Configuration.xml には現在のシステム設定 (コンフィギュレーション) が含まれます。これらの設定は、Web インターフェイスまたは API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) から制御されます。
- status.xml 内の情報は常にシステムによって更新され、システムおよびプロセスの変更が反映されます。ステータス情報は通常、API から監視されます。
- Command.xml にはアクションの実行をシステムに指示するために使用できるコマンドの概要が含まれます。コマンドは、API から発行されます。
- Valuespace.xml にはシステム設定、ステータス情報、およびコマンドで使用されるすべての値スペースの概要が含まれます。

### API コマンド

コマンド (xCommand) と構成 (xConfiguration) はこの Web ページから実行できます。構文とセマンティックは、製品の API ガイドに説明されています。

移動先: [設定 (Configuration)] > [API]

**API**

**XML API**

The XML files below are a part of the codec's API, and can be used by external services to inspect the state and configuration of the codec. The files are protected using Basic Authentication, thus you may be prompted for a user name and password.

File Name	Description
configuration.xml	Configuration settings
status.xml	Endpoint status parameters
command.xml	Available API commands
valuespace.xml	Value spaces of the XML files

**Execute API commands and configurations**

In the field below you can enter API commands (xCommand and xConfiguration) directly.

For example: xCommand Dial Number: "person@exampl.com" Protocol: Sip

Enter commands:

Execute

XML ファイルを開く

XML ファイルを開くにはファイル名をクリックします。

API コマンドを実行する

コマンドまたは連続するコマンドをテキスト領域に入力し、[実行 (Execute)] をクリックしてコマンドを発行します。

## ビデオ システムの証明書の管理

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信をセットアップする前に、ビデオ システムからサーバまたはクライアントに有効な証明書を提示する必要がある場合があります。

ビデオ システムの証明書は、システムの信頼性を確認するテキスト ファイルです。これらの証明書は、認証局 (CA) によって発行される場合があります。

証明書は右の図に示すとおりに一覧表示されます。\*これらは HTTPS サーバ、SIP、IEEE 802.1X および監査ログのサービスで使用できます。

システムには複数の証明書を保存できますが、各サービスで一度に使用できる証明書は 1 つだけです。

認証が失敗した場合、接続は確立されません。

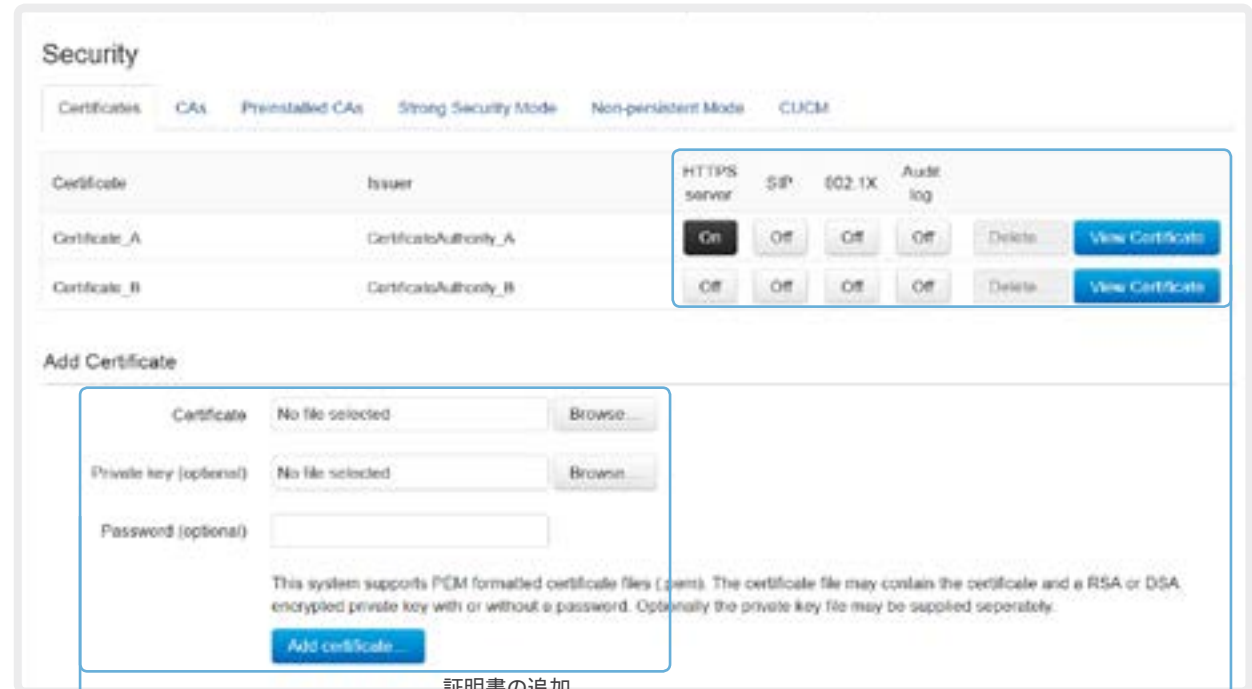


次のファイルを取得するには、システム管理者に連絡します。

- 証明書 (ファイル形式: .PEM)
- 個別のファイルとして、または証明書と同じファイルに含まれる秘密キー (ファイル形式: .PEM 形式)
- パスワード (秘密キーが暗号化されている場合にのみ必要)

証明書と秘密キーは、ビデオ システムの同じファイル内に保存されます。

移動先: [設定 (Configuration)] > [セキュリティ (Security)]: [証明書 (Certificates)] タブ



証明書の追加

1. [参照... (Browse...)] をクリックしてコンピュータ上の証明書および秘密キー ファイルを探します。
2. 必要な場合には [パスワード (Password)] に入力します。
3. [監査証明書の追加... (Add audit certificate...)] をクリックして、証明書をシステムに保存します。

### 証明書の有効化と無効化

ボタンを使用して、各種のサービスに対して証明書をオンまたはオフに切り替えます。

また、証明書の表示および証明書の削除には、それぞれ対応するボタンを使用します。

\* 図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのシステムの証明書とは異なる場合があります。

## 信頼できる認証局のリストの管理

1/2 ページ

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信をセットアップする前に、サーバまたはクライアントからシステムに証明書を提示することを要求するようにビデオ システムを設定できます。

証明書は、サーバまたはクライアントの信頼性を確認するテキストファイルです。証明書は、信頼できる認証局 (CA) によって署名されている必要があります。

証明書の署名を検証するためには、信頼できる CA のリストがビデオ システムに存在する必要があります。CA の証明書は右の図に示すとおりに一覧表示されます。\*

リストには、監査ログ、HTTPS、SIP および IEEE 802.1X 接続用の証明書を検証するために必要なすべての CA を含める必要があります。

サーバを認証できない場合、接続は確立されません。

移動先: [設定 (Configuration)] > [セキュリティ (Security)]: [CA] タブ



認証局リストのアップロード

証明書の表示と削除



CA 証明書を含む新しいファイル内のエントリが既存のリストに追加されます。したがって、以前に保存した証明書は削除されません。

証明書の表示および証明書の削除には、それぞれ対応するボタンを使用します。

- i. [\[参照... \(Browse...\)\]](#) をクリックして、お使いのコンピュータで CA 証明書のリストを含むファイル (ファイル形式: .PEM) を探します。
- ii. [\[証明書の追加... \(Add certificate authority...\)\]](#) をクリックして、新しい CA 証明書をシステムに保存します。



CA 証明書リスト (ファイル形式: .PEM) を取得するには、システム管理者に連絡します。

\* 図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのシステムの証明書とは異なる場合があります。

## 信頼できる認証局のリストの管理 (2/2 ページ)

**i** ソフトウェア バージョン TC7.2 より、監査サーバのシグネチャは他のサーバ/クライアントと同じ CA リストを使用して検証されます。

### 安全な監査ロギングのセットアップ

監査ログには、ビデオ システム上のすべてのサインイン アクティビティと設定の変更が記録されます。

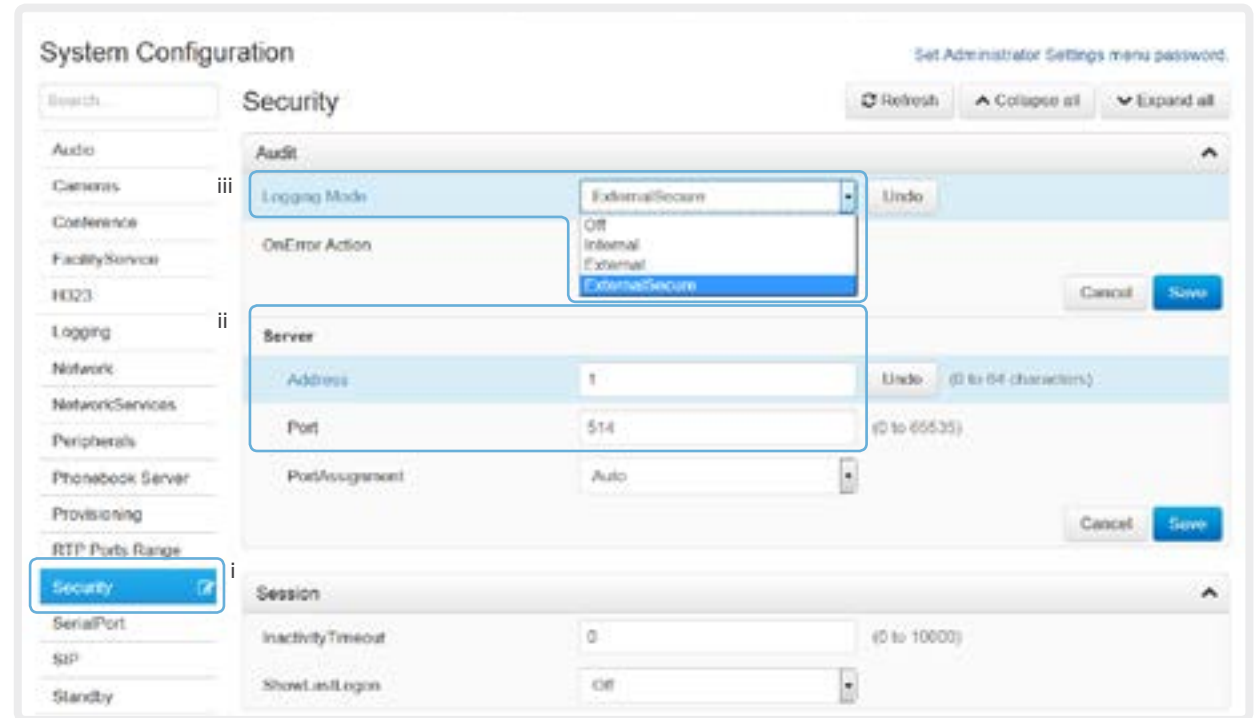
監査ログはデフォルトでは無効ですが、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) > [\[監査 \(Audit\)\]](#) > [\[ロギング \(Logging\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) を使用して有効にできます。

ExternalSecure 監査ログ モードでは、ビデオ システムは暗号化された監査ログを外部監査サーバ (syslogサーバ) に送信します。そのサーバの ID は署名された証明書によって検証される必要があります。

監査サーバを認証できない場合、ログは送信されません。

**!** セキュア監査ログを有効にする前に、常に信頼できる認証局のリストをアップロードしてください。

移動先: [\[設定 \(Configuration\)\]](#) > [\[セキュリティ \(Security\)\]](#): [\[CA\]](#) タブ / [\[設定 \(Configuration\)\]](#) > [\[システム設定 \(System Configuration\)\]](#)



### セキュア監査ログの有効化

- i. [\[システム設定 \(System Configuration\)\]](#) ページに移動し、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) カテゴリを選択します。
- ii. 監査サーバの [\[アドレス \(Address\)\]](#) を入力します。[\[ポート割り当て \(PortAssignment\)\]](#) で [\[手動 \(Manual\)\]](#) を選択した場合、監査サーバの [\[ポート \(Port\)\]](#) 番号も入力する必要があります。[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
- iii. [\[ロギング モード \(Logging Mode\)\]](#) ドロップダウン リストから [\[外部セキュア \(ExternalSecure\)\]](#) を選択します。[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。



## プリインストールされた Edge プロビジョニングの証明書の管理

Web インターフェイスで、このページに表示されるプリインストールされた証明書のリスト<sup>\*</sup>には、Expressway (Edge) 経由の Cisco Unified Communications Manager (CUCM) によりビデオ システムがプロビジョニングされる場合に使用する証明書が含まれます。Edge インフラストラクチャの証明書だけがこのリストに対して検証されます。

Edge インフラストラクチャの証明書の検証が失敗すると、ビデオ システムはプロビジョニングを受け取らず、登録されません。

ビデオ システムを初期化しても、プリインストールされた証明書のリストは削除されません。

移動先: [設定 (Configuration)] > [セキュリティ (Security)]:[プリインストールされた CA (Preinstalled CAs)] タブ

**Security**

Certificates CAs **Preinstalled CAs** Strong Security Mode Non-persistent Mode CUCM

This CA list is used for Cisco UCM via Expressway (Edge) provisioning only.

Configure provisioning now.

These certificates are used to validate the servers contacted over the internet when the endpoint uses UCM via Expressway provisioning. The certificates can be enabled and disabled individually, or all of them at once using the "Disable All/Enable All" button. Note that this button only affects the certificates listed on this page. Certificates and certificate authorities uploaded globally on the system are not affected.

Certificate	Issuer	Details...	✓	Disable
Certificate_01	Issuer_1	Details...	✓	Disable
Certificate_02	Issuer_2	Details...	✓	Disable
Certificate_03	Issuer_3	Details...	✓	Disable

Disable All

### 証明書の表示または無効化

証明書の表示および証明書の無効化には、それぞれ対応するボタンを使用します。

プリインストールされたすべての証明書を無効化にして、代わりに手動でアップロードした証明書のリストを検証に使用できます。信頼できる証明書を手動でビデオ システムにアップロードする方法は、[\[設定 \(Configuration\)\] > \[セキュリティ \(Security\)\]:\[CA\]](#) ページで確認できます。

<sup>\*</sup> 図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのシステムの証明書とは異なる場合があります。

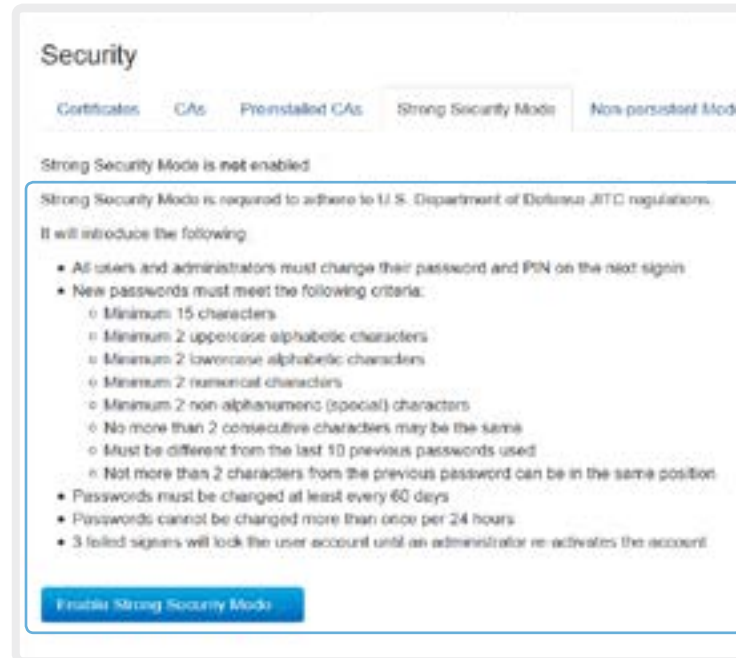
## 強力なセキュリティ モードの設定

強力なセキュリティ モードは、DoD JITC への準拠が必要な場合にのみ使用する必要があります。

**!** 強力なセキュリティ モードを設定する前に、表示される情報をよく確認してください。

強力なセキュリティ モードでは非常に厳格なパスワード要件が設定され、すべてのユーザが次のサインイン時にパスワードを変更することを要求します。

移動先: [設定 (Configuration)] > [セキュリティ (Security)] : [強力なセキュリティ モード (Strong Security Mode)] タブ



### 強力なセキュリティ モードの設定

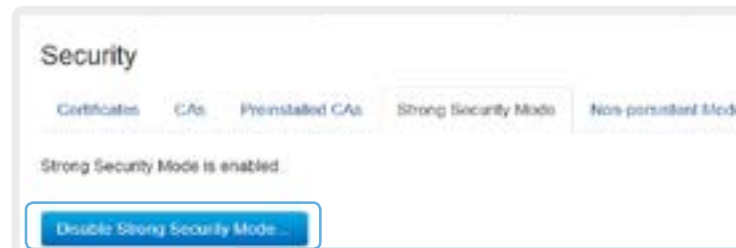
続行する前に、強力なセキュリティ モードによる影響について注意してお読みください。

1. 強力なセキュリティ モードを使用する場合は、[\[強力なセキュリティ モードの有効化... \(Enable strong security mode...\)\]](#) をクリックします。表示されるダイアログボックスで選択内容を確認します。

システムが自動的に再起動します。

2. プロンプトが表示されたら、パスワードを変更します。新しいパスワードは説明に従って厳格な基準を満たす必要があります。

システム [パスワードの変更方法](#)については、▶「[パスワードの設定](#)」の項で説明します。



### 通常モードに戻る

強力なセキュリティ モードのときは、[\[強力なセキュリティ モードの無効化... \(Disable strong security mode...\)\]](#) をクリックすることにより、システムを通常モードに復元できます。表示されるダイアログ ボックスで選択内容を確認します。

システムが自動的に再起動します。

## 永続モードの変更

デフォルトでは、すべての永続設定は [永続 (Persistent)] に設定されます。つまり、設定、コール履歴、内部ログ、ローカル電話帳/お気に入りリスト、IP 接続情報が通常どおり保存されます。システムを再起動しても情報は削除されません。

原則として、永続のデフォルト設定を変更しないことを推奨します。ただし、以前のセッションでロギングされたすべての情報の表示またはトレースをユーザに許可しない場合は、[非永続 (Non-persistent)] モードを使用する必要があります。

**i** [非永続 (Non-persistent)] モードに変更する前に保存された情報を消去/削除するには、ビデオ システムの初期化が必要となります。

初期化に関する詳細情報は、付録の▶ **「初期化」** を参照してください。

[非永続 (Non-persistent)] モードのときは、システムを起動するたびに次の情報は削除/消去されます。

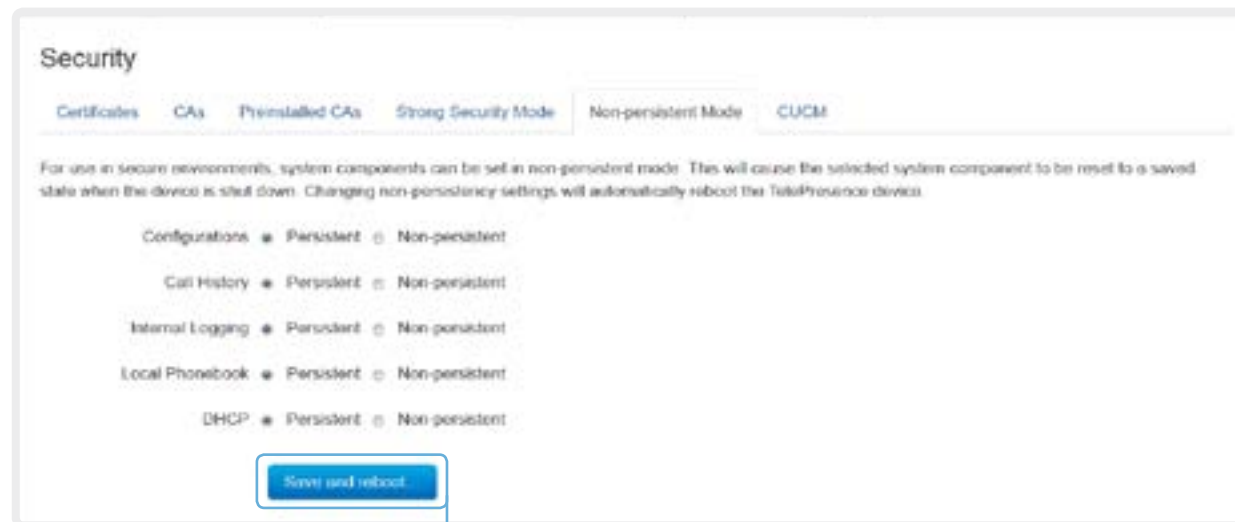
- 最後の再起動以降に行ったシステム設定の変更。
- 最後の再起動以降に行った発信または受信コールに関する情報 (通話履歴)。
- 最後の再起動以降に作成された内部ログ ファイル システム。
- 最後の再起動以降に行ったローカルの連絡先/お気に入りリストの変更。
- 前回のセッション以降のすべての IP 関連情報 (DHCP)。

### 永続状態の確認

[セキュリティ (Security)] ページを開き、[非永続モード (Non-persistent Mode)] タブに移動すると、アクティブなオプションボタンにビデオ システムの現在の永続状態が表示されます。

また、[設定 (Configuration)] > [システム ステータス (System Status)] ページで [セキュリティ (Security)] > [永続 (Persistence)] を表示し、状態を確認することもできます。

移動先: [設定 (Configuration)] > [セキュリティ (Security)] : [非永続モード (Non-persistent Mode)] タブ



### 永続設定の変更

- 必要に応じて 5 つのカテゴリで永続設定を設定します。
- [保存して再起動... (Save and reboot...)] をクリックします。

システムが再起動します。再起動後に、新しい永続設定に従った動作が開始されます。

非永続モードに切り替える前に保存されたログや構成などは、消去または削除されないことに注意してください。

## 信頼リストの削除 (CUCM のみ)

このページの情報は、Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されているビデオ システムにのみ関連します。

Web インターフェイスはビデオ システムに保存された既存の信頼リスト (CTL および ITL) を削除するために使用できます。通常、古い CTL および ITL ファイルは削除しませんが、いくつかの場合に削除する必要があります。

信頼リストのフィンガープリントとリストの証明書の概要は、Web ページに表示されます。この情報は、トラブルシューティングに役立ちます。

CUCM および信頼リストに関する詳細情報は、シスコの Web サイトにある『Administering TC Endpoints on CUCM』ガイドをお読みください。

移動先: [設定 (Configuration)] > [セキュリティ (Security)]: [CUCM] タブ

The screenshot shows the 'Security' configuration page for CUCM. The 'Certificates' tab is selected. The table below shows the following data:

Certificate	Issuer	HTTPS server	SIP	SIP	SIP	SIP	Audit log
Certificate_A	CertificateAuthority_A	On	Off	Off	Off	Off	Delete View Certificate
Certificate_B	CertificateAuthority_B	Off	Off	Off	Off	Off	Delete View Certificate

Below the table is the 'Add Certificate' section, which includes two input fields: 'Certificate' (with 'No file selected' and a 'Browse...' button) and 'Private key (optional)' (with 'No file selected' and a 'Browse...' button).

## トラブルシューティング

[トラブルシューティング (Troubleshooting)] ページには、エラーの一般的な原因に関するステータスが示されます。このリストは製品およびインストールによって異なる場合があります。\*

重大な問題やエラーは赤、警告は黄色で明確に示されていることに注意してください。

移動先: [診断 (Diagnostics)] > [トラブルシューティング (Troubleshooting)]

### 診断の実行

[[診断の再実行 \(Re-run diagnostics\)](#)] をクリックして、リスト内の情報を最新の状態にします。

### スタンバイ モードを離れる

このボタンは、システムがスタンバイモードのときにだけ表示されます。スタンバイモードで [[スタンドバイの非アクティブ化 \(Deactivate standby\)](#)] をクリックして、システムを復帰させます。

**Troubleshooting** Deactivate standby Re-run diagnostics

Diagnostics that helps to identify issues that may cause the TelePresence system to underperform or fail to work as expected.

**CRITICAL: Passwords**  
There is one or more users without a password set. Please set a password for all users.

**WARNING: System Name**  
This system has not been configured with a name. Please configure a system name. Note that changing the name of the system requires a reboot.

**OK: System Temperature**  
The system is running at an acceptable temperature.

**OK: Do not disturb mode**  
Do not disturb mode is currently in timed mode.

**OK: Standby Control**  
The system goes into standby automatically after 30 minutes. Standby can be configured through the standby configuration.

**Not Applicable: H.323 Gateway Status**

**Not Applicable: S/NH Link compatibility**

\* 図に示しているメッセージは一例です。お使いのシステムでは表示される情報が異なる場合があります。

## ログ ファイルのダウンロード

ログ ファイル\* は、技術サポートが必要な場合にシスコのサポート組織によって要求される可能性があるシスコ固有のデバッグ ファイルです。

Current log ファイルはタイムスタンプ付きのイベント ログ ファイルです。

すべての Current log ファイルは、システムを再起動するたびにタイムスタンプ付きの Historical log ファイルにアーカイブされません。履歴ログファイルの最大数に到達すると、最も古いファイルは上書きされます。

移動先: [診断 (Diagnostics)] > [ログ ファイル (Log Files)]

### すべてのログファイルのダウンロード

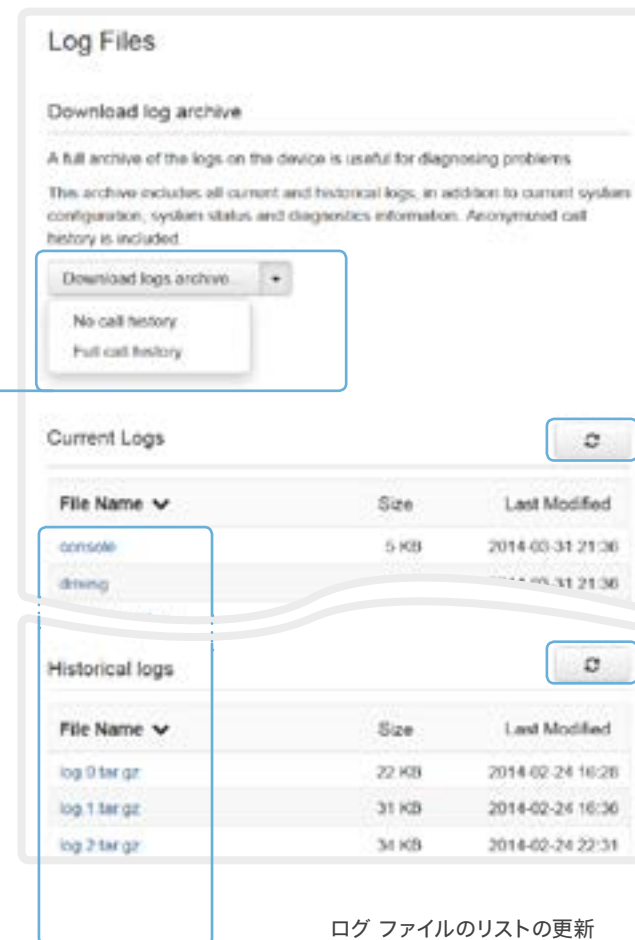
[[ログアーカイブのダウンロード \(Download logs archive\)](#)] をクリックして、手順に従います。

匿名化された通話履歴はログ ファイルにデフォルトで含まれています。

ログ ファイルから通話履歴を除外する場合や、完全な通話履歴 (匿名以外の発信側/着信側) を含める場合は、ドロップダウン リストを使用します。

### 1 つのログファイルを開く/保存

ログ ファイルを開くには Web ブラウザでファイル名をクリックし、ファイルをコンピュータに保存するにはファイル名を右クリックします。



ログ ファイルのリストの更新

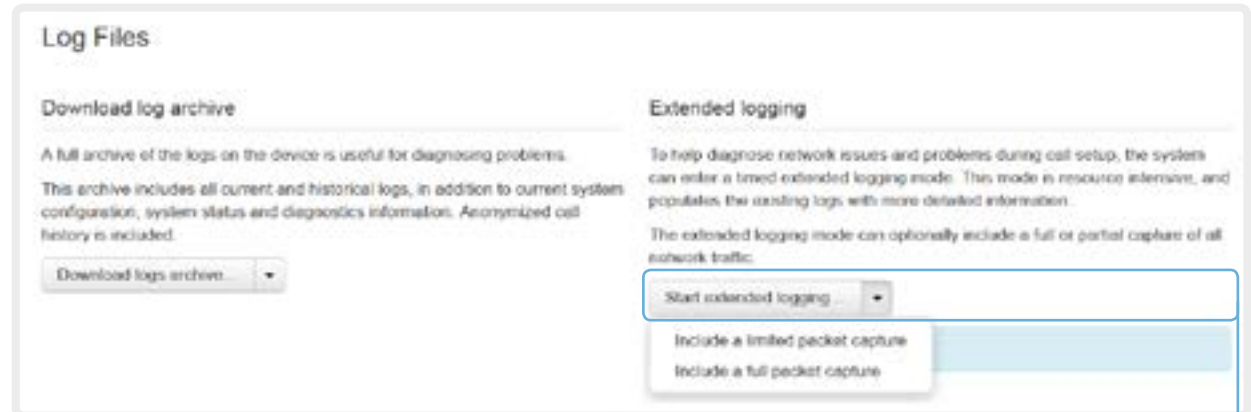
\* 図に示しているログ ファイルは一例です。お使いのシステムには他のファイルがある場合があります。

## 拡張ロギングの開始

拡張ロギング モードをオンにすると、コールのセットアップ中にネットワークの問題の診断に役立つ場合があります。このモードの間は、より多くの情報がログ ファイルに保存されます。

拡張ロギングはビデオ システムのリソースをより多く使用するため、ビデオ システムの動作が標準を下回る場合があることに注意してください。拡張ロギング モードは問題のトラブルシューティング時のみに使用すべきです。

移動先: [診断 (Diagnostics)] > [ログ ファイル (Log Files)]



### 拡張ロギングの開始

[[拡張ロギングの開始 \(Start extended logging\)](#)] をクリックします。

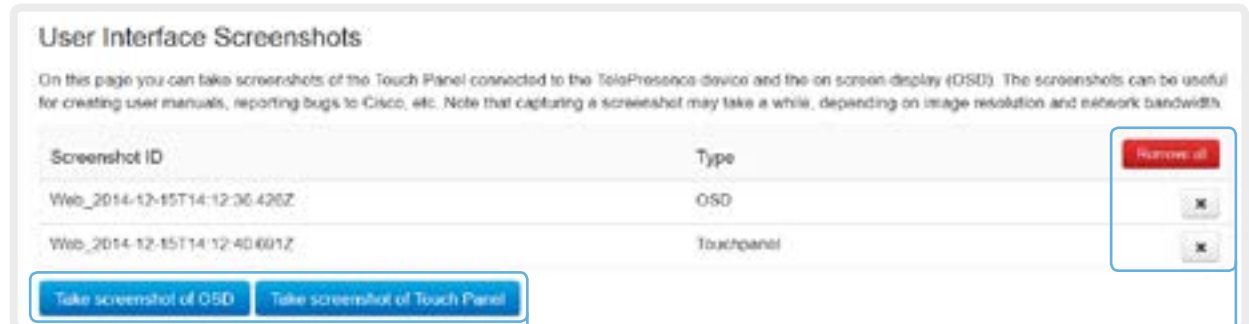
拡張ロギングは 10 分間続きます。タイムアウトする前に、拡張ロギングがオンのときに表示される [[拡張ロギングの停止 \(Stop extended logging\)](#)] ボタンをクリックして拡張ロギングを停止する必要があります。

デフォルトとして、ネットワーク トラフィックはキャプチャされません。ネットワーク トラフィックの全部または一部のキャプチャを含めるには、ドロップダウン メニューを使用します。

## ユーザ インタフェースのスクリーンショットのキャプチャ

ビデオ システムに接続されたタッチ コントローラと、画面上の表示 (メイン ディスプレイのメニュー、インジケータ、メッセージ) の両方のスクリーンショットをキャプチャできます。

移動先: [診断 (Diagnostics)] > [ユーザ インタフェースのスクリーンショット (User Interface Screenshots)]



### スクリーンショットのキャプチャ

[[タッチ パネルのスクリーンショットを撮る \(Take screenshot of Touch Panel\)](#)] をクリックし、タッチ コントローラのスクリーンショットをキャプチャするか、[[OSD のスクリーンショットを撮る \(Take screenshot of OSD\)](#)] をクリックして画面上の表示のスクリーンショットをキャプチャします。

スクリーンショットはボタンの下の領域に表示されます。スクリーンショットの準備ができるまで 30 秒かかることに注意してください。

キャプチャされたすべてのスナップショットはボタンの上のリストに含まれています。スクリーンショット ID をクリックして、イメージを表示します。

### スクリーンショットの削除

すべてのスクリーンショットを削除する場合は、[[すべて削除 \(Remove all\)](#)] をクリックします。

1 つのスクリーンショットのみを削除するには、そのスクリーンショットの  ボタンをクリックします。



## システム ソフトウェアのアップグレード

このビデオ会議システムは TC ソフトウェアを使用しています。このドキュメントに記載されているバージョンは、TC7.3 です。

**i** ソフトウェアのバージョンに関する質問はシステム管理者に問い合わせてください。

### ソフトウェア リリース ノート

新情報および変更のすべての概要については、ソフトウェア リリース ノート (TC7) を読むことを推奨します。

参照先: ▶ <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/tsd-products-support-series-home.html>

### 新しいソフトウェア

ソフトウェアをダウンロードするには、Cisco Download Software Web ページ (▶ <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html>) に移動します。次に、お使いの製品に移動します。

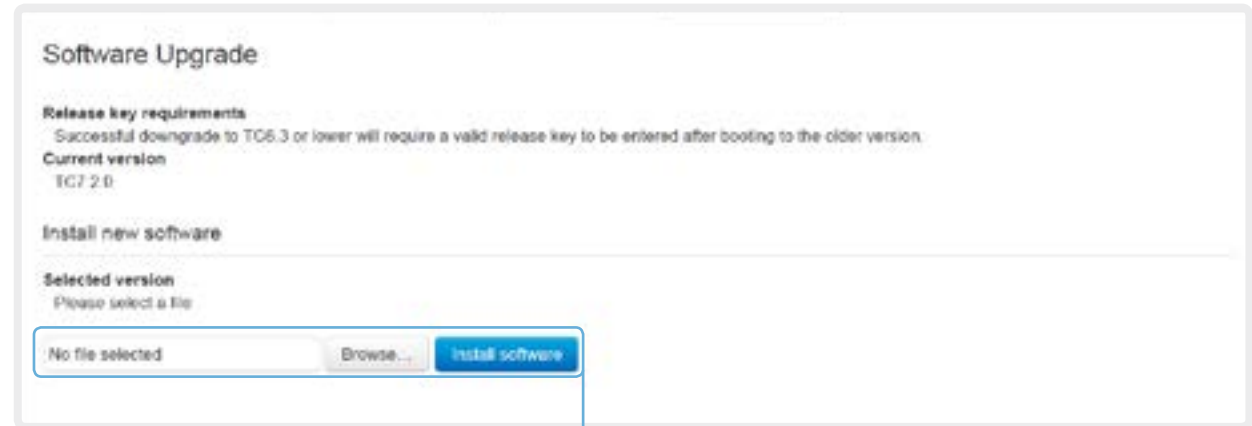
ファイル名の形式は「s52010tc7\_3\_0.pkg」です (各ソフトウェア バージョンに一意のファイル名があります)。

### リリース キー

ビデオ システムを使用するには有効なリリース キーが必要です。バージョン TC6.1 からは、どの TC リリース キーも使用可能です。これよりも古いリリースの場合、リリース キーは各メイン リリース固有です (例: TC4、TC5、TC6 など)。

通常、リリース キーをユーザ自身がインストールする必要はありません。リリース キーは、以前のバージョンのソフトウェアからアップグレードする際に保存され、新しいシステムにプレインストールされます。TC7.0 以降、Web インターフェイスからリリース キーを入力する必要がなくなりました。

移動先: [メンテナンス (Maintenance)] > [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrade)]



### 新しいソフトウェアのインストール

Cisco Download Software Web ページ (左のリンク参照) から適切なソフトウェア パッケージをダウンロードして、ローカル コンピュータに格納します。これは .pkg ファイルです。

- i. [参照... (Browse...)] をクリックして、新しいソフトウェアを含むダウンロードされた .pkg ファイルを探します。
- ii. [インストール (Install)] をクリックして、インストール プロセスを開始します。

インストールの完了には最長で 30 分ほどかかる場合があります。Web ページから進捗状況を確認できます。インストール後、システムは自動的に再起動します。

**i** 再起動後に Web インターフェイスで作業を再開するには、再度サインインする必要があります。

## オプション キーの追加

ビデオ システムには、1 つ以上のソフトウェア オプションがインストールされている場合、またはインストールされていない場合があります。オプションの機能をアクティブするには、対応するオプション キーがビデオ システムに存在する必要があります。

オプション キーは、ソフトウェアのアップグレードまたは出荷時の状態にリセットしても削除されないため、一度追加するだけで済みます。

**i** 各ビデオ システムには 1R000-1-AA7A4A09 などの一意のオプション キーがあります。

使用可能なオプション キーの詳細や必要なキーの取得方法については、シスコ担当者にお問い合わせください。

移動先: [メンテナンス (Maintenance)] > [オプション キー (Option keys)]

**Option Keys**

Contact your TelePresence representative to obtain information about available option keys. You need to provide the serial number to get option keys.

**Serial number**

—

**Installed options**

PremiumResolution

Option key

### オプション キーの追加

- i. 適切なテキスト入力フィールドにオプション キーを入力します。
- ii. [オプション キーの追加 (Add option key)] をクリックします。

オプション キーを複数追加する場合は、すべてのキーに対してこの手順を繰り返してください。

## バックアップと復元

[システム設定 (System configuration)] ページで使用可能なすべてのシステム設定は、画面上に一覧表示するか、テキスト ファイルとして保存できます。

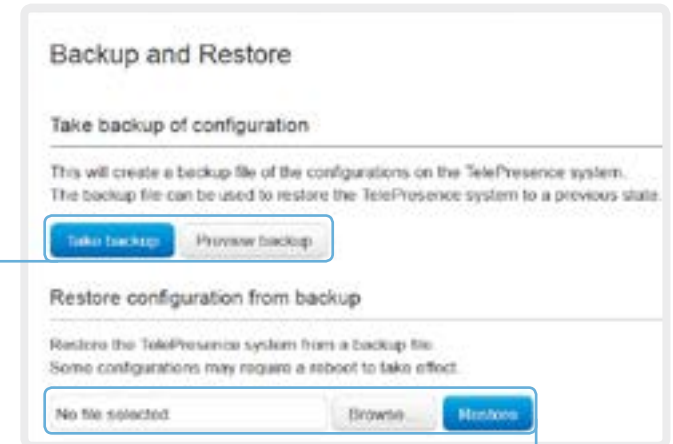
テキスト ファイルをシステムに再度ロードして設定を復元できます。

移動先: [メンテナンス (Maintenance)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)]

### 現在の設定のバックアップまたは表示

現在の設定を画面上に表示するには、[バックアップのプレビュー (Preview backup)] をクリックします。

設定をテキスト ファイルとして保存するには、[バックアップを取る (Take backup)] をクリックします。



### 以前の設定の復元

[参照... (Browse...)] をクリックし、復元したい設定を含むファイルを探します。

システムをファイルで定義されているとおりに再設定するには、[復元 (Restore)] をクリックします。

## 以前に使用していたソフトウェア バージョンへの復元

ビデオ システムに重大な問題がある場合は、これまで使用していたソフトウェア バージョンに切り替えることにより問題の解決に役立つ場合があります。

ソフトウェアを最後にアップグレードしてからシステムを初期化していない場合は、これまで使用したソフトウェア イメージがシステムに存在しています。ソフトウェアをダウンロードする必要はありません。

以前使用していたソフトウェア バージョンへの復元は、システム管理者が行うか、シスコのテクニカル サポートにお問い合わせいただくことによるのみ行われます。

他のソフトウェア イメージにスワップする前に、システムのログ ファイルと設定をバックアップすることを強く推奨します。

移動先: [メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] : [バックアップ (Backup)] タブおよび [ソフトウェア リカバリのスワップ (Software Recovery Swap)] タブ



### 1. ログ ファイルとシステム設定のバックアップ

他のソフトウェア イメージにスワップする前に、システムのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

[[ログのダウンロード \(Download Logs\)](#)] と [[設定のバックアップをダウンロード \(Download Configuration Backup\)](#)] をクリックし、手順に従ってファイルをコンピュータに保存します。

### 2. 以前に使用していたソフトウェア バージョンへの復元

- [[ソフトウェア TCx.y.z... への切り替え \(Switch to software TCx.y.z...\)](#)] をクリックして以前使用していたソフトウェア バージョンに戻します。x.y.z はソフトウェアのバージョンを示します。
- [[はい \(Yes\)](#)] をクリックして選択を確定するか、 [[キャンセル \(Cancel\)](#)] をクリックして操作を取り止めます。

システムがリセットされるまでお待ちください。終了するとシステムは自動的に再起動します。

## 初期設定へのリセット

ビデオ システムに重大な問題が発生した場合、最後の手段として初期化できます。初期化する前に、以前使用したソフトウェア イメージに戻すことを常に検討してください。多くの場合、これによりシステムがリカバリされます。\*

初期設定へのリセットは、システム管理者が行うか、シスコのテクニカル サポートにお問い合わせいただく必要があります。

ビデオ システムを初期化すると、以下のことが起きます。

- 通話履歴が削除されます。
- パスワードがデフォルト値にリセットされます。
- すべてのシステム パラメータがデフォルト値にリセットされます。
- システムにアップロードされていたファイルは、すべて削除されます。これには、カスタムの壁紙、証明書、およびお気に入りリスト（個人アドレス帳）が含まれ、またこれに限定されません。
- 以前の（非アクティブな）ソフトウェア イメージが削除されます。
- オプション キーおよびリリース キーは影響を受けません。

システムはリセット後に自動的に再起動されます。これは、以前と同じソフトウェア イメージを使用しています。

初期化する前に、システムのログ ファイルおよび設定をバックアップすることをお勧めします。



初期化すると、元に戻すことはできません。

初期化に関する詳細情報は、付録の▶「初期化」を参照してください。

移動先: [メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] : [バックアップ (Backup)] タブおよび [工場出荷時状態へのリセット (Factory Reset)] タブ

**System Recovery**

In order to recover the system when experiencing a severe issue, a Software Recovery Swap or a Factory Reset can be performed. These recovery methods should only be attempted by a system administrator or in contact with Cisco technical support. The preferred recovery method is to perform a Software Recovery Swap and Factory Reset as last resort.

Backup Software Recovery Swap Factory Reset Remote Support User

A factory reset deletes all logs and system configurations. Please consider taking a backup of logs and the system's configuration. The log files may be useful to help Cisco technical support identify the issues you may be experiencing. The configuration backup may restore the device configurations back to the current settings.

Download Logs Download Configuration Backup

Backup Software Recovery Swap Factory Reset Remote Support User

This will reset the TelePresence device to factory default settings, followed by an automatic reboot of the TelePresence device.

- The call logs will be deleted.
- All system parameters will be reset to default values.
- All files that have been uploaded to the TelePresence device will be deleted. This includes, but are not limited to, custom backgrounds, ring tones, certificates, and the local phonebook.
- Release keys and option keys will not be affected.
- Any alternate software images will be deleted.

Warning: A factory reset cannot be undone

Perform a factory reset

### 1. ログ ファイルとシステム設定のバックアップ

初期化する前に、システムのログ ファイルおよび設定をバックアップすることをお勧めします。バックアップしない場合はデータが失われます。

[ログのダウンロード (Download Logs)] と [設定のバックアップをダウンロード (Download Configuration Backup)] をクリックし、手順に従ってファイルをコンピュータに保存します。

### 2. 初期化

表示された情報をよく確認してから、[初期化 (Perform a factory reset...)] をクリックします。

[はい (Yes)] をクリックして選択を確定するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックして操作を取り止めます。

システムがリセットされるまでお待ちください。終了するとシステムは自動的に再起動します。

\* ソフトウェアの交換については、▶「以前に使用していたソフトウェアバージョンへの復元」の項を参照してください。

## リモート サポート ユーザ

ビデオ システムに診断の問題がある場合は、リモート サポート ユーザを作成できます。

リモート サポート ユーザにはシステムへの読み取りアクセス権が付与され、トラブルシューティングに役立つ限定された一連のコマンドにアクセスできます。

リモート サポート ユーザのパスワードを取得するには、Cisco Technical Assistance Center (TAC) アシスタントが必要です。



リモート サポート ユーザは、Cisco TAC によって指示されたトラブルシューティングを行う場合にのみ有効にする必要があります。

移動先:[メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] : [リモート サポートユーザ (Remote Support User)] タブ

### リモート サポート ユーザの作成

1. Cisco TAC でケースをオープンします。
2. [\[ユーザの作成 \(Create User\)\]](#) をクリックします。
3. [\[トークン \(Token\)\]](#) フィールドのテキストをコピーし、Cisco TAC に送信します。
4. Cisco TAC はパスワードを生成します。

リモート サポート ユーザは 7 日間、または削除されるまで有効です。

### リモート サポート ユーザの削除

[\[ユーザの削除 \(Delete User\)\]](#) をクリックします。


## システムの再起動

システムは、Web インターフェイスを使用して、リモートでシャットダウンまたは再起動が可能です。

移動先: [メンテナンス (Maintenance)] > [再起動 (Restart)]

### システムの再起動


システムを再起動するには、[TelePresence デバイスの再起動... (Restart TelePresence device...)] をクリックします。

 システムが使用可能になるまでに、数分かかります。



### システムのシャットダウン

[TelePresence デバイスのシャットダウン... (Shutdown TelePresence device...)] をクリックしてシステムをシャットダウンします。

 システムはリモートで再びオンにすることはできません。電源ボタンを物理的に押して、電源をオンにします。



## 第 3 章

# システム設定



## システム設定の概要

続くページに、Web インターフェイスの [システム設定 (System Configuration) ] ページで設定されるシステム設定の完全なリストを示します。例では、デフォルト値または値の例のいずれかを示します。

Web ブラウザを開き、ビデオ システムの IP アドレスを入力して、サインインします。

**i** IP アドレス (IPv4 または Ipv6) を見つけるには、タッチ コントローラの [設定 (Settings) ]\* メニューを開き、[システム情報 (System Information) ] をタップします。または、リモコンとオンスクリーン メニューを使用している場合は、[ホーム (Home) ] > [設定 (Settings) ] > [システム情報 (System information) ] と移動します。

音声設定 .....	60	Conference [1..1] DefaultCall Rate .....	68
Audio Input HDMI [1] Mode.....	60	Conference [1..1] DoNotDisturb DefaultTimeout.....	67
Audio Input Line [1] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo60		Conference [1..1] DoNotDisturb Mode.....	67
Audio Input Line [1] VideoAssociation VideoInputSource ....	60	Conference [1..1] Encryption Mode .....	67
Audio Input Microphone [1..2] EchoControl Dereverberation61		Conference [1..1] FarEndControl Mode .....	67
Audio Input Microphone [1..2] EchoControl Mode.....	60	Conference [1..1] FarEndControl SignalCapability .....	67
Audio Input Microphone [1..2] EchoControl NoiseReduction61		Conference [1..1] IncomingMultisiteCall Mode .....	70
Audio Input Microphone [1..2] Level .....	61	Conference [1..1] MaxReceiveCallRate.....	68
Audio Input Microphone [1..2] Mode .....	61	Conference [1..1] MaxTotalReceiveCallRate .....	69
Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode .....	61	Conference [1..1] MaxTotalTransmitCallRate .....	68
Audio SoundsAndAlerts RingTone .....	62	Conference [1..1] MaxTransmitCallRate .....	68
Audio SoundsAndAlerts RingVolume .....	62	Conference [1..1] MicUnmuteOnDisconnect Mode .....	67
Audio Volume .....	62	Conference [1..1] Multipoint Mode.....	70
オーディオ デフォルト音量 .....	62	Conference [1..1] Presentation OnPlacedOnHold.....	69
オーディオ マイク ミュートの有効化 .....	61	Conference [1..1] Presentation RelayQuality .....	69
カメラ設定 .....	63	Conference [1..1] VideoBandwidth MainChannel Weight .....	69
Cameras Camera [1] Backlight .....	63	Conference [1..1] VideoBandwidth Mode .....	69
Cameras Camera [1] Brightness Level .....	63	Conference [1..1] VideoBandwidth PresentationChannel Weight .....	69
Cameras Camera [1] Brightness Mode .....	63	FacilityService 設定 .....	71
Cameras Camera [1] DHCP .....	65	FacilityService Service [1.5] CallType .....	71
Cameras Camera [1] Flip .....	64	FacilityService Service [1.5] Name.....	71
Cameras Camera [1] Focus Mode .....	64	FacilityService Service [1.5] Number .....	71
Cameras Camera [1] Gamma Level .....	64	FacilityService Service [1.5] Type .....	71
Cameras Camera [1] Gamma Mode .....	64	H323 設定 .....	72
Cameras Camera [1] IrSensor .....	64	H323 NAT Address .....	72
Cameras Camera [1] Mirror .....	64	H323 NAT Mode.....	72
Cameras Camera [1] MotorMoveDetection .....	65	H323 Profile [1..1] Authentication LoginName .....	72
Cameras Camera [1] Whitebalance Level .....	65	H323 Profile [1..1] Authentication Mode .....	72
Cameras Camera [1] Whitebalance Mode.....	65	H323 Profile [1..1] Authentication Password.....	72
Cameras Preset TriggerAutofocus .....	63	H323 Profile [1..1] CallSetup Mode.....	73
カメラ電源周波数 .....	63	H323 Profile [1..1] Encryption KeySize .....	73
会議設定 .....	66	H323 Profile [1..1] Gatekeeper Address .....	73
Conference [1..1] ActiveControl Mode .....	66	H323 Profile [1..1] Gatekeeper Discovery .....	73
Conference [1..1] AutoAnswer Delay .....	66	H323 Profile [1..1] H323Alias E164 .....	73
Conference [1..1] AutoAnswer Mode.....	66	H323 Profile [1..1] H323Alias ID.....	73
Conference [1..1] AutoAnswer Mute.....	66	H323 Profile [1..1] PortAllocation.....	74
Conference [1..1] CallProtocolIPStack.....	66		
Conference [1..1] DefaultCall Protocol.....	68		

\*[設定 (Settings) ] メニューは、タッチ 10 コントローラの左上隅の連絡先情報をタップすると表示されるドロップ ダウン ウィンドウからアクセスできます。

ロギングの設定 .....	75	NetworkServices 設定 .....	83	Provisioning ExternalManager Domain.....	91
ロギング モード .....	75	NetworkServices CDP Mode .....	83	Provisioning ExternalManager Path.....	91
ネットワーク設定 .....	76	NetworkServices CTMS Encryption.....	87	Provisioning ExternalManager Protocol .....	91
Network [1..1] DHCP RequestTFTPServerAddress.....	77	NetworkServices CTMS Mode.....	87	Provisioning HttpMethod.....	90
Network [1..1] DNS Domain Name .....	77	NetworkServices H323 Mode.....	83	Provisioning LoginName.....	90
Network [1..1] DNS Server [1..3] Address .....	77	NetworkServices HTTP Mode.....	83	Provisioning Mode.....	90
Network [1..1] IEEE8021X AnonymousIdentity.....	80	NetworkServices HTTPS Mode .....	84	Provisioning Password .....	90
Network [1..1] IEEE8021X Eap Md5.....	80	NetworkServices HTTPS OCSP Mode.....	85		
Network [1..1] IEEE8021X Eap Peap.....	81	NetworkServices HTTPS OCSP URL .....	85	<b>RTP 設定 .....</b>	<b>92</b>
Network [1..1] IEEE8021X Eap Tls .....	81	NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate .....	85	RTP Ports Range Start .....	92
Network [1..1] IEEE8021X Eap Ttls .....	81	NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate .....	84	RTP Ports Range Stop .....	92
Network [1..1] IEEE8021X Identity .....	80	NetworkServices Medianet Metadata.....	85	<b>セキュリティ設定 .....</b>	<b>93</b>
Network [1..1] IEEE8021X Mode.....	79	NetworkServices MultiWay Address.....	84	Security Audit Logging Mode.....	93
Network [1..1] IEEE8021X Password.....	80	NetworkServices MultiWay Protocol.....	84	Security Audit OnError Action .....	93
Network [1..1] IEEE8021X TlsVerify .....	80	NetworkServices NTP Address.....	85	Security Audit Server Address.....	93
Network [1..1] IEEE8021X UseClientCertificate.....	80	NetworkServices NTP Mode.....	85	Security Audit Server Port .....	93
Network [1..1] IPStack.....	76	NetworkServices SIP Mode .....	83	Security Audit Server PortAssignment .....	94
Network [1..1] IPv4 Address .....	76	NetworkServices SNMP CommunityName .....	86	Security Session InactivityTimeout .....	94
Network [1..1] IPv4 Assignment .....	76	NetworkServices SNMP Host [1..3] Address .....	86	Security Session ShowLastLogon .....	94
Network [1..1] IPv4 Gateway.....	76	NetworkServices SNMP Mode.....	86	<b>SerialPort 設定 .....</b>	<b>95</b>
Network [1..1] IPv4 SubnetMask.....	76	NetworkServices SNMP SystemContact .....	86	SerialPort BaudRate .....	95
Network [1..1] IPv6 Address .....	77	NetworkServices SNMP SystemLocation .....	86	SerialPort LoginRequired .....	95
Network [1..1] IPv6 Assignment.....	76	NetworkServices SSH AllowPublicKey .....	86	SerialPort Mode .....	95
Network [1..1] IPv6 DHCPOptions.....	77	NetworkServices SSH Mode.....	86	<b>SIP 設定 (SIP settings) .....</b>	<b>96</b>
Network [1..1] IPv6 Gateway.....	77	NetworkServices Telnet Mode .....	83	SIP ANAT.....	96
Network [1..1] MTU .....	81	NetworkServices WelcomeText .....	83	SIP AuthenticateTransferror .....	96
Network [1..1] QoS Diffserv Audio .....	78	NetworkServices XMLAPI Mode.....	84	SIP ListenPort.....	96
Network [1..1] QoS Diffserv Data.....	78	<b>周辺機器の設定 .....</b>	<b>88</b>	SIP OCSP DefaultResponder .....	96
Network [1..1] QoS Diffserv ICMPv6.....	79	Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing.....	88	SIP OCSP Mode.....	96
Network [1..1] QoS Diffserv NTP .....	79	Peripherals Profile TouchPanels.....	88	SIP PreferredIPMedia.....	96
Network [1..1] QoS Diffserv Signalling.....	79	<b>電話帳の設定.....</b>	<b>89</b>	SIP PreferredIPSignaling .....	96
Network [1..1] QoS Diffserv Video .....	78	Phonebook Server [1..1] ID .....	89	SIP Profile [1..1] Authentication [1..1] LoginName .....	98
Network [1..1] QoS Mode .....	78	Phonebook Server [1..1] Type.....	89	SIP Profile [1..1] Authentication [1..1] Password.....	98
Network [1..1] RemoteAccess Allow.....	82	Phonebook Server [1..1] URL.....	89	SIP Profile [1..1] DefaultTransport .....	98
Network [1..1] Speed .....	81	<b>プロビジョニング設定.....</b>	<b>90</b>	SIP Profile [1..1] DisplayName.....	98
Network [1..1] TrafficControl Mode.....	81	Provisioning Connectivity.....	90	SIP Profile [1..1] Ice DefaultCandidate .....	97
Network [1..1] VLAN Voice Mode .....	82	Provisioning ExternalManager Address .....	91	SIP Profile [1..1] Ice Mode.....	97
Network [1..1] VLAN Voice VlanId.....	82	Provisioning ExternalManager AlternateAddress.....	91	SIP Profile [1..1] Line.....	99

SIP Profile [1..1] Mailbox .....	99	ビデオ設定 .....	106	Video OSD MissedCallsNotification .....	115
SIP Profile [1..1] Outbound.....	99	Video AllowWebSnapshots.....	106	Video OSD Mode .....	113
SIP Profile [1..1] Proxy [1..4] Address.....	99	Video CamCtrlPip CallSetup Duration.....	106	Video OSD MyContactsExpanded .....	115
SIP Profile [1..1] Proxy [1..4] Discovery .....	99	Video CamCtrlPip CallSetup Mode .....	106	Video OSD Output.....	115
SIP Profile [1..1] TlsVerify.....	98	Video DefaultPresentationSource .....	106	Video OSD TodaysBookings .....	115
SIP Profile [1..1] Turn BandwidthProbe .....	97	Video Input DVI [2] RGBQuantizationRange .....	106	Video OSD VirtualKeyboard .....	114
SIP Profile [1..1] Turn DiscoverMode.....	97	Video Input DVI [2] Type.....	107	Video OSD WallpaperSelection .....	114
SIP Profile [1..1] Turn DropRflx.....	97	Video Input HDMI [1] RGBQuantizationRange.....	107	Video Output HDMI [1,2] CEC Mode.....	117
SIP Profile [1..1] Turn Password .....	98	Video Input Source [1..2] CameraControl Camerald .....	108	Video Output HDMI [1,2] Location HorizontalOffset .....	116
SIP Profile [1..1] Turn Server .....	97	Video Input Source [1..2] CameraControl Mode.....	108	Video Output HDMI [1,2] Location VerticalOffset .....	117
SIP Profile [1..1] Turn UserName.....	97	Video Input Source [1..2] Name.....	107	Video Output HDMI [1,2] MonitorRole .....	117
SIP Profile [1..1] Type.....	99	Video Input Source [1..2] OptimalDefinition Profile .....	109	Video Output HDMI [1,2] OverscanLevel .....	118
SIP Profile [1..1] URI .....	98	Video Input Source [1..2] OptimalDefinition Threshold60fps.....	109	Video Output HDMI [1,2] Resolution .....	118
<b>スタンバイ設定</b> .....	<b>100</b>	Video Input Source [1..2] PresentationSelection .....	108	Video Output HDMI [1,2] RGBQuantizationRange.....	117
Standby BootAction .....	100	Video Input Source [1..2] Quality .....	109	Video PIP ActiveSpeaker DefaultValue Position.....	111
Standby Control .....	100	Video Input Source [1..2] Type .....	107	Video PIP Presentation DefaultValue Position.....	111
Standby Delay .....	100	Video Input Source [1..2] Visibility .....	108	Video Selfview .....	112
Standby StandbyAction.....	100	Video Input Source [1] Connector .....	107	Video SelfviewDefault FullscreenMode.....	112
Standby WakeupAction.....	100	Video Input Source [2] Connector.....	107	Video SelfviewDefault Mode.....	112
<b>SystemUnit 設定</b> .....	<b>101</b>	Video Layout DisableDisconnectedLocalOutputs .....	110	Video SelfviewDefault OnMonitorRole .....	113
SystemUnit CallLogging Mode.....	101	Video Layout LocalLayoutFamily.....	110	Video SelfviewDefault PIPPosition .....	113
SystemUnit ContactInfo Type.....	101	Video Layout PresentationDefault View .....	110	Video SelfviewPosition.....	112
SystemUnit IrSensor .....	101	Video Layout RemoteLayoutFamily .....	110	Video Wallpaper.....	118
SystemUnit MenuLanguage .....	101	Video Layout ScaleToFrame.....	111	Video モニタ .....	113
SystemUnit Name .....	101	Video Layout ScaleToFrameThreshold .....	111		
<b>時刻設定</b> .....	<b>102</b>	Video Layout Scaling.....	111	<b>試験的設定</b> .....	<b>119</b>
Time DateFormat.....	102	Video MainVideoSource.....	109		
Time OlsonZone.....	103	Video OSD AutoSelectPresentationSource .....	115		
Time TimeFormat .....	102	Video OSD CallSettingsSelection .....	115		
Time Zone .....	102	Video OSD EncryptionIndicator.....	114		
<b>UserInterface 設定</b> .....	<b>105</b>	Video OSD InputMethod Cyrillic.....	116		
UserInterface TouchPanel DefaultPanel.....	105	Video OSD InputMethod InputLanguage.....	116		
UserInterface UserPreferences.....	105	Video OSD LanguageSelection.....	114		
		Video OSD LoginRequired .....	116		
		Video OSD MenuStartupMode.....	114		

## 音声設定

### Audio Input HDMI [1] Mode

Cisco カメラと統合カメラをコーデックの HDMI 入力に接続すると、ポートの音声入力を有効または無効にできます。他のカメラを使用する場合、音声入力はこの設定に関係なく無効にされます。

統合マイクを使用する場合、この設定をオンにする必要があります (デフォルト値)。

Cisco Table Microphone 20 をコーデックの外部マイク入力のいずれかに接続する場合、統合マイクはこの設定に関係なく無効にされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off:* HDMI 入力で音声を無効にします。

*On:* HDMI 入力で音声を有効にします。

例: Audio Input HDMI 1 Mode: On

### Audio Input Line [1] VideoAssociation VideoInputSource

オーディオ ソースをビデオ ソースに関連付け、ビデオ ソースが提供されるか否かに応じて、音声を再生するかミュートするかを決定できます。デフォルトでは、音声をミュートされません。

Audio Input Line [n] VideoAssociation VideoInputSource 設定を使用して、オーディオ ソースと関連付けるビデオ ソースを定義します。Audio Input Line [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo 設定を使用して、ビデオ ソースが提供されない場合に音声を再生するかミュートするかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1/2>

*範囲:* ビデオ入力ソースの 1 つを選択します。

例: Audio Input Line 1 VideoAssociation VideoInputSource: 2

### Audio Input Line [1] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

オーディオ ソースをビデオ ソースに関連付け、ビデオ ソースが提供されるか否かに応じて、音声を再生するかミュートするかを決定できます。デフォルトでは、音声をミュートされません。

Audio Input Line [n] VideoAssociation VideoInputSource 設定を使用して、オーディオ ソースと関連付けるビデオ ソースを定義します。Audio Input Line [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo 設定を使用して、ビデオ ソースが提供されない場合に音声を再生するかミュートするかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off:* オーディオ ソースはビデオ ソースに関連付けられません。ビデオ ソースが提供されるか否かに関係なく、音声はローカルおよび相手先で再生されます。

*On:* オーディオ ソースはビデオ ソースに関連付けられます。関連付けられたビデオ ソースが提供されると、音声は再生されます (ローカルおよび相手先で)。ビデオ ソースが表示されない場合、音声はミュートされます。

例: Audio Input Line 1 VideoAssociation MuteOnInactiveVideo: Off

### Audio Input Microphone [1..2] EchoControl Mode

エコー キャンセラは音声環境で検出された変更があると、室内の音声特性に合わせて継続的に自己調整を行います。音声条件の変更が非常に顕著な場合、エコー キャンセラの再調整に 1 ~ 2 秒かかることがあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off:* エコー制御は外部のエコー キャンセレーションまたは再生機器が使用されるとオフになります。

*On:* エコー制御は、相手先に自らの音声が聞こえないようにするため、通常はオンに設定されます。選択すると、エコー キャンセレーションは常にアクティブになります。

例: Audio Input Microphone 1 EchoControl Mode: On

### Audio Input Microphone [1..2] EchoControl NoiseReduction

システムには継続的なバックグラウンド ノイズ (空調システム、冷却ファンのノイズなど) を減らす組み込みノイズ リダクションが備わっています。さらに、High Pass Filter (Humfilter) は低周波ノイズを削減します。マイクについてはエコー制御モードを有効にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: ノイズ リダクションをオフにします。

*On*: 低周波ノイズがある場合、ノイズ リダクションは有効にする必要があります。

例: Audio Input Microphone 1 EchoControl NoiseReduction: On

### Audio Input Microphone [1..2] EchoControl Dereverberation

システムには室内の残響を減らす組み込みの信号処理が備わっています。マイクについてはエコー制御モードを有効にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: 残響除去をオフにします。

*On*: 残響除去をオンにします。

例: Audio Input Microphone 1 EchoControl Dereverberation: On

### Audio Input Microphone [1..2] Level

マイク入力コネクタの音声レベルを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..24>

範囲: 0 ~ 24 dB の値を 1 dB 刻みで選択します。

例: Audio Input Microphone 1 Level: 14

### Audio Input Microphone [1..2] Mode

音声入力マイク モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: マイクのコネクタをディセーブルにします。

*On*: マイクのコネクタをイネーブルにします。

例: Audio Input Microphone 1 Mode: On

### オーディオ マイク ミュートの有効化

音声ミュートが許可されるかどうかを決定します。デフォルト値は真です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <True/InCallOnly>

*True*: 音声ミュートが使用可能になります。

*InCallOnly*: 音声ミュートはデバイスがコール中の場合にだけ使用できます。アイドル状態のときは、マイクロフォンをミュートにできません。これは、外部の電話サービス/音声システムがコーデックで接続され、コーデックがコール中でないときに使用可能にする場合に便利です。InCallOnly に設定されたとき、音声システムが誤ってミュートにされることを防止できます。

例: Audio Microphones Mute Enabled: True

### Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode

リモコンのキーを押したとき、またはタッチ コントローラでテキストや番号を入力したときにキーボードタッチ音 (キー トーン) を出すようにシステムを設定できます。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <Off/On>

*Off*: 入力時にキー トーンは再生されません。

*On*: キーを押すかテキストを入力したときにキー トーンが聞こえます。

例: Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode: Off

## Audio SoundsAndAlerts RingTone

この設定は着信コールに使用する呼び出し音を定義します。呼び出し音の正確な名前を入力する必要があります。次の方法で使用可能な呼び出し音を検索できます。

Web インターフェイス:[設定 (Configuration)] > [パーソナライゼーション (Personalization)] ページ  
タッチ コントローラ:[設定 (Settings)] メニューの呼び出し音およびサウンド パネル。このパネルは、[設定 (Settings)] メニューの開いている部分、またはパスワード保護された管理メニューに含まれています。UserInterface UserPreference 設定は、パスワード保護された領域に入れるパネルを定義します。

リモート コントロール:画面の [設定 (Settings)] メニューの [サウンドとアラート (Sounds and Alerts)] で実行します。

API: xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone を実行します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <S: 1, 100>

フォーマット:最大 100 文字の文字列。

例: Audio SoundsAndAlerts RingTone: "Sunrise"

## Audio SoundsAndAlerts RingVolume

着信コールの呼び出し音の音量を設定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <0..100>

範囲:値は 5 刻みで 0 ~ 100 (-34.5 dB ~ 15 dB) になります。音量 0 = オフです。

例: Audio SoundsAndAlerts RingVolume: 50

## オーディオ デフォルト音量

デフォルトのスピーカーの音量を設定します。ビデオ システムのスイッチをオンにするか再起動すると、音量はこの値を返します。また、API コマンド xCommand Audio Volume SetToDefault を使用してデフォルト値に戻すこともできます。ビデオ システムの稼働中に xCommand Audio Volume コマンドを実行するか、リモート コントロールまたはタッチ コントローラを使用して音量を変更します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <0..100>

範囲:値は 0 ~ 100 である必要があります。1 ~ 100 の値は -34.5 dB ~ 15 dB (0.5 dB 刻み) の範囲に対応します。値 0 は、音声がオフになっていることを意味します。

例: Audio DefaultVolume: 50

## Audio Volume

スピーカの音量を設定しますこの設定は Audio DefaultVolume 設定によって廃止されました。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <0..100>

範囲:値は 0 ~ 100 である必要があります。1 ~ 100 の値は -34.5 dB ~ 15 dB (0.5 dB 刻み) の範囲に対応します。値 0 は、音声がオフになっていることを意味します。

例: Audio Volume: 50

## カメラ設定

### カメラ電源周波数

カメラが電源周波数フリッカ防止をサポートしている場合、カメラは電源からのすべてのフリッカ ノイズを補うことができます。このカメラ設定はお使いの電源周波数に基づいて設定する必要があります。カメラが電源周波数の自動検出をサポートしている場合、設定で [自動 (Auto)] オプションを選択できます。

すべての Cisco Precision カメラはフリッカ防止および電源周波数の自動検出の両方をサポートしています。[自動 (Auto)] はデフォルト値であるため、自動検出をサポートしないカメラの場合、この設定を変更する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/50Hz/60Hz>

*Auto*: カメラが電源周波数を自動検出できるようにします。

*50Hz*: 電線周波数が 50 Hz の場合、この値を使用します。

*60Hz*: 電線周波数が 60 Hz の場合、この値を使用します。

例: Cameras PowerLine Frequency: Auto

### Cameras Preset TriggerAutofocus

現在位置 (パン、チルト)、ズームおよびフォーカスはプリセットで保存されます。この設定を使用して、カメラを再フォーカスするか、プリセットで保存されたフォーカス値を使用するかどうかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Off/On>

*Auto*: プリセットを選択しない場合に、カメラの種類に応じてカメラを再フォーカスするかどうかを指定します。

*Off*: プリセットで保存されたフォーカス値が使用されます。プリセットを選択する場合、カメラは再フォーカスしません。

*On*: プリセットを選択する場合、カメラは再フォーカスします。プリセットで保存されたフォーカス値が上書きされる可能性があります。

例: Cameras Preset TriggerAutofocus: Auto

### Cameras Camera [1] Backlight

このコンフィギュレーションは、逆光補正をオンまたはオフにします。逆光補正は、部屋の中で人物の背後に強い光がある場合に役立ちます。逆光補正がないと、こちらの画像が相手に非常に暗い状態で見えてしまいます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: カメラの逆光補正をオフにします。

*On*: カメラの逆光補正をオンにします。

例: Cameras Camera 1 Backlight: Off

### Cameras Camera [1] Brightness Mode

カメラの明るさモードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

*Auto*: カメラの明るさはシステムによって自動的に設定されます。

*Manual*: カメラの明るさの手動設定をイネーブルにします。明るさのレベルは Cameras Camera Brightness Level 設定を使用して設定されます。

例: Cameras Camera 1 Brightness Mode: Auto

### Cameras Camera [1] Brightness Level

明るさレベルを設定します。カメラの明るさモードを [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..31>

*範囲*: 1 ~ 31 の値を選択します。

例: Cameras Camera 1 Brightness Level: 20

## Cameras Camera [1] Flip

フリップ モード (垂直フリップ) を使用すると、画像を上下反転できます。フリッピングは、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <Auto/Off/On>

*Auto*: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。上下逆にマウントされたかどうかをカメラが自動的に検出できない場合、画像は変更されません。

*Off*: 画像を通常の方法で画面に表示します。

*On*: 画像を上下反転させて表示します。この設定は、カメラが上下逆にマウントされたが、マウント方向を自動的に検出できない場合に使用されます。

例: Cameras Camera 1 Flip: Auto

## Cameras Camera [1] Focus Mode

カメラの焦点モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

*Auto*: コールが接続されると、カメラはオートフォーカスになります。カメラの移動 (パン、傾斜、ズーム) 後も同様です。システムは、オートフォーカスを数秒間だけ使用して正しい焦点に設定します。その後、オートフォーカスはカメラが焦点調整し続けることを防ぐためオフになります。

*Manual*: オートフォーカスをオフにし、カメラの焦点を手動で調整します。

例: Cameras Camera 1 Focus Mode: Auto

## Cameras Camera [1] Gamma Mode

この設定は、ガンマ補正を有効にし、ガンマ モードをサポートするカメラのみに適用されます。ガンマは、画像ピクセルとモニタの明るさとの間の関係を表します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

*Auto*: 自動がデフォルトであり、推奨設定です。

*Manual*: 手動モードではガンマ値はガンマ レベル設定、リファレンスと変更されます。参照: Cameras Camera [1..n] Gamma Level

例: Cameras Camera 1 Gamma Mode: Auto

## Cameras Camera [1] Gamma Level

ガンマ レベルを設定して、使用するガンマ修正テーブルを選択できます。この設定は、明るさの設定を変更しても十分な結果が得られない困難な光条件に役立つことがあります。[ガンマ モード (Gamma Mode)] を [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..7>

*範囲*: 0 ~ 7 の値を選択します。

例: Cameras Camera 1 Gamma Level: 0

## Cameras Camera [1] IrSensor

Precision カメラには、リモート コントロールでコーデックを操作する場合に使用される IR センサーが備わっています。IR センサーはカメラの前面にあり、IR センサーがリモート コントロールからアクティブ化されると LED が明滅します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: カメラの IR センサーをディセーブルにします。

*On*: カメラの IR センサーをイネーブルにします。

例: Cameras Camera 1 IrSensor: On

## Cameras Camera [1] Mirror

ミラー モード (水平反転) を使用して画面の画像を反転できます。ミラーリングは、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Off/On>

*Auto*: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。上下逆にマウントされたかどうかをカメラが自動的に検出できない場合、画像は変更されません。

*Off*: 他人から見えている自分のように画像を表示します。

*On*: 鏡に映っている自分のように画像を表示します。

例: Cameras Camera 1 Mirror: Auto



## Cameras Camera [1] MotorMoveDetection

この設定は、Cisco TelePresence PrecisionHD 1080p12x のカメラを使用する場合にのみ適用されます。

カメラの位置を手で調整する場合、カメラの新しい位置を維持するか、プリセットまたは以前の位置に戻すかを設定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: カメラの位置を手で調整する場合、カメラが再び調整されるまでこの位置を維持します。警告: カメラを手で移動する場合、位置のフィードバックがないため、カメラは新しいパンおよびチルトの値を登録しません。これは、後でカメラのプリセットを再呼び出しする場合に、誤ったパンおよびチルト値が発生する原因になります。

*On*: カメラの位置を手で調整した場合、またはモーターが移動したことをカメラが検出した場合、最初に再初期化 (つまり、デフォルト位置に移動) してからプリセットまたはカメラを調整する前に割り当てられていた位置に戻ります。

例: Cameras Camera 1 MotorMoveDetection: Off

## Cameras Camera [1] Whitebalance Mode

カメラのホワイトバランス モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

*Auto*: カメラはカメラのビューに合わせて常にホワイト バランスを調整します。

*Manual*: カメラのホワイトバランスの手動設定をイネーブルにします。ホワイトバランスのレベルは Cameras Camera Whitebalance Level 設定を使用して設定します。

例: Cameras Camera 1 Whitebalance Mode: Auto

## Cameras Camera [1] Whitebalance Level

ホワイトバランス レベルを設定します。カメラの [ホワイトバランス モード (Camera Whitebalance Mode)] を [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..16>

*範囲*: 1 ~ 16 の値を選択します。

例: Cameras Camera 1 Whitebalance Level: 1

## Cameras Camera [1] DHCP

LAN 上の DHCP をサポートするカメラに適用します。設定されている場合、このコマンドはデジタイズ チェーン接続されたカメラのソフトウェア アップグレードのサポートを有効にします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: カメラが LAN に接続されていない場合、[オフ (Off)] に設定して DHCP をディセーブルにします。

*On*: [オン (On)] に設定してカメラの DHCP をイネーブルにします。カメラが自動的に再起動し、再起動後にカメラの DHCP 機能は MAC および IP アドレス検索を強制的に開始します。次の API コマンド「xStatus Camera」を実行して結果を表示できます。カメラが LAN に接続されていない場合、[オフ (Off)] に設定します。

例: Cameras Camera 1 DHCP: Off

## 会議設定

### Conference [1..1] ActiveControl Mode

アクティブ コントロールは、会議参加者がビデオ システムのインターフェイスを使用して Cisco TelePresence Server での会議を管理できるようにする機能です (TRC5 リモート コントロールおよび画面上の表示からは利用できません)。各ユーザは、参加者リストの表示、ビデオ レイアウトの変更、参加者の接続解除などをインターフェイスから行えます。アクティブ コントロール機能は、インフラストラクチャ (Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 9.1.2 以降、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) バージョン X8.1 以降) でサポートされている限り、デフォルトで有効です。アクティブ コントロール機能を無効にするには、この設定を変更します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Off>

*Auto*: アクティブ コントロールがインフラストラクチャでサポートされている場合に有効になります。

*Off*: アクティブ コントロールは無効です。

例: Conference ActiveControl Mode: Auto

### Conference [1..1] CallProtocolIPStack

システムで通信プロトコル (SIP、H323) の IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを有効にする必要がある場合に選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Dual/IPv4/IPv6>

*Dual*: 通信プロトコルの IPv4 と IPv6 の両方をイネーブルにします。

*IPv4*: [IPv4] に設定すると、通信プロトコルは IPv4 を使用します。

*IPv6*: [IPv6] に設定すると、通信プロトコルは IPv6 を使用します。

例: Conference 1 CallProtocolIPStack: Dual

### Conference [1..1] AutoAnswer Mode

自動応答モードを設定します。コールに回答する前に数秒間待機する場合は Conference AutoAnswer Delay 設定を使用し、コールに回答するときにマイクをミュートする場合は Conference AutoAnswer Mute 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: 着信コールに手で応答するには、リモート コントロールの OK キーまたは緑色のコール キーを押すか、タッチ コントローラで [応答 (Answer)] をタップする必要があります。

*On*: 通話中でない限り、システムが自動的に着信コールに回答します。通話中の着信コールに対しては、常に手で応答または拒否する必要があります。

例: Conference 1 AutoAnswer Mode: Off

### Conference [1..1] AutoAnswer Mute

着信コールが自動的に応答する場合にマイクをミュートするかどうか決定します。[自動応答モード (AutoAnswer Mode)] が有効にされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: 着信コールはミュートにされません。

*On*: 着信コールは自動的に応答されるときミュートにされます。

例: Conference 1 AutoAnswer Mute: Off

### Conference [1..1] AutoAnswer Delay

システムによって自動的に応答される前に着信コールがどれくらい待つ必要があるかを定義します (秒単位)。[自動応答モード (AutoAnswer Mode)] が有効にされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..50>

*範囲*: 0 ~ 50 秒の値を選択します。

例: Conference 1 AutoAnswer Delay: 0

### Conference [1..1] MicUnmuteOnDisconnect Mode

すべてのコールが切断されたとき、マイクロフォンが自動的にミュート解除されるかどうかを決定します。会議室またはその他の共有リソースでは、このようにして次のユーザのためにシステムを準備する場合があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: コール中にミュートにされている場合、コールが切断された後もマイクロフォンをミュートにされたままにします。

*On*: コールが切断された後にマイクロフォンのミュートを解除します。

例: Conference 1 MicUnmuteOnDisconnect Mode: On

### Conference [1..1] DoNotDisturb Mode

着信コールを許可するかどうかを指定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <Off/On/Timed>

*Off*: 着信コールは通常どおり機能します。

*On*: すべての着信コールは拒否され、不在履歴として登録されます。発信者はビジブ信号を受信します。割り込み不可がオンになっていることを示すメッセージがタッチ コントローラまたはメイン ディスプレイに表示されます。注: この設定が手動でオフにされるまですべてのコールが拒否されるため、この設定は推奨されません。推奨するオプションは、[時間指定 (Timed)] です。

*Timed*: [時間指定 (Timed)] (デフォルト) に設定すると、Conference DoNotDisturb DefaultTimeout 設定で定義した指定のタイムアウト後にシステムは元に戻り、着信コールを許可します。

例: Conference 1 DoNotDisturb Mode: Timed

### Conference [1..1] DoNotDisturb DefaultTimeout

この設定はサイレント セッションのデフォルト期間、つまり着信コールが拒否され、不在履歴として登録される時間を決定します。ユーザ インターフェイス (リモート コントロールまたはタッチ コントローラ) または Conference DoNotDisturb Mode 設定を使用すれば、セッションを素早く終了できます。デフォルト値は 60 分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..1440>

*範囲*: サイレント セッションが自動的にタイムアウトするまでの分数を 0 ~ 1440 (24 時間) の間で選択します。

例: Conference 1 DoNotDisturb DefaultTimeout: 60

### Conference [1..1] FarEndControl Mode

リモート側 (遠端) にこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、傾斜、ズーム) を許可するかどうか決定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: 遠端はこちら側のビデオ ソースの選択やローカル カメラの制御 (パン、傾斜、ズーム) を許可されません。

*On*: 遠端はこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、傾斜、ズーム) を許可します。カメラの制御とビデオ ソースの選択は、こちら側でも通常どおり可能です。

例: Conference 1 FarEndControl Mode: On

### Conference [1..1] FarEndControl SignalCapability

遠端制御 (H.224) 信号機能モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: 遠端制御信号機能をディセーブルにします。

*On*: 遠端制御信号機能をイネーブルにします。

例: Conference 1 FarEndControl SignalCapability: On

## Conference [1..1] Encryption Mode

会議の暗号化モードを定義します。会議が開始されると、数秒間画面に鍵と「Encryption On」または「Encryption Off」という文字が表示されます。

注: TC-NC ソフトウェア (暗号なし) がビデオ システムにインストールされている場合、暗号化モードは常に Off になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On/BestEffort>

*Off*: システムは、暗号化を使用しません。

*On*: システムは、暗号化されたコールだけを許可します。

*BestEffort*: システムは暗号化を可能な限り使用します。

> ポイント ツー ポイント コール: 遠端システムで暗号化 (AES-128) がサポートされている場合、コールは暗号化されます。そうでない場合は、コールは暗号化なしで送信されます。

> MultiSite コール: 暗号化されたマルチサイト会議を実現するためには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合は、会議は暗号化されません。

例: Conference 1 Encryption Mode: BestEffort

## Conference [1..1] DefaultCall Protocol

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルトのコール プロトコルを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/H323/Sip/H320>

*Auto*: 使用可能なプロトコルに基づいた通信プロトコルの自動選択を有効にします。複数のプロトコルが使用可能な場合、優先順位は次の通りです: 1) SIP、2) H323、3) H320。システムで登録できない場合や、通信プロトコルが有効になっていない場合、自動選択で H323 が選択されます。

H323: すべてのコールが H.323 コールとして設定されます。

SIP: すべてのコールが SIP コールとして設定されます。

H320: すべてのコールは H.320 コールとして設定されます (Cisco TelePresence ISDN リンク ゲートウェイに接続されている場合のみ)。

例: Conference 1 DefaultCall Protocol: Auto

## Conference [1..1] DefaultCall Rate

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルトのコール レートを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <64..6000>

*範囲*: 64 ~ 6000 kbps の値を選択します。

例: Conference 1 DefaultCall Rate: 1920

## Conference [1..1] MaxTransmitCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大送信ビット レートを指定します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、Conference MaxTotalTransmitCallRate 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <64..6000>

*範囲*: 64 ~ 6000 kbps の値を選択します。

例: Conference 1 MaxTransmitCallRate: 6000

## Conference [1..1] MaxReceiveCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大受信ビット レートを指定します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、Conference MaxTotalReceiveCallRate 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <64..6000>

*範囲*: 64 ~ 6000 kbps の値を選択します。

例: Conference 1 MaxReceiveCallRate: 6000

## Conference [1..1] MaxTotalTransmitCallRate

この設定は、ビデオ システム内蔵の MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

送信全体の最大ビット レートを指定できます。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブコール間で均等に分割されます。これは、誰かがマルチポイント会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々のコールが適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大送信ビット レートは、Conference MaxTransmitCallRate 設定により定義されません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <64..10000>

範囲: 64 ~ 10000 の値を選択します。

例: Conference 1 MaxTotalTransmitCallRate: 10000

## Conference [1..1] MaxTotalReceiveCallRate

この設定は、ビデオ システム内蔵の MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

受信全体の最大ビット レートを指定できます。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブコール間で均等に分割されます。これは、誰かがマルチポイント会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々のコールが適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大受信ビット レートは、Conference MaxReceiveCallRate 設定により定義されません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <64..10000>

範囲: 64 ~ 10000 の値を選択します。

例: Conference 1 MaxTotalReceiveCallRate: 10000

## Conference [1..1] VideoBandwidth Mode

会議のビデオ帯域幅モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Dynamic/Static>

Dynamic: ビデオ チャネルの使用可能な送信帯域幅が現在アクティブなチャンネル間で分散されず、プレゼンテーションが存在しない場合は、メイン ビデオ チャネルがプレゼンテーション チャンネルの帯域幅を使用します。

Static: 使用可能な送信帯域幅が、アクティブでない場合でも各ビデオ チャネルに割り当てられません。

例: Conference 1 VideoBandwidth Mode: Dynamic

## Conference [1..1] VideoBandwidth MainChannel Weight

使用可能な送信ビデオ帯域幅が「MainChannel Weight」および「PresentationChannel Weight」に従ってメイン チャンネルおよびプレゼンテーション チャンネルに配信されます。メイン チャンネルの重みが 2 で、プレゼンテーション チャンネルの重みが 1 の場合、メイン チャンネルはプレゼンテーション チャンネルの 2 倍の帯域幅を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..10>

範囲は 1 ~ 10 です。

例: Conference 1 VideoBandwidth MainChannel Weight: 5

## Conference [1..1] VideoBandwidth PresentationChannel Weight

使用可能な送信ビデオ帯域幅が「MainChannel Weight」および「PresentationChannel Weight」に従ってメイン チャンネルおよびプレゼンテーション チャンネルに配信されます。メイン チャンネルの重みが 2 で、プレゼンテーション チャンネルの重みが 1 の場合、メイン チャンネルはプレゼンテーション チャンネルの 2 倍の帯域幅を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..10>

範囲は 1 ~ 10 です。

例: Conference 1 VideoBandwidth PresentationChannel Weight: 5

## Conference [1..1] Presentation RelayQuality

この設定は、内蔵 MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイント ビデオ会議をホストするときに応用されます。リモート ユーザがプレゼンテーションを共有している場合、ビデオ システム (コーデック) は、プレゼンテーションのトランスコーディングを行い、それをマルチポイント会議の他の参加者に送信します。[リレー品質 (RelayQuality) ] 設定は、プレゼンテーション ソースに対して、高フレーム レートと高解像度のどちらを優先するかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Motion/Sharpness>

*Motion*:できるだけ高いフレーム レートにします。高いフレーム レートが必要な場合に使用します (通常、画像の動きが激しい場合)。

*Sharpness*:できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

例: Conference 1 Presentation RelayQuality: Sharpness

## Conference [1..1] Presentation OnPlacedOnHold

リモート サイトで保留状態にされた後、プレゼンテーションを共有し続けるかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Stop/NoAction>

*Stop*:リモート サイトで保留状態にされた後、ビデオ システムはプレゼンテーションの共有を停止します。コールが再開されてもプレゼンテーションは継続されません。

*NoAction*:保留にされてもビデオ システムはプレゼンテーションの共有を停止しません。保留されている間はプレゼンテーションは共有されませんが、コールが再開されると自動的に継続されます。

例: Conference 1 Presentation OnPlacedOnHold: NoAction

## Conference [1..1] Multipoint Mode

ビデオ システムがマルチパーティ ビデオ会議を処理する方法を定義します。

Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) に登録すると、ビデオ システムは独自の組み込み MultiSite 機能または MultiWay ネットワーク ソリューションを使用できます。MultiWay では、マルチポイント コントロール ユニット (MCU) がビデオ ネットワークに含まれていることが必要です。

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 8.6.2 以降に登録すると、ビデオ システムは、CUCM 会議ブリッジ、または内蔵 MultiSite 機能を使用できます。どれを使用するかは CUCM によって設定されます。

Multiway および CUCM 会議ブリッジの両方を使用すれば、多くの参加者との会議を設定できます。組み込み MultiSite では、最大 4 人の参加者 (自分自身を含む) が許可されます。

組み込み MultiSite はオプションであり、すべてのビデオ システムで使用できるわけではないことに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Off/MultiSite/MultiWay/CUCMMediaResourceGroupList>

*Auto*:利用可能なマルチポイント メソッドが自動的に選択されます。利用可能なマルチポイントがない場合、[マルチポイント モード (Multipoint Mode) ] は自動的に [オフ (Off) ] に設定されます。MultiWay および MultiSite の両方が利用可能な場合、MultiWay サービスは組み込み MultiSite よりも優先されます。

*Off*:マルチパーティ会議は許可されません。

*MultiSite*:組み込み MultiSite 機能を使用してマルチパーティ会議が設定されます。MultiSite 機能を使用できないときに [多地点接続 (MultiSite) ] が選択された場合、[マルチポイント モード (Multipoint Mode) ] は自動的に [オフ (Off) ] に設定されます。

*MultiWay*:マルチパーティ会議は MultiWay サービスを使用して設定されます。MultiWay サービスを使用できない場合に [MultiWay] が選択された場合、[マルチポイント モード (Multipoint Mode) ] は自動的に [オフ (Off) ] に設定されます。これは、NetworkServices MultiWay Address 設定が空か、正しく設定されていない場合に発生する可能性があります。

*CUCMMediaResourceGroupList*:マルチパーティ会議 (アドホック会議) は、CUCM で設定された会議ブリッジによってホストされます。この設定は、CUCM 環境で CUCM によりプロビジョニングされるものであり、ユーザが手動で設定すべきではありません。

例: Conference 1 Multipoint Mode: Auto

## Conference [1..1] IncomingMultisiteCall Mode

すでにコール中または会議中の場合に着信コールを許可するかどうかを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Allow/Deny>

Allow: すでに通話している間に、誰かが電話をかけてきた場合、通知されます。着信コールを受け入れるかどうかは任意です。進行中のコールは、着信コールに応答するときに保留になる場合があります。またはコールをマージすることができます (MultiSite または MultiWay のサポートが必要です)。

Deny: すでに通話中の場合、着信コールは拒否されます。着信コールについては通知されません。ただし、コール履歴リストの不在履歴として表示されます。

例: Conference 1 IncomingMultisiteCall Mode: Allow

## FacilityService 設定

### FacilityService Service [1..5] Type

最大 5 種類のファシリティ サービスを同時にサポートできます。この設定で、どのようなサービスかを選択できます。ファシリティ サービスは、FacilityService サービス名と FacilityService サービス番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。タッチ コントローラでは、Type Helpdesk の FacilityService Service 1 のみ利用可能です。その他のオプションは API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) コマンドを使用するシステム インテグレータで利用可能です。ファシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Other/Concierge/Helpdesk/Emergency/Security/Catering/Transportation>

Other: その他のオプションでカバーされないサービスには、このオプションを選択します。

Concierge: コンシェルジュ サービスには、このオプションを選択します。

Helpdesk: ヘルプ デスク サービスには、このオプションを選択します。

Emergency: 緊急サービスには、このオプションを選択します。

Security: セキュリティ サービスには、このオプションを選択します。

Catering: ケータリング サービスには、このオプションを選択します。

Transportation: 転送サービスには、このオプションを選択します。

例: FacilityService Service 1 Type: Helpdesk

### FacilityService Service [1..5] Name

ファシリティ サービス名を入力します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。ファシリティ サービスは、FacilityService サービス名と FacilityService サービス番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。タッチ コントローラでは、FacilityService Service 1 だけを使用できます。名前は、上部バーの疑問符アイコンをタップすると表示されるファシリティ サービス コール ボタンに表示されます。他のサービスは API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) コマンド セットを使用してシステム インテグレータで利用可能です。ファシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 1024>

フォーマット: 最大 1024 文字の文字列。

例: [FacilityService サービス名 (FacilityService Service Name)]: ""

### FacilityService Service [1..5] Number

ファシリティ サービス番号 (URI または電話番号) を入力します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。ファシリティ サービスは、FacilityService サービス名と FacilityService サービス番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。タッチ コントローラでは、FacilityService Service 1 のみ利用可能です。その他のオプションは API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) コマンドを使用するシステム インテグレータで利用可能です。ファシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 1024>

フォーマット: 最大 1024 文字の文字列。

例: [FacilityService サービス番号 (FacilityService Service Number)]: ""

### FacilityService Service [1..5] CallType

各ファシリティ サービスにコール タイプを設定します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。ファシリティ サービスは、FacilityService サービス名と FacilityService サービス番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。タッチ コントローラでは、FacilityService Service 1 のみ利用可能です。その他のオプションは API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) コマンドを使用するシステム インテグレータで利用可能です。ファシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Video/Audio>

Video: ビデオ コールには、このオプションを選択します。

Audio: オーディオ コールには、このオプションを選択します。

例: FacilityService Service 1 CallType: Video



## H323 設定

### H323 NAT Mode

ファイアウォール トラバサール テクノロジーは、ファイアウォール障壁を通過するセキュアなパスを作成し、外部のビデオ会議システムに接続されたときの音声/ビデオ データの正しい交換を可能にします (IP トラフィックが NAT ルータを通過する場合)。注: NAT は、ゲートキーパーとの組み合わせでは動作しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Off/On>

*Auto*: H323 NAT アドレスと実際の IP アドレスのどちらをシグナリングに使用するかをシステムが決定します。これにより、LAN 上のエンドポイント、または WAN のエンドポイントにコールを発信できるようになります。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、実際の IP アドレスが使用されます。

*Off*: システムは、実際の IP アドレスをシグナリングします。

*On*: システムは、Q.931 および H.245 内にある実際の IP アドレスの代わりに、設定された H323 NAT アドレスをシグナリングします。NAT サーバ アドレスは、スタートアップ メニューで「My IP Address: 10.0.2.1」と表示されます。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、H.323 コールは設定できません。

例: H323 NAT Mode: Off

### H323 NAT Address

NAT サポートのルータに外部/グローバル IP アドレスを入力します。ルータに送信されるパケットは、システムにルーティングされます。ゲートキーパーに登録されている場合は NAT を使用できないことに注意してください。

ルータで、次のポートはシステムの IP アドレスにルーティングする必要があります。

\* Port 1720

\*ポート 5555-6555

\*ポート 2326-2487

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

例: [H323 NAT アドレス (H323 NAT Address)]: ""

### H323 Profile [1..1] Authentication Mode

H.323 プロファイルの認証モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: H.323 Gatekeeper Authentication Mode が Off に設定されている場合、システムは H.323 ゲートキーパーに対して自身の認証を試行せず、通常の登録を試行します。

*On*: H.323 Gatekeeper Authentication Mode が On に設定され、認証が必要なことを .323 ゲートキーパーが示している場合、システムはゲートキーパーに対して自身の認証を試行します。コーデックとゲートキーパーの両方で認証ログイン名と認証パスワードが定義される必要があります。

例: H323 Profile 1 Authentication Mode: Off

### H323 Profile [1..1] Authentication LoginName

システムは、H.323 ゲートキーパーに認証ログイン名と認証パスワードを送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。[H.323 ゲートキーパー認証モード (H.323 Gatekeeper Authentication Mode)] が有効になっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: [H323 プロファイル 1 認証ログイン名 (H323 Profile 1 Authentication LoginName)]: ""

## H323 Profile [1..1] Authentication Password

システムは、H.323 ゲートキーパーに認証ログイン名と認証パスワードを送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されません。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。[H.323 ゲートキーパー認証モード (H.323 Gatekeeper Authentication Mode)] が有効になっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: [H323 プロファイル 1 認証パスワード (H323 Profile 1 Authentication Password)]: ""

## H323 Profile [1..1] CallSetup Mode

H.323 コール コンフィギュレーション モードは、H323 を確立するときにゲートキーパーまたはダイレクト コールを使用するかどうかを定義します。

注: ダイレクト H.323 コールは、H.323 コール コンフィギュレーション モードがゲートキーパーに設定されていても行うことができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Direct/Gatekeeper>

Direct: H323 コール発信のためダイヤリングするときに IP アドレスを使用する必要があります。

Gatekeeper: システムは、H.323 コールを発信するためにゲートキーパーを使用します。このオプションを選択する場合は H323 Profile Gatekeeper Address および H323 Profile Gatekeeper Discovery 設定も行う必要があります。

例: H323 Profile 1 CallSetup Mode: Gatekeeper

## H323 Profile [1..1] Encryption KeySize

Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化キーの確立時に使用する Diffie-Hellman キー交換方式の最小または最大のキー サイズを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Min1024bit/Max1024bit/Min2048bit>

Min1024bit: 最小サイズは 1024 ビットです。

Max1024bit: 最大サイズは 1024 ビットです。

Min2048bit: 最小サイズは 2048 ビットです。

例: H323 Profile 1 Encryption MinKeySize: Max1024bit

## H323 Profile [1..1] Gatekeeper Discovery

システムが H.323 ゲートキーパーに登録する方法を決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Manual/Auto>

Manual: システムは、ゲートキーパーの IP アドレスで指定された特定のゲートキーパーを使用します。

Auto: システムは自動的に使用可能なゲートキーパーに登録しようとします。あるゲートキーパーが 30 秒以内にコーデックから送信された要求に応答すると、この特定のゲートキーパーが使用されます。これには、ゲートキーパーが自動検出モードにあることも必要です。ゲートキーパーが応答しなかった場合は、H.323 コールにゲートキーパーを使用しないため、IP アドレスを手動で指定する必要があります。

例: H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery: Manual

## H323 Profile [1..1] Gatekeeper Address

ゲートキーパーの IP アドレスを入力します。[H.323 コール セットアップ モード (H.323 Call Setup Mode)] を [ゲートキーパー (Gatekeeper)] に設定し、[ゲートキーパーの検出 (Gatekeeper Discovery)] を [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

例: H323 Profile 1 Gatekeeper Address: "192.0.2.0"

## H323 Profile [1..1] H323Alias E164

H.323 エイリアス E.164 は、H.323 ゲートキーパーに設定された番号計画に従ってシステムのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号と同じであり、アクセス コードと結合される場合もあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 30>

フォーマット: 最大 30 文字のコンパクト文字列。使用できる文字は、0 ~ 9、\*、# です。

例: H323 Profile 1 H323Alias E164: "90550092"

### H323 Profile [1..1] H323Alias ID

H.323 ゲートキーパー システムのアドレス指定に使用され、コール リストに表示される H.323 エイリアス ID を指定します。例: "firstname.lastname@company.com", "My H.323 Alias ID"

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 49>

フォーマット: 最大 49 文字の文字列。

例: [H323 プロファイル 1 H323Alias ID (H323 Profile 1 H323Alias ID) ]: [firstname.lastname@company.com]

### H323 Profile [1..1] PortAllocation

H.323 ポート割り当ての設定は、H.323 コール シグナリングに使用する H.245 ポート番号に影響を与えます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Dynamic/Static>

Dynamic: TCP 接続を開くとき、使用するポートをシステムが割り当てます。このようにする理由は、後続のコールで同じポートを使用しないようにするためです。一部のファイアウォールはこれを攻撃の徴候と見なします。Dynamic を選択した場合、使用される H.323 ポートは 11000 ~ 20999 です。20999 に達すると 11000 から再スタートされます。ポートは、特定の範囲内でシステムによって自動的に選択されます。ファイアウォール管理者は、どのポートがいつ使用されるかを推定しようとしてはなりません。指示された範囲内の割り当てスキーマがより詳細な通知なしで変更されることがあるからです。

Static: スタティックに設定すると、スタティックに事前定義された範囲 [5555-6555] 内でポート指定されます。

例: H323 Profile 1 PortAllocation: Dynamic

## ロギングの設定

### ロギング モード

このバージョンでは適用されません。

## ネットワーク設定

### Network [1..1] IPStack

システムのネットワーク インターフェイスで IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを使用する必要がある場合に選択します。注：この設定を変更した後、反映されるまでに 30 秒間待つ必要があります。

必要なユーザ ロール： ADMIN

値スペース： <Dual/IPv4/IPv6>

Dual：[デュアル (Dual)] に設定すると、ネットワーク インターフェイスは両方の IP バージョンで同時に動作することができ、また、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を同時に持つことができます。

IPv4：[IPv4] に設定すると、システムのネットワーク インターフェイスで IPv4 が使用されます。

IPv6：[IPv6] に設定すると、システムのネットワーク インターフェイスで IPv6 が使用されます。

例： Network 1 IPStack: Dual

### Network [1..1] IPv4 Assignment

システムが IPv4 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。この設定は IPv4 ネットワーク上のシステムにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール： ADMIN

値スペース： <Static/DHCP>

Static：アドレスは、Network IPv4 Address、Network IPv4 Gateway、Network IPv4 SubnetMask の各設定（静的アドレス）を使用して手動で設定する必要があります。

DHCP：システム アドレスは DHCP サーバによって自動的に割り当てられます。

例： Network 1 IPv4 Assignment: DHCP

### Network [1..1] IPv4 Address

システムのスタティック IPv4 ネットワーク アドレスを入力します。この設定は、Network Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール： ADMIN

値スペース： <S: 0, 64>

フォーマット：有効な IPv4 アドレス。

例： Network 1 IPv4 Address: "192.0.2.2"

### Network [1..1] IPv4 Gateway

IPv4 ネットワーク ゲートウェイを定義します。この設定は、Network Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール： ADMIN

値スペース： <S: 0, 64>

フォーマット：有効な IPv4 アドレス。

例： Network 1 IPv4 Gateway: "192.0.2.1"

### Network [1..1] IPv4 SubnetMask

IPv4 ネットワークのサブネット マスクを定義します。この設定は、Network Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール： ADMIN

値スペース： <S: 0, 64>

フォーマット：有効な IPv4 アドレス形式。

例： Network 1 IPv4 SubnetMask: "255.255.255.0"

### Network [1..1] IPv6 Assignment

システムが IPv6 アドレスおよびデフォルト ゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。この設定は IPv6 ネットワーク上のシステムにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール： ADMIN

値スペース： <Static/DHCPv6/Autoconf>

Static：コーデックおよびゲートウェイの IP アドレスは、Network IPv6 Address および Network IPv6 Gateway の各設定を使用して手動で設定する必要があります。NTP アドレスや DNS サーバ アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOption 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

DHCPv6：オプションを含むすべての IPv6 アドレスは、DHCPv6 サーバから取得されます。詳細については RFC 3315 を参照してください。Network IPv6 DHCPOption 設定は無視されます。

Autoconf：IPv6 ネットワーク インターフェイスの IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。詳細については RFC 4862 を参照してください。NTP アドレスや DNS サーバ アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOption 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

例： Network 1 IPv6 Assignment: Autoconf

## Network [1..1] IPv6 Address

システムのスタティック IPv6 ネットワーク アドレスを入力します。この設定は、Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv6 アドレス。

例: Network 1 IPv6 Address: "2001:0DB8:0000:0000:0000:0000:0002"

## Network [1..1] IPv6 Gateway

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv6 アドレス。

例: Network 1 IPv6 Gateway: "2001:0DB8:0000:0000:0000:0000:0001"

## Network [1..1] IPv6 DHCPOptions

DHCPv6 サーバから一連の DHCP オプション (NTP および DNS サーバ アドレスなど) を取得します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: DHCPv6 サーバからの DHCP オプションの取得を無効にします。

On: 選択した DHCP オプションのセットの DHCPv6 サーバからの取得をイネーブルにします。

例: Network 1 IPv6 DHCPOptions: On

## Network [1..1] DHCP RequestTFTPServerAddress

この設定は、Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されたビデオ システムにのみ使用されます。

この設定は、TFTP サーバ (プロビジョニング サーバ) のアドレスを自動的に検出できるように、エンドポイントが DHCP サーバに DHCP オプション 150 を要求するかを決定します。

この設定が Off になっている場合、または DHCP サーバがオプション 150 をサポートしていない場合は、Provisioning ExternalManager Address 設定を使用して TFTP サーバ アドレスを手動で設定する必要があります。

[ネットワーク VLAN 音声モード (Network VLAN Voice Mode) ] 設定が [自動 (Auto) ] であり、Cisco Discovery Protocol (CDP) により ID が音声 VLAN に割り当てられている場合、オプション 150 のリクエストは必ず送信されます。つまり、Network DHCP RequestTFTPServerAddress の設定は無視されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: ビデオ システムは DHCP オプション 150 のリクエストを送信しません。TFTP サーバのアドレスを手動で設定する必要があります。この規則の例外については、上記の注を参照してください。

On: ビデオ システムは自動的に TFTP サーバのアドレスを検出できるように、オプション 150 のリクエストを DHCP に送信します。

例: Network 1 DHCP RequestTFTPServerAddress: On

## Network [1..1] DNS Domain Name

DNS ドメイン名は非修飾名に追加されるデフォルトのドメイン名サフィックスです。

例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyVideoSystem」の場合、DNS ルックアップ「MyVideoSystem.company.com」になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: [ネットワーク 1 DNS ドメイン名 (Network 1 DNS Domain Name) ]: ""

## Network [1..1] DNS Server [1..3] Address

DNS サーバのネットワーク アドレスを定義します。最大で 3 つのアドレスを指定できます。ネットワーク アドレスが不明の場合、管理者またはインターネット サービス プロバイダーにお問い合わせます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

例: [ネットワーク 1 DNS サーバ 1 アドレス (Network 1 DNS Server 1 Address) ]: ""

## Network [1..1] QoS Mode

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク内のオーディオ、ビデオおよびデータの優先順位を操作するメソッドです。QoS 設定はインフラストラクチャでサポートされている必要があります。DiffServ (ディファレンシエーテッド サービス) は、ネットワーク トラフィックの分類と管理を行い、現代的 IP ネットワークに QoS を提供するためにシンプルかつスケーラブルで粗粒度のメカニズムを指定する、コンピュータ ネットワーキング アーキテクチャです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/Diffserv>

*Off*: QoS メソッドは使用されません。

*Diffserv*: QoS モードを Diffserv に設定すると、Network QoS Diffserv Audio、Network QoS Diffserv Video、Network QoS Diffserv Data、Network QoS Diffserv Signalling、Network QoS Diffserv ICMPv6、および Network QoS Diffserv NTP の各設定を使用してパケットの優先順位が付けられます。

例: Network 1 QoS Mode: Diffserv

## Network [1..1] QoS Diffserv Audio

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で音声パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。音声に推奨されるクラスは、10 進数値 32 と等しい CS4 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..63>

*範囲*: 0~63 の値を選択します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

例: Network 1 QoS Diffserv Audio: 0

## Network [1..1] QoS Diffserv Video

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でビデオ パケットに持たせる優先順位を定義します。プレゼンテーション チャネル (共有コンテンツ) 上のパケットも、ビデオ パケットのカテゴリに属します。パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。ビデオに推奨されるクラスは、10 進数値 32 と等しい CS4 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..63>

*範囲*: 0~63 の値を選択します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

例: Network 1 QoS Diffserv Video: 0

## Network [1..1] QoS Diffserv Data

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でデータ パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。データに対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..63>

*範囲*: 0~63 の値を選択します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

例: Network 1 QoS Diffserv Data: 0

## Network [1..1] QoS Diffserv Signalling

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でリアルタイム処理に不可欠 (時間依存) であると考えられるシグナリング パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。シグナリングに推奨されるクラスは、10 進数値 24 と等しい CS3 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..63>

*範囲*: 0~63 の値を選択します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

例: Network 1 QoS Diffserv Signalling: 0

## Network [1..1] QoS Diffserv ICMPv6

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で ICMPv6 パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。ICMPv6 に対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..63>

*範囲*: 0~63 の値を選択します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

例: Network 1 QoS Diffserv ICMPv6: 0

## Network [1..1] QoS Diffserv NTP

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で NTP パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ~ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。NTP に対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..63>

*範囲*: 0~63 の値を選択します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

例: Network 1 QoS Diffserv NTP: 0

## Network [1..1] IEEE8021X Mode

システムは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用される、ポート ベースのネットワーク アクセス コントロールによって、IEEE 802.1X LAN ネットワークに接続できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: 802.1X 認証がディセーブルになります (デフォルト)。

*On*: 802.1X 認証がイネーブルになります。

例: Network 1 IEEE8021X Mode: Off



## Network [1..1] IEEE8021X TlsVerify

TLS を使用する場合は、ローカル CA リストの証明書に対する IEEE802.1x 接続のサーバ側証明書の検証です。CA リストはビデオ システムにアップロードする必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

この設定は、Network [1..1] IEEE8021X Eap Tls がイネーブル (On) の場合にだけ有効です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: Off に設定する場合、ローカル CA リストに対するサーバ側 X.509 証明書を確認せずに、TLS 接続が許可されます。これは、コーデックに CA リストがアップロードされていない場合、選択する必要があります。

*On*: On に設定する場合、すべての TLS 接続のローカル CA リストに対して、サーバ側 X.509 証明書が検証されます。有効な証明書を持つサーバだけが許可されます。

例: Network 1 IEEE8021X TlsVerify: *Off*

## Network [1..1] IEEE8021X UseClientCertificate

IEEE802.1x 接続中の、秘密キーと証明書のペアを使用した認証。認証 X.509 証明書は、ビデオ システムにアップロードされている必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: Off に設定した場合、クライアント側の証明書は使用されません (サーバ側のみ)。

*On*: On に設定した場合、クライアント (ビデオ システム) はサーバと相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

例: Network 1 IEEE8021X UseClientCertificate: *Off*

## Network [1..1] IEEE8021X Identity

802.1X ID は 802.1X 認証に必要なユーザ名です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: [ネットワーク 1 IEEE8021X ID (Network 1 IEEE8021X Identity) ]: ""

## Network [1..1] IEEE8021X Password

802.1X パスワードは 802.1X 認証に必要なパスワードです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 32>

フォーマット: 最大 32 文字の文字列。

例: [ネットワーク 1 IEEE8021X パスワード (Network 1 IEEE8021X Password) ]: ""

## Network [1..1] IEEE8021X AnonymousIdentity

802.1X 匿名 ID 文字列は、別のトンネリングされた ID をサポートする EAP-PEAP および EAP-TTLS などの EAP (Extensible Authentication Protocol) タイプとともに、非暗号化 ID として使用されます。設定された場合、匿名 ID は最初の (非暗号化) EAP ID 要求に使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: [ネットワーク 1 IEEE8021X AnonymousIdentity (Network 1 IEEE8021X AnonymousIdentity) ]: ""

## Network [1..1] IEEE8021X Eap Md5

MD5 (メッセージ ダイジェスト アルゴリズム 5) モードを設定します。これは、共有秘密に依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。MD5 は弱いセキュリティです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: EAP-MD5 プロトコルはディセーブルになります。

*On*: EAP-MD5 プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

例: Network 1 IEEE8021X Eap Md5: *On*

## Network [1..1] IEEE8021X Eap Ttls

TTLS (トンネリングされたトランスポート層セキュリティ) モードを設定します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom によって開発されました。通常 Agere Systems、Proxim および Avaya でサポートされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*:EAP-TTLS プロトコルはディセーブルになります。

*On*:EAP-TTLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

例: Network 1 IEEE8021X Eap Ttls: On

## Network [1..1] IEEE8021X Eap Tls

IEEE802.1x 接続用の EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用をイネーブルまたはディセーブルにします。RFC 5216 で規定された EAP-TLS プロトコルは最もセキュアな EAP 標準の 1 つと見なされています。LAN クライアントは、クライアント証明書を使用して認証されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*:EAP-TLS プロトコルはディセーブルになります。

*On*:EAP-TLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

例: Network 1 IEEE8021X Eap Tls: On

## Network [1..1] IEEE8021X Eap Peap

Peap (保護拡張認証プロトコル) モードを設定します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Microsoft、シスコと RSA Security により開発されました。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*:EAP-PEAP プロトコルはディセーブルになります。

*On*:EAP-PEAP プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

例: Network 1 IEEE8021X Eap Peap: On

## Network [1..1] MTU

イーサネット MTU (最大伝送単位) を設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <576..1500>

*範囲*:576 ~ 1500 バイトの値を選択します。

例: Network 1 MTU: 1500

## Network [1..1] Speed

イーサネット リンクの速度を設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/10half/10full/100half/100full/1000full>

*Auto*:リンク速度を自動ネゴシエートします。

10half: 10 Mbps 半二重に強制リンクします。

10full: 10 Mbps 全二重に強制リンクします。

100half: 100 Mbps 半二重に強制リンクします。

100full: 100 Mbps 全二重に強制リンクします。

1000full: 1 Gbps 全二重に強制リンクします。

例: Network 1 Speed: Auto

## Network [1..1] TrafficControl Mode

ネットワーク トラフィック制御モードを設定してビデオ パケットの送信レートの制御方法を決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*:ビデオ パケットをリンク速度で送信します。

*On*:ビデオ パケットを最大 20 Mbps で送信します。発信ネットワーク トラフィックのバーストを平滑化するために使用できます。

例: Network 1 TrafficControl: On

## Network [1..1] RemoteAccess Allow

リモート アクセスで SSH/Telnet/HTTP/HTTPS からコーデックに許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切られます。

ネットワーク マスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで N は IPv4 では 1 ~ 32 の範囲および IPv6 では 1 ~ 128 の範囲を表します。/N は最初の N ビットがセットされたネットワーク マスクの共通インジケータです。たとえば 192.168.0.0/24 は、192.168.0 で開始するどのアドレスとも一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: Network 1 RemoteAccess Allow: "10.11.2.3 192.168.0.0/24 2001:0db8:0000:0000:0000:ff00:0042:8329 2001:db8:abcd:0012::0/64"

## Network [1..1] VLAN Voice Mode

VLAN 音声モードを設定します。Cisco UCM (Cisco Unified Communications Manager) をプロビジョニング インフラストラクチャとして使用している場合、[VLAN 音声モード (VLAN Voice Mode)] が [自動 (Auto)] に自動的に設定されます。NetworkServices CDP Mode 設定が Off になっている場合は、Auto モードは機能しないことに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual/Off>

*Auto*: Cisco Discovery Protocol (CDP) が使用可能な場合は、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP を使用できない場合、VLAN はイネーブルになりません。

*Manual*: VLAN ID は、Network VLAN Voice VlanId の設定を使用して手動で設定されます。CDP を使用できる場合、手動設定値は、CDP によって割り当てられた値によって却下されます。

*Off*: VLAN はイネーブルになりません。

例: Network 1 VLAN Voice Mode: Auto

## Network [1..1] VLAN Voice VlanId

VLAN 音声 ID を設定します。この設定は、VLAN Voice Mode が Manual に設定されている場合にだけ有効になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..4094>

範囲: 1 ~ 4094 の値を選択します。

例: Network 1 VLAN Voice VlanId: 1

## NetworkServices 設定

### NetworkServices CDP Mode

CDP (Cisco Discovery Protocol) デーモンを有効または無効にします。CDP を有効にすると、エンドポイントは特定の統計情報とデバイス ID を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP を無効にする場合、Network VLAN Voice Mode: Auto 設定は機能しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: CDP デーモンは無効です。

*On*: CDP デーモンは有効です。

例: NetworkServices CDP Mode: On

### NetworkServices H323 Mode

システムで H.323 コールの発信および受信を可能にするかどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: H.323 コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

*On*: H.323 コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

例: NetworkServices H323 Mode: On

### NetworkServices HTTP Mode

Web ブラウザを使用したシステムへのアクセスを有効または無効にする HTTP モードを設定します。Web インターフェイスは、システム管理、コール転送などの、コール管理、診断およびソフトウェアのアップロードに使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: HTTP プロトコルはディセーブルになります。

*On*: HTTP プロトコルはイネーブルになります。

例: NetworkServices HTTP Mode: On

### NetworkServices SIP Mode

システムで SIP コールの発信および受信を可能にするかどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: SIP コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

*On*: SIP コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

例: NetworkServices SIP Mode: On

### NetworkServices Telnet Mode

Telnet は、インターネットまたはローカル エリア ネットワーク (LAN) 接続で使用されるネットワーク プロトコルです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: Telnet プロトコルはディセーブルになります。これが出荷時の設定です。

*On*: Telnet プロトコルはイネーブルになります。

例: NetworkServices Telnet Mode: Off

### NetworkServices WelcomeText

Telnet/SSH 経由でコーデックにログインする際に、ユーザに表示する情報を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: よこそテキストは次のとおりです: ログインに成功しました (Login successful)

*On*: よこそテキストは次のとおりです: <システム名>; ソフトウェア バージョン; ソフトウェアのリリース日; ログインに成功しました (Login successful)

例: NetworkServices WelcomeText: On

## NetworkServices XMLAPI Mode

ビデオ システムの XML API を有効または無効にします。セキュリティ上の理由からこれを無効にできません。XML API を無効にすると、TMS などでのリモート管理機能が制限され、ビデオ システムに接続できなくなります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: XML API は無効になります。

*On*: XML API は有効になります (デフォルト)。

例: NetworkServices XMLAPI Mode: On

## NetworkServices MultiWay Address

MultiWay アドレスは Video Communication Server に設定された Conference Factory Alias と等しい必要があります。Multiway™ 会議により、ビデオ エンドポイントのユーザは既存のコールにサードパーティを追加できます。

Multiway™ は次の場合に使用できます。

1) 既存のコールに他のユーザを追加する必要がある場合。

2) コール中にサードパーティからのコールがあり、既存のコールにその人を含める必要がある場合。

要件: Video Communication Server (VCS) のバージョン X5 以降および Codian MCU バージョン 3.1 以降。Multiway™ 会議に参加するよう招待されるビデオ システムは、H.323 コールの場合 H.323 routeToMC ファシリティ メッセージ、SIP コールの場合 SIP REFER メッセージをサポートする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列 (有効なダイヤル URI)。

例: [NetworkServices MultiWay アドレス (NetworkServices MultiWay Address)]  
:[h323:multiway@company.com]

## NetworkServices MultiWay Protocol

MultiWay コールに使用するプロトコルを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/H323/Sip>

*Auto*: システムが MultiWay コールのプロトコルを選択します。

*H323*: H323 プロトコルが MultiWay コールに使用されます。

*Sip*: SIP プロトコルが MultiWay コールに使用されます。

例: NetworkServices MultiWay Protocol: Auto

## NetworkServices HTTPS Mode

HTTPS は、ユーザのページ要求と Web サーバから返されるページの暗号化と復号化を実行する Web プロトコルです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: HTTPS プロトコルはディセーブルになります。

*On*: HTTPS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

例: NetworkServices HTTPS Mode: On

## NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate

ビデオ システムが外部 HTTPS サーバ (電話帳サーバや外部マネージャなど) に接続すると、このサーバはビデオ システムに対して自身を識別する証明書を示します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: サーバ証明書を確認しません。

*On*: サーバ証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されていることを確認するようシステムに要求します。これには、信頼できる CA のリストがシステムに事前にアップロードされている必要があります。

例: NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate: Off

## NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate

ビデオ システムが HTTPS クライアント (Web ブラウザなど) に接続すると、クライアントは自分自身を識別するためにビデオ システムに証明書を提示するように要求されることがあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: クライアント証明書を確認しません。

*On*: 信頼できる認証局 (CA) によって署名された証明書を提示するようクライアントに要求します。これには、信頼できる CA のリストがシステムに事前にアップロードされている必要があります。

例: NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate: Off

## NetworkServices HTTPS OCSP Mode

OCSP (Online Certificate Status Protocol) レスポンダ サービスのサポートを定義します。OCSP 機能により、証明書失効リスト (CRL) の代わりに OCSP を有効にして、証明書のステータスをチェックできます。

すべての発信 HTTPS 接続に対して、OCSP レスポンダを介してステータスが照会されます。対応する証明書が失効している場合、HTTPS 接続は使用されません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: OCSP サポートをディセーブルにします。

*On*: OCSP サポートをイネーブルにします。

例: NetworkServices HTTPS OCSP Mode: *off*

## NetworkServices HTTPS OCSP URL

証明書のステータスを調べるために使用される OCSP レスポンダ (サーバ) の URL を指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: [NetworkServices HTTPS OCSP URL]: [http://ocspserver.company.com:81]

## NetworkServices Medianet Metadata

Cisco Medianet 展開に関連するメタデータでメディア フローのタグ付け機能をオン/オフに切り替えます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: メディア フローはそのメタデータではタグ付けされません。

*On*: メディア フローはそのメタデータでタグ付けされます。

例: NetworkServices Medianet Metadata: *off*

## NetworkServices NTP Mode

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、リファレンス タイム サーバにシステムの時刻と日付を同期するために使用されます。時間の更新のために、タイム サーバに定期的に照会します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual/Off>

*Auto*: システムは時間を参照するために NTP サーバを使用します。デフォルトでは、NTP サーバのアドレスはネットワークの DHCP サーバから取得されます。DHCP サーバが使用されない場合、または DHCP サーバが NTP サーバ アドレスを提供しない場合、NetworkServices NTP Address 設定で指定された NTP サーバ アドレスが使用されます。

*Manual*: システムは、NetworkServices NTP Address 設定で指定された NTP サーバを使用して時間を参照します。

*Off*: システムは NTP サーバを使用しません。NetworkServices NTP Address 設定は無視されます。

例: NetworkServices NTP Mode: *Auto*

## NetworkServices NTP Address

NetworkServices NTP Mode が *Manual* に設定された場合、および NetworkServices NTP Mode が *Auto* に設定されアドレスが DHCP サーバから提供されない場合に使用される NTP サーバのアドレスです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

例: NetworkServices NTP Address: "0.tandberg.pool.ntp.org"

## NetworkServices SNMP Mode

ネットワーク管理システムでは、管理上の対応を補償する条件についてネットワーク接続デバイス（ルータ、サーバ、スイッチ、プロジェクトなど）をモニタするために SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）が使用されます。保証の管理上の注意使用されます。SNMP は、システム コンフィギュレーションを説明する管理対象システム変数の形式で管理データを公開します。これらの変数は、その後照会ででき（ReadOnly に設定）、管理アプリケーションによって設定できる場合もあります（ReadWrite に設定）。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/ReadOnly/ReadWrite>

*Off*: SNMP ネットワーク サービスをディセーブルにします。

*ReadOnly*: SNMP ネットワーク サービスを照会のみイネーブルにします。

*ReadWrite*: SNMP ネットワーク サービスの照会とコマンドの両方をイネーブルにします。

例: NetworkServices SNMP Mode: ReadOnly

## NetworkServices SNMP Host [1..3] Address

最大 3 個の SNMP マネージャのアドレスを入力します。

システムの SNMP エージェント（コーデック内）は、システム ロケーションやシステム接点についてなど、SNMP マネージャ（PC プログラムなど）からの要求に応答します。SNMP トラップはサポートされていません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

例: NetworkServices SNMP Host 1 Address: ""

## NetworkServices SNMP CommunityName

ネットワーク サービス SNMP コミュニティ名を入力します。SNMP コミュニティ名は SNMP 要求を認証するために使用されます。SNMP 要求は、コーデックの SNMP エージェントから応答を受け取るため、パスワード（大文字と小文字を区別）を持つ必要があります。デフォルトのパスワードは「public」です。Cisco TelePresence 管理スイート（TMS）がある場合、同じ SNMP コミュニティがそこで設定されていることを確認する必要があります。注: SNMP コミュニティのパスワードは大文字と小文字が区別されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: [NetworkServices SNMP CommunityName]: [public]

## NetworkServices SNMP SystemContact

ネットワーク サービス SNMP システム接点の名前を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: NetworkServices SNMP SystemContact: ""

## NetworkServices SNMP SystemLocation

ネットワーク サービス SNMP システム ロケーションの名前を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: [NetworkServices SNMP SystemLocation]: ""

## NetworkServices SSH Mode

SSH（または Secure Shell）プロトコルは、コーデックとローカル コンピュータ間でのセキュアな暗号化通信を提供できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: SSH プロトコルはディセーブルになります。

*On*: SSH プロトコルはイネーブルになります（デフォルト）。

例: NetworkServices SSH Mode: On

## NetworkServices SSH AllowPublicKey

Secure Shell (SSH) 公開キー認証をコーデックへのアクセスに使用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: SSH 公開キーは許可されません。

*On*: SSH 公開キーが許可されます。

例: NetworkServices SSH AllowPublicKey: On

## NetworkServices CTMS Mode

この設定は Cisco TelePresence Multipoint Switch (CTMS) によって制御されるマルチパーティ会議を許可するかどうかを決定します。

ビデオ システムは CTMS バージョン 1.8 以降で制御される暗号化されていないマルチパーティ会議を開始または参加できます。暗号化された会議は、ソフトウェア バージョン CTMS 1.9.1 以降でサポートされます。暗号化は NetworkServices CTMS Encryption 設定により指定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: CTMS によるマルチパーティ会議は禁止されます。

On: CTMS によるマルチパーティ会議は許可されます。

例: NetworkServices CTMS Mode: On

## NetworkServices CTMS Encryption

この設定は Cisco TelePresence Multipoint Switch (CTMS) によって制御されるマルチパーティ会議に参加する場合に、ビデオ システムが暗号化をサポートするかどうかを示します。

CTMS は会議に次の 3 種類のセキュリティ設定を割り当てます。非セキュア (暗号化しない)、ベスト エフォート (すべての参加者が暗号化をサポートしている場合は暗号化し、それ以外の場合は暗号化しない)、セキュア (常に暗号化)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/BestEffort>

Off: ビデオ システムは暗号化を許可しないため、セキュアな CTMS 会議 (暗号化) に参加できません。ベスト エフォートの CTMS 会議に参加する場合、その会議は非セキュアにダウングレードされます (暗号化しない)。

BestEffort: ビデオ システムは、CTMS と暗号化パラメータをネゴシエートし、セキュアな CTMS 会議 (暗号化) に参加できます。CTMS のバージョンが 1.9.1 より古い場合には、この値を使用しないでください。

例: NetworkServices CTMS Encryption: Off



## 周辺機器の設定

### Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing

ビデオ システムのユーザ インターフェイスとして Cisco Touch 10 (タッチ コントローラ) を使用するには、ネットワーク (LAN) 経由で Touch 10 をビデオ システムとペアリングする必要があります。これは、リモート ペアリングと呼ばれます。

リモート ペアリングはデフォルトで許可されています。リモート ペアリングを回避する場合は、この設定をオフに切り替えてください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: Touch 10 のリモート ペアリングは許可されません。

On: タッチ 10 リモート ペアリングは許可されます。

例: Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: On

### Peripherals Profile TouchPanels

ビデオ システムに接続されることが予想されるタッチ パネルの数を設定します。この情報はビデオ システムの診断サービスで使用します。接続されたタッチ パネルの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。このバージョンでサポートされるシスコ タッチ コントローラは、1 台のみであることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5>

NotSet: タッチ パネル チェックは実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 台のタッチ パネルがビデオ システムに接続されている必要があります。

0-5: この数のタッチ コントローラがビデオ システムに接続されている必要があります。

例: Peripherals Profile TouchPanels: NotSet

## 電話帳の設定

### Phonebook Server [1..1] ID

外部の電話帳の名前を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: Phonebook Server 1 ID: ""

### Phonebook Server [1..1] Type

電話帳サーバの種類を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <VCS/TMS/Callway/CUCM>

VCS: 電話帳が Cisco TelePresence ビデオ コミュニケーション サーバにある場合は、VCS を選択します。

TMS: 電話帳が Cisco TelePresence 管理スイート サーバにある場合は、TMS を選択します。

Callway: 電話帳が WebEx TelePresence サブスクリプション サービス (旧称: CallWay) によって提供される場合は、Callway を選択します。詳細については WebEx TelePresence のプロバイダーにお問い合わせください。

CUCM: 電話帳が Cisco Unified Communications Manager にある場合は、CUCM を選択します。

例: Phonebook Server 1 Type: TMS

### Phonebook Server [1..1] URL

外部電話帳のサーバ アドレス (URL) を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: Phonebook Server 1 URL: "http://tms.company.com/tms/public/external/phonebook/phonebookservice.asmx"

## プロビジョニング設定

### Provisioning Connectivity

この設定は、プロビジョニング サーバからの内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを、デバイスがどのように検出するか制御します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Internal/External/Auto>

Internal: 内部コンフィギュレーションを要求します。

External: 外部コンフィギュレーションを要求します。

Auto: 内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを自動的に NAPTR クエリーを使用して検出します。NAPTR の応答に「e」フラグがある場合、外部コンフィギュレーションが要求されます。それ以外の場合、内部コンフィギュレーションが要求されます。

例: Provisioning Connectivity: Auto

### Provisioning Mode

プロビジョニング システム (外部マネージャ) を使用してビデオ システムを設定できます。これにより、ビデオ会議のネットワーク管理者は複数のビデオ システムを同時に管理することができます。この設定により、使用するプロビジョニング システムの種類を選択します。プロビジョニングは、オフに切り替えることも可能です。詳細については、プロビジョニング システムのプロバイダー/担当者にお問い合わせください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/TMS/VCS/CallWay/CUCM/Auto/Edge>

Off: ビデオ システムはプロビジョニング システムによって設定されません。

Auto: プロビジョニング サーバはビデオ システムによって自動的に選択されます。

TMS: ビデオ システムは TMS (Cisco TelePresence 管理システム) を使用して設定されます。

VCS: ビデオ システムは VCS (Cisco TelePresence ビデオ コミュニケーション サーバ) を使用して設定されます。

Callway: ビデオ システムは WebEx TelePresence サブスクリプション サービス (旧称: CallWay) を使用して設定します。

CUCM: ビデオ システムは CUCM (Cisco Unified Communications Manager) を使用して設定されます。

Edge: システムは Collaboration Edge インフラストラクチャを経由して CUCM に接続します。

例: Provisioning Mode: Auto

### Provisioning LoginName

これは、指定サーバとのビデオ システムの認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。Provisioning Mode が Callway (WebEx TelePresence) の場合、ビデオ番号を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 80>

フォーマット: 最大 80 文字の文字列。

例: [プロビジョニング ログイン名 (Provisioning LoginName) ]:""

### Provisioning Password

これは、指定サーバとのビデオ システムの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。Provisioning Mode が Callway (WebEx TelePresence) の場合、アクティベーション コードを入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: [プロビジョニング パスワード (Provisioning Password) ]:""

### Provisioning HttpMethod

HTTP 方式をプロビジョニングに使用する場合に選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <GET/POST>

GET: プロビジョニング サーバが GET をサポートする場合、GET を選択します。

POST: プロビジョニング サーバが POST をサポートする場合、POST を選択します。

例: Provisioning HttpMethod: POST

## Provisioning ExternalManager Address

外部マネージャやプロビジョニング システムの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

外部マネージャのアドレス (およびパス) が設定されている場合、システムはスタートアップ時にこのアドレスにメッセージを送信します。このメッセージを受信すると、結果として外部マネージャ/プロビジョニング システムはそのユニットにコンフィギュレーション/コマンドを返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャ アドレスを自動的に提供するために DHCP サーバをセットアップできます (TMS には DHCP オプション 242、CUCM には DHCP オプション 150)。Provisioning ExternalManager Address で設定されたアドレスは、DHCP によって提供されるアドレスを上書きします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

例: [プロビジョニング ExternalManager アドレス (Provisioning ExternalManager Address) ]:""

## Provisioning ExternalManager AlternateAddress

エンドポイントが Cisco Unified Communications Manager (CUCM) でプロビジョニングされており、代替 CUCM が冗長性に利用可能な場合にのみ使用できます。代替 CUCM のアドレスを入力します。主な CUCM が使用できない場合、エンドポイントは代替 CUCM でプロビジョニングされます。主な CUCM が再び使用可能になると、エンドポイントはこの CUCM によってプロビジョニングされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

例: [プロビジョニング ExternalManager AlternateAddress (Provisioning ExternalManager AlternateAddress) ]:""

## Provisioning ExternalManager Protocol

セキュア管理を使用するかどうかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <HTTP/HTTPS>

HTTP: HTTP に設定してセキュアな管理をディセーブルにします。HTTP は NetworkServices HTTP Mode の設定でイネーブルにする必要があります。

HTTPS: HTTPS に設定してセキュアな管理をイネーブルにします。HTTPS は NetworkServices HTTPS Mode の設定でイネーブルにする必要があります。

例: Provisioning ExternalManager Protocol: HTTP

## Provisioning ExternalManager Path

外部マネージャ/プロビジョニング システムへのパスを設定します。いくつかの管理サービスが同じサーバに存在する、つまり同じ外部マネージャのアドレスを共有する場合、この設定が必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: Provisioning ExternalManager Path: "tms/public/external/management/SystemManagementService.asmx"

## Provisioning ExternalManager Domain

VCS プロビジョニング サーバの SIP ドメインを入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: [プロビジョニング ExternalManager ドメイン (Provisioning ExternalManager Domain) ]:[any.domain.com]

## RTP 設定

### RTP Ports Range Start

RTP ポート範囲の最初のポートを指定します。

デフォルトで、RTP および RTCP メディア データに 2326 ~ 2487 の範囲の UDP ポートを使用します。各メディア チャネルは RTP および RTCP に 2 つの隣接ポートを使用します。UDP ポート範囲に必要なポートの数は、エンドポイントで対応できる同時コールの数に基づいています。

注: この設定への変更を反映させるには、システムを再起動します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1024..65438>

範囲: 1024 ~ 65438 の値を選択します。

例: RTP Ports Range Start: 2326

### RTP Ports Range Stop

RTP ポート範囲の最後のポートを指定します。

デフォルトで、RTP および RTCP メディア データに 2326 ~ 2487 の範囲の UDP ポートを使用します。各メディア チャネルは RTP および RTCP に 2 つの隣接ポートを使用します。UDP ポート範囲に必要なポートの数は、エンドポイントで対応できる同時コールの数に基づいています。

注: この設定への変更を反映させるには、システムを再起動します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1120..65535>

範囲: 1120 ~ 65535 の値を選択します。

例: RTP Ports Range Stop: 2486

## セキュリティ設定

### Security Audit Logging Mode

監査ログを記録または送信する場所を設定します。監査ログは syslog サーバに送信されます。External/ExternalSecure モードを使用し、[セキュリティ監査サーバ ポート割り当て (Security Audit Server PortAssignment)] 設定でポート割り当てを [手動 (Manual)] に設定する場合は、[セキュリティ監査サーバ アドレス (Security Audit Server Address)] と [セキュリティ監査サーバのポート (Security Audit Server Port)] の設定で監査サーバのアドレスとポート番号も入力する必要があります。

必要なユーザ ロール: AUDIT

値スペース: <Off/Internal/External/ExternalSecure>

Off: 監査ロギングは実行されません。

Internal: システムは内部ログに監査ログを記録し、いっぱいになった場合はログをローテーションします。

External: システムは外部監査 syslog サーバに監査ログを送信します。syslog サーバでは UDP をサポートする必要があります。

ExternalSecure: システムは監査 CA リストの証明書で検証された外部 syslog サーバに暗号化された監査ログを送信します。監査 CA リスト ファイルは、Web インターフェイスを使用してコーデックにアップロードする必要があります。CA のリストの証明書の common\_name パラメータは syslog サーバの IP アドレスと一致する必要があり、セキュア TCP サーバでセキュア (TLS) TCP syslog メッセージをリッスンするように設定される必要があります。

例: Security Audit Logging Mode: Off

### Security Audit OnError Action

syslog サーバへの接続が失われた場合の動作を指定します。この設定は、Security Audit Logging Mode が ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

必要なユーザ ロール: AUDIT

値スペース: <Halt/Ignore>

Halt: 停止状態が検出された場合、システム コーデックはリポートし、停止状態が過ぎ去るまではオペレータだけが装置の操作を許可されます。停止状態が過ぎ去ると、監査ログは syslog サーバに再スプールされます。ネットワークの違反 (物理リンクなし)、動作中の外 Syslog サーバが存在しない (または syslog への間違ったアドレスまたはポート)、TLS 認証が失敗した (使用中の場合)、ローカル バックアップ (再スプール) ログがいっぱいになった、などの停止状態があります。

Ignore: システムは、通常の動作を続行し、いっぱいになった場合は内部ログをローテーションします。接続が復元されると syslog サーバに再度監査ログを送信します。

例: Security Audit OnError Action: Ignore

### Security Audit Server Address

監査ログは syslog サーバに送信されます。Syslog サーバの IP アドレスを入力します。有効な IPv4 または IPv6 のアドレス形式のみが受け入れられます。ホスト名はサポートされていません。この設定は、Security Audit Logging Mode が External または ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

必要なユーザ ロール: AUDIT

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス

例: [セキュリティ監査サーバ アドレス (Security Audit Server Address)]: ""

### Security Audit Server Port

監査ログは syslog サーバに送信されます。システムが監査ログを送信する syslog サーバのポートを入力します。この設定は、[セキュリティ監査ポートの割り当て (Security Audit PortAssignment)] が [手動 (Manual)] に設定されている場合のみ関連します。

必要なユーザ ロール: AUDIT

値スペース: <0..65535>

範囲: 0 ~ 65535 の値を選択します。

例: Security Audit Server Port: 514

## Security Audit Server PortAssignment

監査ログは syslog サーバに送信されます。外部 syslog サーバのポート番号の割り当て方法を定義できます。この設定は、Security Audit Logging Mode が External または ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。使用しているポート番号を確認するために、[セキュリティ監査サーバのポート (Security Audit Server Port) ] 状態をチェックできます。Web インターフェイスで [設定 (Configuration) ] > [システム ステータス (System Status) ] に移動するか、コマンドライン インターフェイスの場合はコマンド `xStatus Security Audit Server Port` を実行します。

必要なユーザ ロール: AUDIT

値スペース: <Auto/Manual>

*Auto*: [セキュリティ監査ロギング モード (Security Audit Logging Mode) ] が [外部 (External) ] にセットされている場合、UDP ポート番号 514 を使用します。Security Audit Logging Mode が ExternalSecure にセットされている場合、TCP ポート番号 6514 を使用します。

*Manual*: [セキュリティ監査サーバのポート (Security Audit Server Port) ] 設定で定義されたポート値を使用します。

例: `Security Audit Server PortAssignment: Auto`

## Security Session ShowLastLogon

SSH または Telnet を使用してシステムにログインしたとき、前回ログインに成功したセッションの UserId、時刻および日付が表示されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*On*:最後のセッションに関する情報を表示します。

*Off*:最後のセッションに関する情報を表示しません。

例: `Security Session ShowLastLogon: Off`

## Security Session InactivityTimeout

ユーザが自動的にログアウトする前に、システムがユーザの非アクティブ状態をどれくらいの時間受け入れるか決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..10000>

*範囲*:1 ~ 10000 秒の値を選択します。または、非アクティブ状態により自動ログアウトを強制しない場合は、0 を選択します。

例: `Security Session InactivityTimeout: 0`

## SerialPort 設定

### SerialPort Mode

シリアル ポート (USB および RS-232 アダプタ経由で接続) を有効または無効にします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: シリアル ポートをディセーブルにします。

*On*: シリアル ポートをイネーブルにします。

例: SerialPort Mode: On

### SerialPort BaudRate

シリアル ポートに、ボー レート (データ送信レート、ビット/秒) を指定します。デフォルト値は 38400 です。

シリアル ポートの他の接続パラメータは次のとおりです。データ ビット: 8。パリティ: なし。ストップ ビット: 1。フロー制御: なし。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <9600/19200/38400/57600/115200>

*範囲*: リストされているボー レート (bps) からボー レートを選択します。

例: SerialPort BaudRate: 38400

### SerialPort LoginRequired

シリアル ポートに接続するときにログインが必要かどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: ユーザはログインせずに、シリアル ポート経由でコーデックにアクセスできます。

*On*: シリアル ポート経由でコーデックに接続するときに、ログインが必要です。

例: SerialPort LoginRequired: On



## SIP 設定 (SIP settings)

### SIP ANAT

ANAT (Alternative Network Address Types) は RFC 4091 で規定されている複数のアドレスとアドレス タイプのメディア ネゴシエーションを有効にします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: ANAT を無効にします。

*On*: ANAT を有効にします。

例: SIP ANAT: Off

### SIP AuthenticateTransferError

このバージョンでは適用されません。

### SIP ListenPort

SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンまたはオフにします。オフにした場合、エンドポイントは SIP レジストラ (CUCM または VCS) を介してのみ到達可能になります。この設定はデフォルト値のままにすることを推奨します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオフにします。

*On*: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンにします。

例: SIP ListenPort: On

### SIP PreferredIPMedia

メディア (音声、ビデオ、データ) を送受信するための優先 IP バージョンを定義します。[Network IPStack] および [Conference CallProtocolIPStack] の両方が [デュアル (Dual)] に設定されていて、ネットワークに優先 IP バージョンを選択するメカニズムがない場合にのみ使用可能です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <IPv4/IPv6>

IPv4: メディアの優先 IP バージョンは IPv4 です。

IPv6: メディアの優先 IP バージョンは IPv6 です。

例: SIP PreferredIPMedia: IPv4

### SIP PreferredIPSignaling

シグナリングの優先 IP バージョンを定義します (音声、ビデオ、データ)。Network IPStack および Conference CallProtocolIPStack の両方が Dual に設定されていて、ネットワークに優先 IP バージョンを選択するメカニズムがない場合にのみ使用可能です。また、優先 IP バージョンが登録に使用されるように、DNS で A/AAAA ルックアップのプライオリティを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <IPv4/IPv6>

IPv4: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv4 です。

IPv6: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv6 です。

例: SIP PreferredIPSignaling: IPv4

### SIP OCSP Mode

このバージョンでは適用されません。

### SIP OCSP DefaultResponder

このバージョンでは適用されません。

## SIP Profile [1..1] Ice Mode

ICE (Interactive Connectivity Establishment, RFC 5245) は、最適化されたメディアパスの検出にエンドポイントで使用できる NAT トラバーサル ソリューションです。このため、音声とビデオの最短ルートがエンドポイント間で常に確保されます。注: ICE は CUCM (Cisco Unified Communication Manager) に登録された場合はサポートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Off/On>

*Auto*: Auto に設定すると、TURN サーバを指定した場合に ICE が有効になります。そうでない場合 ICE は無効です。

*Off*: ICE を無効にします。

*On*: ICE を有効にします。

例: SIP Profile 1 Ice Mode: Auto

## SIP Profile [1..1] Ice DefaultCandidate

これは、ICE が使用するメディア ルートを決定するまで (コールの最初の 5 秒まで) エンドポイントがメディアを受け取るデフォルトの IP アドレスです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Host/Rflx/Relay>

*Host*: エンドポイントは固有の IP アドレスでメディアを受信します。

*Rflx*: エンドポイントは TURN サーバで認識されるパブリック IP アドレスでメディアを受信します。

*Relay*: エンドポイントは TURN サーバで割り当てられた IP アドレスとポートでメディアを受信し、ICE が完了するまでフォールバックとして使用されます。

例: SIP Profile 1 Ice DefaultCandidate: Host

## SIP Profile [1..1] Turn DiscoverMode

アプリケーションで DNS で利用可能な TURN サーバの検索を有効または無効にするには、検出モードを設定します。コールを発信する前に、システムはポート割り当てが可能かどうかを確認します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: 検出モードを無効にします。

*On*: DNS で利用可能な TURN サーバを検索し、コールを発信する前にポート割り当てが可能かどうかをテストします。

例: SIP Profile Turn DiscoverMode: On

## SIP Profile [1..1] Turn BandwidthProbe

このバージョンでは適用されません。

## SIP Profile [1..1] Turn DropRflx

DropRflx は、リモート エンドポイントが同じネットワークにない場合に限り、TURN リレー経由でエンドポイントにメディアを強制させます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: DropRflx を無効にします。

*On*: リモート エンドポイントが別のネットワークにある場合、TURN リレー経由でメディアを強制します。

例: SIP Profile Turn DropRflx: Off

## SIP Profile [1..1] Turn Server

これはエンドポイントで使用される TURN (Traversal Using Relay NAT) サーバのアドレスです。これはメディア リレー フォールバックとして使用され、また、エンドポイント固有のパブリック IP アドレスを検出するためにも使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 優先されるフォーマットは DNS SRV レコード (例: `_turn._udp.<domain>`) です。または、有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを指定できます。

例: [SIP プロファイル 1 TURN サーバ (SIP Profile 1 Turn Server)]: `[_turn._udp.example.com]`

## SIP Profile [1..1] Turn UserName

TURN サーバへのアクセスに必要なユーザ名です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 128>

フォーマット: 最大 128 文字の文字列。

例: [SIP プロファイル 1 TURN ユーザ名 (SIP Profile 1 Turn UserName)]: ""

### SIP Profile [1..1] Turn Password

TURN サーバへのアクセスに必要なパスワードです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 128>

フォーマット: 最大 128 文字の文字列。

例: [SIP プロファイル 1 TURN パスワード (SIP Profile 1 Turn Password)]: ""

### SIP Profile [1..1] URI

SIP URI (Uniform Resource Identifier) は、ビデオ システムの識別に使用されるアドレスです。URI が登録され、SIP サービスによりシステムへの着信コールのルーティングに使用されます。SIP URI 構文は RFC 3261 で定義されています。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大で 255 文字で SIP URI 構文に準拠します。

例: [SIP プロファイル 1 URI (SIP Profile 1 URI)]: [sip:firstname.lastname@company.com]

### SIP Profile [1..1] DisplayName

設定されたとき、着信コールは SIP URI ではなく、DisplayName を報告します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: [SIP プロファイル 1 表示名 (SIP Profile 1 DisplayName)]: ""

### SIP Profile [1..1] Authentication [1..1] LoginName

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 128>

フォーマット: 最大 128 文字の文字列。

例: [SIP プロファイル 1 認証 1 ログイン名 (SIP Profile 1 Authentication 1 LoginName)]: ""

### SIP Profile [1..1] Authentication [1..1] Password

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 128>

フォーマット: 最大 128 文字の文字列。

例: [SIP プロファイル 1 認証 1 パスワード (SIP Profile 1 Authentication 1 Password)]: ""

### SIP Profile [1..1] DefaultTransport

LAN で使用するトランスポート プロトコルを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <TCP/UDP/Tls/Auto>

TCP: システムはデフォルトの転送方法として常に TCP を使用します。

UDP: システムはデフォルトの転送方法として常に UDP を使用します。

Tls: システムはデフォルトの転送方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをビデオ システムにアップロードできます。このような CA リストがシステムにない場合は匿名の Diffie Hellman が使用されます。

Auto: システムは、TLS、TCP、UDP の順序でトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

例: SIP Profile 1 DefaultTransport: Auto

### SIP Profile [1..1] TlsVerify

TLS 接続の場合、SIP CA リストをビデオ システムにアップロードできます。これは、Web インターフェイスから実行できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: 検証せずに TLS 接続を許可するには、Off に設定します。TLS 接続は、サーバから受信した x.509 証明書をローカル CA リストと確認せずにセットアップできます。これは通常、コーデックに SIP CA リストがアップロードされていない場合、選択する必要があります。

On: TLS 接続を確認するには、On に設定します。x.509 証明書が CA リストで検証された、サーバへの TLS 接続だけが許可されます。

例: SIP Profile 1 TlsVerify: Off

## SIP Profile [1..1] Outbound

ファイアウォール トラバース、接続の再利用および冗長性のための、クライアント開始接続メカニズムをオンまたはオフにします。現在のバージョンは RFC 5626 をサポートします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: プロキシ アドレス リストに最初に設定されている単一プロキシに接続します。

*On*: プロキシ アドレス リストのサーバへの複数のアウトバウンド接続をセットアップします。SIP アウトバウンド要求ごとに、ランダムなプロキシがリストから選択されます。

例: SIP Profile 1 Outbound: Off

## SIP Profile [1..1] Proxy [1..4] Address

プロキシ アドレスは発信プロキシに手動で設定されたアドレスです。デフォルト ポートは、TCP および UDP の場合は 5060 ですが、もう 1 ポート準備できます。

SIP プロファイル発信が有効の場合、複数のプロキシをアドレス指定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: SIP プロファイル発信がイネーブルの場合、完全修飾ドメイン名を使用します。SIP プロファイル発信がディセーブルの場合、有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスも使用できます。

例: [SIP プロファイル 1 プロキシ 1 アドレス (SIP Profile 1 Proxy 1 Address) ]: ""

## SIP Profile [1..1] Proxy [1..4] Discovery

SIP プロキシ アドレスを手動とダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) のどちらを使用して取得するかを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

*Auto*: Auto が選択されると、ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) を使用して SIP プロキシ アドレスを取得します。

*Manual*: Manual が選択されると、手動で設定された SIP プロキシ アドレスが使用されます。

例: SIP Profile 1 Proxy 1 Discovery: Manual

## SIP Profile [1..1] Type

ベンダーまたはプロバイダーに対する SIP 拡張および特別な動作を有効にします。

注: SIP タイプの Alcatel、Avaya、Microsoft、Nortel はソフトウェア バージョン TC6.3 からサポートされなくなりました。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Standard/Cisco>

*Standard*: 標準 SIP プロキシに登録する場合はこれを使用します (Cisco TelePresence VCS および Broadsoft でテスト済み)

*Cisco*: Cisco Unified Communications Manager に登録する場合はこれを使用します。

例: SIP Profile 1 Type: Standard

## SIP Profile [1..1] Mailbox

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、個人用ボイス メールボックスを所有するオプションが与えられます。メールボックスの番号 (アドレス) をこの設定に入力するか、またはボイス メールボックスがない場合は文字列を空のままにしてください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: SIP Profile 1 Mailbox: "12345678"

## SIP Profile [1..1] Line

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、エンドポイントを共有回線の一部にできます。これは、複数のデバイスが同じディレクトリ番号を共有することを意味します。RFC 4235 で規定されているように、同じ番号を共有する各デバイスは、ライン上のもう一方のアピアランスからステータスを受け取ります。

共有回線はエンドポイントではなく CUCM によって設定されることに注意してください。そのため、手動でこの設定を変更しないでください。CUCM は必要に応じてこの情報をエンドポイントにプッシュします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Private/Shared>

*Shared*: システムは共有回線の一部であるため、ディレクトリ番号を他のデバイスと共有します。

*Private*: このシステムは共有回線の一部ではありません (デフォルト)。

例: SIP Profile 1 Line: Private

## スタンバイ設定

### Standby Control

システムがスタンバイ モードに移動するかどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: システムはスタンバイ モードを開始しません。

*On*: Standby Delay がタイムアウトになったときにスタンバイ モードを開始します。[スタンバイ遅延 (Standby Delay)] を適切な値に設定する必要があります。

例: Standby Control: On

### Standby Delay

スタンバイ モードに入る前に、システムがアイドル モードのまま経過する時間の長さ (分単位) を定義します。[スタンバイ制御 (Standby Control)] が有効である必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..480>

*範囲*: 1 ~ 480 分の値を選択します。

例: Standby Delay: 10

### Standby BootAction

コーデックの再起動後のカメラの位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <None/Preset1/Preset2/Preset3/Preset4/Preset5/Preset6/Preset7/Preset8/Preset9/Preset10/Preset11/Preset12/Preset13/Preset14/Preset15/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition>

None: アクションはありません。

Preset1 ~ Preset15: 再起動後、カメラ位置は選択したプリセットによって定義された位置にセットされます。

RestoreCameraPosition: 再起動後、カメラ位置は前回のブート前の位置にセットされます。

DefaultCameraPosition: 再起動後、カメラ位置は工場出荷時のデフォルトの位置にセットされず。

例: Standby BootAction: DefaultCameraPosition

### Standby StandbyAction

スタンバイ モードに入るときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <None/PrivacyPosition>

None: アクションはありません。

PrivacyPosition: プライバシーのためカメラを横向き位置に向けます。

例: Standby StandbyAction: PrivacyPosition

### Standby WakeupAction

スタンバイ モードを抜けるときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <None/Preset1/Preset2/Preset3/Preset4/Preset5/Preset6/Preset7/Preset8/Preset9/Preset10/Preset11/Preset12/Preset13/Preset14/Preset15/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition>

None: アクションはありません。

Preset1 ~ Preset15: スタンバイを抜けるとき、カメラ位置は選択したプリセットによって定義された位置にセットされます。

RestoreCameraPosition: スタンバイを抜けるとき、カメラ位置はスタンバイに入る前の位置にセットされます。

DefaultCameraPosition: スタンバイを抜けるとき、カメラ位置は工場出荷時のデフォルトの位置にセットされます。

例: Standby WakeupAction: RestoreCameraPosition

## SystemUnit 設定

### SystemUnit Name

システム名を定義します。コーデックが SNMP エージェントとして機能している場合に、システム名は DHCP 要求でホスト名として送信されます。システム名を定義します。コーデックが SNMP エージェントとして機能している場合に、システム名は DHCP 要求でホスト名として送信されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: SystemUnit Name: "Meeting Room"

### SystemUnit MenuLanguage

画面上のメニューまたはタッチ コントローラで使用する言語を選択します。すべての言語が両方のユーザ インターフェイスでサポートされるわけではありません。デフォルトの言語は英語です。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <English/ChineseSimplified/ChineseTraditional/Catalan/Czech/Danish/Dutch/Finnish/French/German/Hungarian/Italian/Japanese/Korean/Norwegian/Polish/PortugueseBrazilian/Russian/Spanish/Swedish/Turkish/Arabic/Hebrew>

例: SystemUnit MenuLanguage: English

### SystemUnit CallLogging Mode

システムが受信または送信するコールのコール ログニング モードを設定します。通話履歴は、Web インターフェイスまたは xCommand CallHistory Get コマンドを使用して表示できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: ログニングをディセーブルにします。

On: ログニングをイネーブルにします。

例: SystemUnit CallLogging Mode: On

### SystemUnit ContactInfo Type

メイン ディスプレイまたはタッチ コントローラの左上隅にあるステータス フィールドに表示する、連絡先情報の種類を選択します。情報は、xStatus SystemUnit ContactInfo コマンドでも読み込むことができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/None/IPv4/IPv6/H323Id/E164Alias/H320Number/SipUri/SystemName/DisplayName>

Auto: このシステムに到達するために別のシステムがダイヤルできるアドレスを示します。アドレスはデフォルトのコール プロトコルおよびシステム登録によって異なります。

None: ステータス フィールドに連絡先情報を表示しません。

IPv4: 連絡先情報として IPv4 アドレスを表示します。

IPv6: 連絡先情報として IPv6 アドレスを表示します。

H323Id: 連絡先情報として H.323 ID を表示します (H323 Profile [1..1] H323Alias ID 設定を参照)。

E164Alias: 連絡先情報として H.323 E164 エイリアスを表示します (H323 Profile [1..1] H323Alias E164 設定を参照)。

H320Number: 連絡先情報として H.320 番号を表示します (Cisco TelePresence ISDN リンクゲートウェイに接続されている場合のみ)。

SipUri: 連絡先情報として SIP URI を表示します (SIP Profile [1..1] URI 設定を参照)。

SystemName: 連絡先情報としてシステム名を表示します (SystemUnit Name 設定を参照)。

DisplayName: 連絡先情報として表示名を表示します (SIP Profile [1..1] DisplayName 設定を参照)。

例: SystemUnit ContactInfo Type: Auto

## SystemUnit IrSensor

コーデックには、電源ボタンの下に短距離 IR センサーが備わっています。リモート コントロールで使用できますが、通常の操作用ではありません。トラブルシューティングやシステム リカバリで必要になった場合にのみ使用してください。通常の操作には、カメラの IR センサーをリモート コントロールで使用する必要があります。Cameras Camera [1] 設定を参照してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Off/On>

*Auto*: カメラの IR センサーがイネーブルの場合、コーデックの IR センサーはディセーブルになります。カメラの IR センサーが無効の場合にのみ、コーデックの IR センサーは有効になります。

*Off*: コーデックの IR センサーをディセーブルにします。

*On*: コーデックの IR センサーをイネーブルにします。

例: SystemUnit IrSensor: Auto

## 時刻設定

### Time TimeFormat

時間のフォーマットを設定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <24H/12H>

24H: 24 時間の時間フォーマットを設定します。

12H: 12 時間 (AM/PM) の時間フォーマットを設定します。

例: Time TimeFormat: 24H

### Time DateFormat

日付のフォーマットを設定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <DD\_MM\_YY/MM\_DD\_YY\_YY\_MM\_DD>

DD\_MM\_YY: 2010 年 1 月 30 日は「30.01.10」と表示されます。

MM\_DD\_YY: 2010 年 1 月 30 日は「01.30.10」と表示されます。

YY\_MM\_DD: 2010 年 1 月 30 日は「10.01.30」と表示されます。

例: Time DateFormat: DD\_MM\_YY

### Time Zone

これは、ソフトウェア バージョン TC7.2 以降、Time OlsonZone 設定で置き換えられました。



## Time OlsonZone

ビデオ システムの地理的な場所のタイム ゾーンを設定します。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <Africa/Abidjan, Africa/Accra, Africa/Addis\_Ababa, Africa/Algiers, Africa/Asmara, Africa/Asmera, Africa/Bamako, Africa/Bangui, Africa/Banjul, Africa/Bissau, Africa/Blantyre, Africa/Brazzaville, Africa/Bujumbura, Africa/Cairo, Africa/Casablanca, Africa/Ceuta, Africa/Conakry, Africa/Dakar, Africa/Dar\_es\_Salaam, Africa/Djibouti, Africa/Douala, Africa/El\_Aaiun, Africa/Freetown, Africa/Gaborone, Africa/Harare, Africa/Johannesburg, Africa/Juba, Africa/Kampala, Africa/Khartoum, Africa/Kigali, Africa/Kinshasa, Africa/Lagos, Africa/Libreville, Africa/Lome, Africa/Luanda, Africa/Lubumbashi, Africa/Lusaka, Africa/Malabo, Africa/Maputo, Africa/Maseru, Africa/Mbabane, Africa/Mogadishu, Africa/Monrovia, Africa/Nairobi, Africa/Ndjamena, Africa/Niamey, Africa/Nouakchott, Africa/Ouagadougou, Africa/Porto-Novo, Africa/Sao\_Tome, Africa/Timbuktu, Africa/Tripoli, Africa/Tunis, Africa/Windhoek, America/Adak, America/Anchorage, America/Anguilla, America/Antigua, America/Araguaina, America/Argentina/Buenos\_Aires, America/Argentina/Catamarca, America/Argentina/ComodRivadavia, America/Argentina/Cordoba, America/Argentina/Jujuy, America/Argentina/La\_Rioja, America/Argentina/Mendoza, America/Argentina/Rio\_Gallegos, America/Argentina/Salta, America/Argentina/San\_Juan, America/Argentina/San\_Luis, America/Argentina/Tucuman, America/Argentina/Ushuaia, America/Aruba, America/Asuncion, America/Atikokan, America/Atka, America/Bahia, America/Bahia\_Banderas, America/Barbados, America/Belem, America/Belize, America/Blanc-Sablon, America/Boa\_Vista, America/Bogota, America/Boise, America/Buenos\_Aires, America/Cambridge\_Bay, America/Campo\_Grande, America/Cancun, America/Caracas, America/Catamarca, America/Cayenne, America/Cayman, America/Chicago, America/Chihuahua, America/Coral\_Harbour, America/Cordoba, America/Costa\_Rica, America/Creston, America/Cuiaba, America/Curacao, America/Danmarkshavn, America/Dawson, America/Dawson\_Creek, America/Denver, America/Detroit, America/Dominica, America/Edmonton, America/Eirunepe, America/El\_Salvador, America/Ensenada, America/Fort\_Wayne, America/Fortaleza, America/Glace\_Bay, America/Godthab, America/Goose\_Bay, America/Grand\_Turk, America/Grenada, America/Guadeloupe, America/Guatemala, America/Guayaquil, America/Guyana, America/Halifax, America/Havana, America/Hermosillo, America/Indiana/Indianapolis, America/Indiana/Knox, America/Indiana/Marengo, America/Indiana/Petersburg, America/Indiana/Tell\_City, America/Indiana/Vevay, America/Indiana/Vincennes, America/Indiana/Winamac, America/Indianapolis, America/Inuvik, America/Iqaluit, America/Jamaica, America/Jujuy, America/Juneau, America/Kentucky/Louisville, America/Kentucky/Monticello, America/Knox\_IN, America/Kralendijk, America/La\_Paz, America/Lima, America/Los\_Angeles, America/Louisville, America/Lower\_Princes, America/Maceio, America/Managua, America/Manaus, America/Marigot, America/Martinique, America/Matamoros, America/Mazatlan, America/Mendoza, America/Menominee, America/Merida, America/Metlakatla, America/Mexico\_City, America/Miquelon, America/Moncton, America/Monterrey, America/Montevideo, America/Montreal, America/Montserrat, America/Nassau, America/New\_York, America/Nipigon, America/Nome, America/Noronha, America/North\_Dakota/Beulah, America/North\_Dakota/Center,

America/North\_Dakota/New\_Salem, America/Ojinaga, America/Panama, America/Pangnirtung, America/Paramaribo, America/Phoenix, America/Port-au-Prince, America/Port\_of\_Spain, America/Porto\_Acre, America/Porto\_Velho, America/Puerto\_Rico, America/Rainy\_River, America/Rankin\_Inlet, America/Recife, America/Regina, America/Resolute, America/Rio\_Branco, America/Rosario, America/Santa\_Isabel, America/Santarem, America/Santiago, America/Santo\_Domingo, America/Sao\_Paulo, America/Scoresbysund, America/Shiprock, America/Sitka, America/St\_Barthelemy, America/St\_Johns, America/St\_Kitts, America/St\_Lucia, America/St\_Thomas, America/St\_Vincent, America/Swift\_Current, America/Tegucigalpa, America/Thule, America/Thunder\_Bay, America/Tijuana, America/Toronto, America/Tortola, America/Vancouver, America/Virgin, America/Whitehorse, America/Winnipeg, America/Yakutat, America/Yellowknife, Antarctica/Casey, Antarctica/Davis, Antarctica/DumontDUrville, Antarctica/Macquarie, Antarctica/Mawson, Antarctica/McMurdo, Antarctica/Palmer, Antarctica/Rothera, Antarctica/South\_Pole, Antarctica/Syowa, Antarctica/Vostok, Arctic/Longyearbyen, Asia/Aden, Asia/Almaty, Asia/Amman, Asia/Anadyr, Asia/Aqttau, Asia/Aqtobe, Asia/Ashgabat, Asia/Ashkhabad, Asia/Baghdad, Asia/Bahrain, Asia/Baku, Asia/Bangkok, Asia/Beirut, Asia/Bishkek, Asia/Brunei, Asia/Calcutta, Asia/Choibalsan, Asia/Chongqing, Asia/Chungking, Asia/Colombo, Asia/Dacca, Asia/Damascus, Asia/Dhaka, Asia/Dili, Asia/Dubai, Asia/Dushanbe, Asia/Gaza, Asia/Harbin, Asia/Hebron, Asia/Ho\_Chi\_Minh, Asia/Hong\_Kong, Asia/Hovd, Asia/Irkutsk, Asia/Istanbul, Asia/Jakarta, Asia/Jayapura, Asia/Jerusalem, Asia/Kabul, Asia/Kamchatka, Asia/Karachi, Asia/Kashgar, Asia/Kathmandu, Asia/Katmandu, Asia/Khandyga, Asia/Kolkata, Asia/Krasnoyarsk, Asia/Kuala\_Lumpur, Asia/Kuching, Asia/Kuwait, Asia/Macao, Asia/Macau, Asia/Magadan, Asia/Makassar, Asia/Manila, Asia/Muscat, Asia/Nicosia, Asia/Novokuznetsk, Asia/Novosibirsk, Asia/Omsk, Asia/Oral, Asia/Phnom\_Penh, Asia/Pontianak, Asia/Pyongyang, Asia/Qatar, Asia/Qyzylorda, Asia/Rangoon, Asia/Riyadh, Asia/Saigon, Asia/Sakhalin, Asia/Samarkand, Asia/Seoul, Asia/Shanghai, Asia/Singapore, Asia/Taipei, Asia/Tashkent, Asia/Tbilisi, Asia/Tehran, Asia/Tel\_Aviv, Asia/Thimbu, Asia/Thimphu, Asia/Tokyo, Asia/Ujung\_Pandang, Asia/Ulaanbaatar, Asia/Ulan\_Bator, Asia/Urumqi, Asia/Ust-Nera, Asia/Vientiane, Asia/Vladivostok, Asia/Yakutsk, Asia/Yekaterinburg, Asia/Yerevan, Atlantic/Azores, Atlantic/Bermuda, Atlantic/Canary, Atlantic/Cape\_Verde, Atlantic/Faeroe, Atlantic/Faroe, Atlantic/Jan\_Mayen, Atlantic/Madeira, Atlantic/Reykjavik, Atlantic/South\_Georgia, Atlantic/St\_Helena, Atlantic/Stanley, Australia/ACT, Australia/Adelaide, Australia/Brisbane, Australia/Broken\_Hill, Australia/Canberra, Australia/Currie, Australia/Darwin, Australia/Eucla, Australia/Hobart, Australia/LHI, Australia/Lindeman, Australia/Lord\_Howe, Australia/Melbourne, Australia/NSW, Australia/North, Australia/Perth, Australia/Queensland, Australia/South, Australia/Sydney, Australia/Tasmania, Australia/Victoria, Australia/West, Australia/Yancowinna, Brazil/Acre, Brazil/DeNoronha, Brazil/East, Brazil/West, CET, CST6CDT, Canada/Atlantic, Canada/Central, Canada/East-Saskatchewan, Canada/Eastern, Canada/Mountain, Canada/Newfoundland, Canada/Pacific, Canada/Saskatchewan, Canada/Yukon, Chile/Continental, Chile/EasterIsland, Cuba, EET, EST, EST5EDT, Egypt, Eire, Etc/GMT, Etc/GMT+0, Etc/GMT+1, Etc/GMT+10, Etc/GMT+11, Etc/GMT+12, Etc/GMT+2, Etc/GMT+3, Etc/GMT+4, Etc/GMT+5, Etc/GMT+6, Etc/GMT+7, Etc/GMT+8, Etc/GMT+9, Etc/GMT-0, Etc/GMT-1, Etc/GMT-10, Etc/GMT-11, Etc/GMT-12, Etc/GMT-13, Etc/GMT-14, Etc/GMT-2, Etc/GMT-3, Etc/GMT-4, Etc/GMT-5, Etc/GMT-6, Etc/GMT-7, Etc/GMT-8, Etc/GMT-9, Etc/GMT0, Etc/GMT0, Etc/UCT, Etc/UTC, Etc/Universal, Etc/Zulu, Europe/Amsterdam, Europe/Andorra, Europe/Athens, Europe/Belfast, Europe/

Belgrade, Europe/Berlin, Europe/Bratislava, Europe/Brussels, Europe/Bucharest, Europe/Budapest, Europe/Busingen, Europe/Chisinau, Europe/Copenhagen, Europe/Dublin, Europe/Gibraltar, Europe/Guernsey, Europe/Helsinki, Europe/Isle\_of\_Man, Europe/Istanbul, Europe/Jersey, Europe/Kaliningrad, Europe/Kiev, Europe/Lisbon, Europe/Ljubljana, Europe/London, Europe/Luxembourg, Europe/Madrid, Europe/Malta, Europe/Mariehamn, Europe/Minsk, Europe/Monaco, Europe/Moscow, Europe/Nicosia, Europe/Oslo, Europe/Paris, Europe/Podgorica, Europe/Prague, Europe/Riga, Europe/Rome, Europe/Samara, Europe/San\_Marino, Europe/Sarajevo, Europe/Simferopol, Europe/Skopje, Europe/Sofia, Europe/Stockholm, Europe/Tallinn, Europe/Tirane, Europe/Tiraspol, Europe/Uzhgorod, Europe/Vaduz, Europe/Vatican, Europe/Vienna, Europe/Vilnius, Europe/Volgograd, Europe/Warsaw, Europe/Zagreb, Europe/Zaporozhye, Europe/Zurich, GB, GB-Eire, GMT, GMT+0, GMT-0, GMT0, Greenwich, HST, Hongkong, Iceland, Indian/Antananarivo, Indian/Chagos, Indian/Christmas, Indian/Cocos, Indian/Comoro, Indian/Kerguelen, Indian/Mahe, Indian/Maldives, Indian/Mauritius, Indian/Mayotte, Indian/Reunion, Iran, Israel, Jamaica, Japan, Kwajalein, Libya, MET, MST, MST7MDT, Mexico/BajaNorte, Mexico/BajaSur, Mexico/General, NZ, NZ-CHAT, Navajo, PRC, PST8PDT, Pacific/Apia, Pacific/Auckland, Pacific/Chatham, Pacific/Chuuk, Pacific/Easter, Pacific/Efate, Pacific/Enderbury, Pacific/Fakaofu, Pacific/Fiji, Pacific/Funafuti, Pacific/Galapagos, Pacific/Gambier, Pacific/Guadalcanal, Pacific/Guam, Pacific/Honolulu, Pacific/Johnston, Pacific/Kiritimati, Pacific/Kosrae, Pacific/Kwajalein, Pacific/Majuro, Pacific/Marquesas, Pacific/Midway, Pacific/Nauru, Pacific/Niue, Pacific/Norfolk, Pacific/Noumea, Pacific/Pago\_Pago, Pacific/Palau, Pacific/Pitcairn, Pacific/Pohnpei, Pacific/Ponape, Pacific/Port\_Moresby, Pacific/Rarotonga, Pacific/Saipan, Pacific/Samoa, Pacific/Tahiti, Pacific/Tarawa, Pacific/Tongatapu, Pacific/Truk, Pacific/Wake, Pacific/Wallis, Pacific/Yap, Poland, Portugal, ROC, ROK, Singapore, Turkey, UCT, US/Alaska, US/Aleutian, US/Arizona, US/Central, US/East-Indiana, US/Eastern, US/Hawaii, US/Indiana-Starke, US/Michigan, US/Mountain, US/Pacific, US/Pacific-New, US/Samoa, UTC, Universal, W-SU, WET, Zulu>

範囲: リストからタイムゾーンを選択します。

例: Time OlsonZone: Etc/UTC

## UserInterface 設定

### UserInterface TouchPanel DefaultPanel

タッチ コントローラが復帰時に表示する内容 (連絡先リスト、会議リスト、またはダイヤル パッド) を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <None/LastUsed/ContactList/MeetingList/Dialpad>

None: 次のオプションはいずれもデフォルトでタッチ コントローラに表示されません。

LastUsed: 前回使用した内容 (連絡先リスト、会議リスト、またはダイヤル パッド) がデフォルトでタッチ コントローラに表示されます。

ContactList: 連絡先リスト (お気に入り、ディレクトリおよび履歴) がタッチ コントローラのデフォルトとして表示されます。

MeetingList: スケジュールされた会議のリストがタッチ コントローラのデフォルトとして表示されます。

Dialpad: ダイヤル パッドがタッチ コントローラのデフォルトとして表示されます。

例: UserInterface TouchPanel DefaultPanel: None

### UserInterface UserPreferences

一部のユーザ設定 (呼び出し音、音量、言語、日時など) は、タッチ コントローラの [設定 (Settings)] メニュー、または [設定 (Settings)] > [管理者 (Administrator)] メニューから利用できるように設定できます。[管理者 (Administrator)] メニューにアクセスする場合は、ユーザは管理者権限を持っている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: ユーザ設定は、管理者権限を持つユーザに対して、タッチ コントローラの [設定 (Settings)] > [管理者 (Administrator)] メニューから選択できます。

On: ユーザ設定は、タッチ コントローラの [設定 (Settings)] メニューから選択できます。

例: UserInterface UserPreferences: On

## ビデオ設定

### Video AllowWebSnapshots

注: この設定は TC7.3.0 ~ TC7.3.2 でのみ使用できます。

ローカル入力ソース、リモート サイトおよびプレゼンテーション チャネルで取得されるスナップショットを許可または拒否します。スナップショットを許可する場合、スナップショットはアイドル状態または通話中の両方でキャプチャされます。

スナップショットがリモート デバイス (たとえば Web インターフェイス) から取得された場合、ビデオシステムの画面上にリモート モニタリングが稼働中であることをユーザに警告する通知が表示されません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On/LocalDeviceOnly>

Off: スナップショットはキャプチャできません。

On: スナップショットは、たとえば Web インターフェイス上などどこでもキャプチャおよび表示できます。

[ローカルデバイスのみ (LocalDeviceOnly)]: スナップショットは、試験的な Cisco Proximity 機能を実行するデバイスに限りキャプチャおよび表示できます。デバイスは、ビデオ システムと同じ部屋に存在する必要があります。Web インターフェイス上またはサードパーティ統合を利用したスナップショットのキャプチャと閲覧はできません。

例: Video AllowWebSnapshots: LocalDeviceOnly

### Video CamCtrlPip CallSetup Mode

コールをセットアップする短い間、この設定を使用してセルフ ビューがオンにされます。Video CamCtrlPip CallSetup Duration 設定は、それが維持される時間の長さを指定します。これは一般にセルフ ビューがオフの場合に適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されません。

On: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されます。

例: Video CamCtrlPip CallSetup Mode: On

### Video CamCtrlPip CallSetup Duration

この設定は Video CamCtrlPip CallSetup Mode 設定がオンである場合のみ有効です。この場合、ここで設定された秒数により、自動的にオフにされる前にセルフ ビューが表示される期間が決まります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..60>

範囲: セルフ ビューをオンにする期間を選択します。有効な範囲は、1 ~ 60 秒です。

例: Video CamCtrlPip CallSetup Duration: 10

### Video DefaultPresentationSource

デフォルトのプレゼンテーションのソースとして使用する入力ソースを定義します (リモート コントローラの Presentation キーを押したとき)。タッチ コントローラを使用する場合、この設定の影響はありません。Video Input Source n Connector 設定は、入力ソース n に使用する入力コネクタを定義しません。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <1/2>

範囲: プレゼンテーション ソースとして使用されるビデオ ソースを選択します。

例: Video DefaultPresentationSource: 2

## Video Input DVI [2] RGBQuantizationRange

DVI 入力を持つすべてのデバイスは、CEA-861 で規定されている RGB のビデオ量子化範囲のルールに従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは規格に準拠していません。その場合、ソースの完全なイメージを取得するために、この設定を使用して設定を上書きできます。ほとんどの DVI ソースは完全な量子化範囲を想定するため、デフォルト値は Full に設定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Full/Limited>

*Auto*: RGB 量子化範囲は CEA-861-E に従ったビデオ形式に基づいて自動的に選択されます。CE ビデオ形式は、限定された量子化範囲レベルを使用します。IT ビデオ形式は、完全な量子化範囲レベルを使用します。

*Full*: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CEA-861-E で規定されています。

*Limited*: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CEA-861-E で規定されています。

例: Video Input 1 DVI 2 RGBQuantizationRange: Full

## Video Input DVI [2] Type

公式 DVI 規格は、デジタル信号とアナログ信号の両方をサポートします。ほとんどの場合、デフォルトの AutoDetect 設定で信号がアナログ RGB かデジタルかを検出できます。ただし DVI-I ケーブルを使用した場合 (これらのケーブルはアナログとデジタル両方の信号を伝送できます)、まれに自動検出に失敗することがあります。この設定により、AutoDetect を上書きし、正しい DVI ビデオ入力を選択できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <AutoDetect/Digital/AnalogRGB/AnalogYPbPr>

*AutoDetect*: 信号がアナログ RGB かデジタルかを自動的に検出するには、AutoDetect に設定します。

*Digital*: アナログとデジタルの両方のピンを持つ DVI-I ケーブルを使用し、AutoDetect が失敗する場合、Digital に設定すると DVI ビデオ入力を強制的に Digital にします。

*AnalogRGB*: アナログとデジタルの両方のピンを持つ DVI-I ケーブルを使用し、AutoDetect が失敗する場合、AnalogRGB に設定すると DVI ビデオ入力を強制的に AnalogRGB にします。

*AnalogYPbPr*: コンポーネント (YPbPr) の信号を自動検出できないため、AnalogYPbPr に設定して DVI ビデオ入力を強制的にアナログ YPbPr にします。

例: Video Input DVI 2 Type: AutoDetect

## Video Input HDMI [1] RGBQuantizationRange

HDMI 入力を持つすべてのデバイスは、CEA-861 で規定されている RGB のビデオ量子化範囲のルールに従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは規格に準拠していません。その場合、ソースの完全なイメージを取得するために、この設定を使用して設定を上書きできます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Full/Limited>

*Auto*: RGB の量子化の範囲は、AVI インフォフレームの RGB 量子化範囲ビット (Q0、Q1) に基づいて自動的に選択されます。AVI インフォフレームが使用できない場合、RGB 量子化範囲は CEA-861-E に従ったビデオ形式に基づいて選択されます。

*Full*: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CEA-861-E で規定されています。

*Limited*: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CEA-861-E で規定されています。

例: Video Input 1 HDMI 1 RGBQuantizationRange: Auto

## Video Input Source [1..2] Name

ビデオ入力ソースの名前を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: [ビデオ入力ソース 1 名前 (Video Input Source 1 Name)]: ""

## Video Input Source [1] Connector

ビデオ入力ソース 1 でアクティブにするビデオ入力コネクタを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <HDMI>

HDMI: 入力ソース 1 として HDMI を使用する場合は、HDMI を選択します。

例: Video Input Source 1 Connector: HDMI

## Video Input Source [2] Connector

ビデオ入力ソース 2 でアクティブにするビデオ入力コネクタを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <DVI>

DVI: 入力ソース 2 として DVI-I 2 を使用する場合は、DVI-I を選択します。

例: Video Input Source 2 Connector: DVI

## Video Input Source [1..2] Type

ビデオ入力に接続された入力ソースのタイプを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <other/camera/PC/DVD/document\_camera/whiteboard>

other: 下記のオプションのいずれにも一致しない場合に使用します。

camera: カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

PC: コンピュータがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

DVD: DVD プレーヤーがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

document\_camera: ドキュメント カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

whiteboard: ホワイトボード カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

例: [ビデオ入力ソース 1 タイプ (Video Input Source 1 Type)]: [カメラ (camera)]

## Video Input Source [1..2] PresentationSelection

ビデオ入力にプレゼンテーション ソースが接続されたときの、ビデオ システムの動作を定義します。一般に、どの入力ソースでもプレゼンテーション ソースとして使用できます。通常、メイン カメラ (セルフビュー) はプレゼンテーション ソースとしては使用されません。

ビデオ システムがスタンバイ モードである場合、プレゼンテーション ソースを接続すると起動します。プレゼンテーションを遠端と共有する場合、常に追加のアクション (タッチ コントローラで [プレゼンテーションの開始 (Start Presenting)] をタップするかリモコンのプレゼンテーション キーを押す) が必要であることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Manual/Automatic/OnConnect/Hidden>

Manual: 手動モード (デフォルト値) では、入力ソースの内容は選択するまで画面に表示されません。リモート コントロールまたはタッチ コントローラを使用して、どの入力ソースを表示するかを選択します。

Automatic: 自動モードでは、入力ソースの内容が画面に自動的に表示されます。複数のソースが [自動 (Automatic)] に設定されている場合、最後に接続されたソースが使用されます。コールが切断されたときにすべてのコンテンツがアクティブな (表示される) 場合、コンテンツはローカルに表示されたままの状態になります。

OnConnect: [接続中 (OnConnect)] モードでは、ケーブルが接続されている場合は入力ソースの内容が画面に表示されます。それ以外の場合は、[手動 (Manual)] モード時と同様の動作です。

Hidden: 非表示モードでは、入力ソースの内容は、グラフィカル ユーザ インターフェイスに表示されません。

例: Video Input Source 1 PresentationSelection: Manual

## Video Input Source [1..2] Visibility

ユーザ インターフェイスのメニューにあるビデオ入力ソースの表示を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Never/Always/IfSignal>

Never: 入力ソースがプレゼンテーション ソースとして使用される見込みがない場合、[なし (Never)] に設定します。

Always: [常時 (Always)] に設定すると、ビデオ入力ソース用メニュー選択はグラフィカル ユーザ インターフェイスに常に表示されます。

IfSignal: [シグナルがある場合 (IfSignal)] に設定すると、ビデオ入力ソース用メニュー選択は、ビデオ入力にプレゼンテーション ソースが接続されている場合のみ表示されます。

例: Video Input Source 1 Visibility: IfSignal

### Video Input Source [1..2] CameraControl Mode

ビデオ入力アクティブなときに指定ビデオ入力ソースのカメラ制御をイネーブルにするかどうかを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: カメラ制御をディセーブルにします。

On: カメラ制御をイネーブルにします。

例: Video Input Source 1 CameraControl Mode: On

### Video Input Source [1..2] CameraControl Cameramd

カメラの ID を表示します。この値は、この製品に固定されます。

値スペース: <1>

範囲: カメラの ID を表示します。

### Video Input Source [1..2] OptimalDefinition Profile

最適鮮明度設定を有効にするために、Video Input Source Quality を Motion に設定する必要があります。

最適鮮明度プロファイルは、会議室の光の状態とビデオ入力 (カメラ) の品質に合わせる必要があります。光の状態とビデオ入力が優れていれば、プロファイルも向上します。このとき、良い光の条件で、ビデオ エンコーダは指定のコール レートに一層優れた品質 (高解像度またはフレーム レート) を提供します。

通常、Normal または Medium プロファイルを使用することを推奨します。ただし、光の条件が良い場合、特定のコール率の解像度を大きくするために、High プロファイルを設定できます。

異なる最適鮮明度プロファイルに使用する一般的な解像度、コール レートおよび送信フレーム レートの一部を次の表に示します。デュアル ビデオを使用しないことを前提としています。解像度は、発呼側と着信側の両方のシステムでサポートされている必要があります。

60 fps のフレーム レートを使用する場合、決定に Video Input Source OptimalDefinition Threshold60fps 設定を使用します。

さまざまな最適鮮明度プロファイル、コール レート、フレーム レートで 사용되는一般的な解像度								
フレーム レート	最適鮮明 度プロフ ァイル	コール レート						
		256 kbps	768 kbps	1152 kbps	1472 kbps	2560 kbps	4 Mbps	6 Mbps
30 fps	Normal	512X288	1024X576	1280X720	1280X720	1920X1080	1920X1080	1920X1080
	Medium	640X360	1280X720	1280X720	1280X720	1920X1080	1920X1080	1920X1080
	High	768X448	1280X720	1280X720	1920X1080	1920X1080	1920X1080	1920X1080
60 fps	Normal	256X144	512X288	768X448	1024X576	1280X720	1280X720	1920X1080
	Medium	256X144	768X448	1024X576	1024X576	1280X720	1920X1080	1920X1080
	High	512X288	1024X576	1280X720	1280X720	1920X1080	1920X1080	1920X1080

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Normal/Medium/High>

Normal: 照明が通常から不良の環境には、このプロファイルを使用します。解像度は控えめに設定されます。

Medium: 安定した光条件および高品質なビデオ入力が必要で一部のコール レートの場合、これは高解像度へ移動できます。

High: 優れた全体的なエクスペリエンスを実現するには、理想に近いビデオ会議の光の状態および高品質なビデオ入力が必要です。相当高い解像度が使用されます。

例: Video Input Source 1 OptimalDefinition Profile: Medium

## Video Input Source [1..2] OptimalDefinition Threshold60fps

各ビデオ入力について、この設定は 60 fps で送信する最低解像度をシステムに通知します。これより低い解像度すべてについて、最大送信フレーム レートは 30 fps となります。使用可能な帯域幅が適切であれば、これより高い解像度で 60 fps も可能です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <512\_288/768\_448/1024\_576/1280\_720/1920\_1080/Never>

512\_288: 512x288 にしきい値を設定します。

768\_448: 768x448 にしきい値を設定します。

1024\_576: 1024x576 にしきい値を設定します。

1280\_720: 1280x720 にしきい値を設定します。

1920\_1080: 1920 X 1080 にしきい値を設定します。

Never: 60 fps を送信するしきい値を設定しません。

例: Video Input Source 1 OptimalDefinition Threshold60fps: 1280 \_ 720

## Video Input Source [1..2] Quality

ビデオのエンコードと送信のときには、高解像度と高フレーム レートとの間にトレード オフが存在します。一部のビデオ ソースでは、高フレーム レートが高解像度より重要である場合や、逆の場合もあります。この品質設定は、指定のソースに対して、高フレーム レートと高解像度のどちらにプライオリティを設定するかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Motion/Sharpness>

Motion: できるだけ高いフレーム レートにします。通常、多数の参加者がいる場合や画像の動きが激しい場合など、高フレーム レートが必要なときに使用されます。

Sharpness: できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

例: Video Input Source 1 Quality: Motion

## Video MainVideoSource

メイン ビデオ ソースとして使用されるビデオ入力ソースを定義します。ビデオ入力ソースは「Video Input Source [1..n] Connector」で設定されます。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <1/2>

範囲: メイン ビデオ ソースとして使用されるソースを選択します。

例: Video MainVideoSource: 1

## Video Layout DisableDisconnectedLocalOutputs

この設定は、On に固定されています。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On>

On: 組み込みのレイアウト エンジンにモニタを接続するローカル出力のみレイアウトを設定します。

例: Video Layout DisableDisconnectedLocalOutputs: On



## Video Layout LocalLayoutFamily

ローカルで使用するビデオ レイアウト ファミリを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/FullScreen/Equal/PresentationSmallSpeaker/PresentationLargeSpeaker/Prominent/Overlay/Single>

*Auto*: システムによって提供されるローカル レイアウト データベースに指定されたデフォルト レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

*FullScreen*: FullScreen レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーまたはプレゼンテーションはフルスクリーンで表示されます。この値の使用は TC6.0 以降では推奨されません。

*Equal*: Equal レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。画面上に十分なスペースがある限り、すべてのビデオのサイズは等しくなります。

*PresentationSmallSpeaker*: PresentationSmallSpeaker レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。この値の使用は TC6.0 以降では推奨されません。

*PresentationLargeSpeaker*: PresentationLargeSpeaker レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。この値の使用は TC6.0 以降では推奨されません。

*Prominent*: [対象拡大表示 (Prominent)] レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは大きい画像となり、他の参加者は小さい画像となります。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

*Overlay*: [オーバーレイ (Overlay)] レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となり、他の参加者は小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) となります。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

*Single*: 通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となります。他の参加者は表示されません。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

例: Video Layout LocalLayoutFamily: Auto

## Video Layout PresentationDefault View

プレゼンテーションの共有を開始する際に、プレゼンテーションが画面にどのように表示されるかを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Default/Minimized/Maximized>

*Default*: プレゼンテーションは、レイアウトの一部です。

*Minimized*: プレゼンテーションは PIP モードで開始されます。

*Maximized*: プレゼンテーションは、全画面モードで開始されます。

例: Video Layout PresentationDefault View: Default

## Video Layout RemoteLayoutFamily

リモート参加者が使用するビデオ レイアウト ファミリを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/FullScreen/Equal/PresentationSmallSpeaker/PresentationLargeSpeaker/Prominent/Overlay/Single>

*Auto*: ローカル レイアウト データベースによって指定される、デフォルト レイアウト ファミリが、リモート レイアウトとして使用されます。

*FullScreen*: FullScreen レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーまたはプレゼンテーションはフルスクリーンで表示されます。TC6.0 以降、この値は使用しないことを推奨します。

*Equal*: Equal レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。画面上に十分なスペースがある限り、すべてのビデオのサイズは等しくなります。

*PresentationSmallSpeaker*: PresentationSmallSpeaker レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。この値の使用は TC6.0 以降では推奨されません。

*PresentationLargeSpeaker*: PresentationLargeSpeaker レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。この値の使用は TC6.0 以降では推奨されません。

*Prominent*: [対象拡大表示 (Prominent)] レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは大きい画像となり、他の参加者は小さい画像となります。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

*Overlay*: [オーバーレイ (Overlay)] レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となり、他の参加者は小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) となります。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

*Single*: 通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となります。他の参加者は表示されません。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

例: Video Layout RemoteLayoutFamily: Auto

## Video Layout Scaling

イメージとそれを配置するフレームとの間に違いがある場合、システムがイメージまたはフレームのアスペクト比をどのように調整するかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: アスペクト比の調整はありません。

*On*: システムが縦横比を自動的に調整できるようにします。

例: Video Layout Scaling: On

## Video Layout ScaleToFrame

ビデオ入力ソースのアスペクト比がコンポジション内の対応するイメージ フレーム アスペクト比と一致しない場合の対処方法を定義します。たとえば、4:3 入力 (XGA など) を 16:9 出力 (HD720 など) に表示する場合です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Manual/MaintainAspectRatio/StretchToFit>

Manual: ビデオ入力ソースとターゲット イメージ フレーム間のアスペクト比の違いが Video Layout ScaleToFrameThreshold 設定 (パーセンテージ) よりも小さい場合、イメージはフィットするよう拡大されます。そうでない場合は、元のアスペクト比が維持されます。

MaintainAspectRatio: 入力ソースのアスペクト比を維持し、フレームの残りの部分 (文字のボクシングや柱のボクシング) は黒で埋めます。

StretchToFit: イメージのフレームにフィットするよう入力ソースを (水平または垂直に) 拡張します。注: 一般的な制限として、1 方向を拡大しながら別の方向を縮小することはできません。このような状況で、コーデックは letterboxing を適用します。

例: Video Layout ScaleToFrame: MaintainAspectRatio

## Video Layout ScaleToFrameThreshold

Video Layout ScaleToFrame が [手動 (Manual)] に設定されている場合に限り適用できます。ビデオ入力ソースとターゲット イメージ フレーム間のアスペクト比の違いが ScaleToFrameThreshold 設定 (パーセンテージ) よりも小さい場合、イメージはフィットするよう拡大されます。そうでない場合は、元のアスペクト比が維持されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..100>

範囲: 0 ~ 100 パーセントの値を選択します。

例: Video Layout ScaleToFrameThreshold: 5

## Video PIP ActiveSpeaker DefaultValue Position

通話中のスピーカーのピクチャ イン ピクチャ (PiP) 画面の位置を設定します。この設定は通話中のスピーカーが PiP に表示されるビデオ レイアウトを使用する場合、つまりオーバーレイ レイアウト、またはカスタム レイアウト (Video Layout LocalLayoutFamily 設定を参照) にのみ有効です。この設定は、次回以降のコールで有効になります。コール中に変更された場合、現在のコールへの影響はありません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight>

Current: 通話中のスピーカーの PiP の位置はコール終了後も変更されません。

UpperLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: 通話中のスピーカーの PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右下隅に表示されます。

例: Video PIP ActiveSpeaker DefaultValue Position: Current

## Video PIP Presentation DefaultValue Position

プレゼンテーションのピクチャ イン ピクチャ (PiP) 画面の位置を設定します。この設定は、リモート コントロールやタッチ コントローラを使用するなどしてプレゼンテーションが明示的に PiP に最小化されている場合にのみ有効です。この設定は、次回以降のコールで有効になります。コール中に変更された場合、現在のコールへの影響はありません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight>

Current: プレゼンテーション PiP の位置はコール終了後も変更されません。

UpperLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: プレゼンテーション PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: プレゼンテーション PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: プレゼンテーション PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: プレゼンテーション PiP が画面の右下隅に表示されます。

例: Video PIP Presentation DefaultValue Position: Current

## Video Selfview

メイン ビデオ ソース (セルフビュー) を画面に表示するかどうかを指定します。  
この設定は Video SelfviewDefault Mode 設定によって廃止されました。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <Off/On>

Off: 画面にセルフビューを表示しません。

On: 画面にセルフビューを表示します。

例: Video Selfview: On

## Video SelfviewPosition

画面上で小さいセルフビューの PiP (Picture in Picture) を表示する位置を選択します。  
この設定は Video SelfviewDefault PIPPosition 設定によって廃止されました。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/  
LowerRight>

UpperLeft: セルフビュー PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: セルフビュー PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: セルフビュー PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: セルフビュー PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: セルフビュー PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: セルフビュー PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

例: Video SelfviewPosition: CenterRight

## Video SelfviewDefault Mode

メイン ビデオ ソース (セルフビュー) をコールの後に画面に表示するかどうかを指定します。セルフビュー ウィンドウの位置とサイズはそれぞれ、Video SelfviewDefault PIPPosition 設定および Video SelfviewDefault FullscreenMode 設定によって決定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/Current/On>

Off: セルフビューはコール退出時にオフにされます。

Current: セルフビューはそのままの状態に残ります。つまりコール中にオンであった場合はコール終了後もオンのままであり、コール中にオフであった場合はコール終了後もオフのままです。

On: セルフビューはコール退出時にオンにされます。

例: Video SelfviewDefault Mode: Current

## Video SelfviewDefault FullscreenMode

コール終了後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を全画面表示するか、小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) 画面で表示するかを設定します。この設定はセルフビューがオンである場合にのみ有効です (Video SelfviewDefault Mode 設定を参照)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/Current/On>

Off: セルフビューは PiP として表示されます。

Current: セルフビューの画像のサイズはコール終了時に未変更の状態に保たれます。つまりコール中に PiP であった場合はコール終了後も PiP のままであり、コール中に全画面であった場合はコール終了後も全画面のままです。

On: セルフビューの画像は全画面表示されます。

例: Video SelfviewDefault FullscreenMode: Current

## Video SelfviewDefault PIPPosition

コール終了後のセルフビューの小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) 画面の位置を設定します。この設定はセルフビューがオンであり (Video SelfviewDefault Mode 設定を参照)、フルスクリーン ビューがオフである場合 (Video SelfviewDefault FullscreenMode 設定を参照) にのみ有効です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight >

Current: セルフビュー PiP の位置はコール終了後も変更されません。

UpperLeft: セルフビュー PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: セルフビュー PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: セルフビュー PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: セルフビュー PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: セルフビュー PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: セルフビュー PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

例: Video SelfviewDefault PIPPosition: Current

## Video SelfviewDefault OnMonitorRole

コール終了後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) に表示するモニタ/出力を設定します。この値には、Video Output HDMI MonitorRole 設定で異なる出力に対して設定されたモニタ ロールが反映されます。

この設定は、セルフビューが全画面表示されていてもピクチャ イン ピクチャ (PiP) で表示されていても適用されますが、Video Monitors 設定が Dual に設定されている場合に限られます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <First/Second/Current>

First: セルフビューの画像は、Video Output HDMI MonitorRole が [第 1 (First)] に設定されている場合に出力に表示されます。

Second: セルフビューの画像は、Video Output HDMI MonitorRole が [第 2 (Second)] に設定されている場合に出力に表示されます。

Current: コールを中止すると、セルフビュー画像がコール中と同じ出力上に保持されます。

例: Video SelfviewDefault OnMonitorRole: Current

## Video モニタ

Video Output HDMI [n] MonitorRole 設定を使用する各モニタにロールを割り当てます。モニタ ロールは、この出力に接続されているモニタ上のどのレイアウト (コール参加者とプレゼンテーション) に表示するかを決定します。別のモニタ ロールのモニタは異なるレイアウトになります。両方のモニタにモニタ ロール First を設定することはできません。

Video Monitors で設定するモニタ レイアウト モードには、部屋のセットアップで利用する各レイアウト数を反映させてください。いくつかのモニタがプレゼンテーション用に確保できることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Single/Dual/DualPresentationOnly>

Auto: コーデックに接続されたモニタ数は自動的に検出され、レイアウトは MonitorRole の設定に従ってモニタに割り振られます。

Single: レイアウトは、1 台のモニタに表示されます。2 台のモニタがコーデックに接続されている場合、1 台は無効になります。

Dual: レイアウトはモニタ ロール [第1 (First)] および [第2 (Second)] のモニタに配信されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、コールの参加者はすべてモニタ ロール First のモニタに表示され、プレゼンテーションはモニタ ロール Second のモニタに表示されません。

DualPresentationOnly: コールのすべての参加者がモニタ ロール [第1 (First)] のモニタに表示されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションはモニタ ロール Second に表示されます。

例: Video Monitors: Auto

## Video OSD Mode

OSD (オン スクリーン ディスプレイ) では、リモート コントロールで、メニュー、ダイアログ、アイコン、インジケータ、およびナビゲーションを見ることができます。オンスクリーンに表示される情報とアイコンを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: オン スクリーン メニュー、アイコンおよびインジケータを非表示にします。

On: オン スクリーン メニュー、アイコンおよびインジケータを表示します。

例: Video OSD Mode: On

## Video OSD WallpaperSelection

ユーザが、[設定 (Settings)] メニューから簡単に壁紙の設定を変更しないようにするには、[管理者設定 (Administrator Settings)] メニューから壁紙の設定を使用できます。管理者設定はパスワードで保護できます。OSD (オン スクリーン ディスプレイ) では、リモート コントロールで、メニュー、ダイアログ、アイコン、インジケータ、およびナビゲーションを見ることができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: 壁紙の設定は、[管理者設定 (Administrator Settings)] の [ビデオ (Video)] 設定から使用できます。

On: [壁紙 (Wallpaper)] メニューは、[設定 (Settings)] メニューから使用できます。

例: Video OSD WallpaperSelection: On

## Video OSD LanguageSelection

ユーザが、[設定 (Settings)] メニューから簡単に言語設定を変更しないようにするには、[管理者設定 (Administrator Settings)] メニューから言語設定を使用できます。管理者設定はパスワードで保護できます。OSD (オン スクリーン ディスプレイ) では、リモート コントロールで、メニュー、ダイアログ、アイコン、インジケータ、およびナビゲーションを見ることができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: 言語設定は、[管理者設定 (Administrator Settings)] の [システムユニット (SystemUnit)] 設定から使用できます。

On: [言語 (Language)] メニューは、[設定 (Settings)] メニューから使用できます。

例: Video OSD LanguageSelection: On

## Video OSD MenuStartupMode

ビデオ システムとコーデックのブート後の、オンスクリーン メニューの状態を設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Closed/Home>

Closed: オンスクリーン メニューは自動的に展開しません。この設定は、OSD に表示される内容を完全に制御する必要があるサード パーティ統合には推奨されます。

Home: オンスクリーン メニューでは Home メニューを展開して表示します。

例: Video OSD MenuStartupMode: Home

## Video OSD VirtualKeyboard

テキストが入力フィールドに入力されるときに仮想キーボードを画面上に自動的に表示するかどうかを設定します。OSD (オン スクリーン ディスプレイ) では、リモート コントロールで、メニュー、ダイアログ、アイコン、インジケータ、およびナビゲーションを見ることができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <UserSelectable/AlwaysOn>

UserSelectable: 仮想キーボードを開くときに閉じるときにユーザがソフトボタンを押す必要があります。

AlwaysOn: テキストを入力フィールドに入力できる限り、仮想キーボードは画面上に自動的に表示されます。

例: Video OSD VirtualKeyboard: UserSelectable

## Video OSD EncryptionIndicator

暗号化インジケータ (鍵) が画面に表示される時間の長さを定義します。この設定は、暗号化されたコールと暗号化されていないコール、つまりセキュアな会議と非セキュアな会議の両方に適用されます。暗号化されたコールはロックされた鍵のアイコンで示され、暗号化されていないコールはバツ印の付いたロックされた鍵のアイコンで示されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/AlwaysOn/AlwaysOff>

Auto: Conference Encryption Mode 設定が BestEffort に設定され、コールが暗号化されている場合、暗号化インジケータがコールの最初の数秒間に表示されます。Conference Encryption Mode 設定が BestEffort に設定され、コールが暗号化されていない場合、バツ印の付いた暗号化インジケータがコール全体にわたり表示されます。Conference Encryption Mode 設定が BestEffort に設定されていない場合、暗号化インジケータはまったく表示されません。

AlwaysOn: 暗号化インジケータはコール全体にわたり画面上に表示されます。これは、すべての Conference Encryption Mode 設定で暗号化されたコールと暗号化されていないコールの両方に適用されます。

AlwaysOff: 暗号化インジケータは画面上に表示されません。これは、すべての Conference Encryption Mode 設定で暗号化されたコールと暗号化されていないコールの両方に適用されません。

例: Video OSD EncryptionIndicator: Auto

## Video OSD MissedCallsNotification

オン スクリーンに不在着信通知するかどうかを定義します。この設定は、ビデオ システムがリモート コントロールと画面上のメニューによって操作される場合のみ適用されます。タッチ コントローラを使用する場合は、通知ダイアログ ボックスは OSD ではなくタッチ コントローラに表示されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: OSD には不在着信を示すインジケータが表示されません。この設定は、OSD に表示される内容を完全に制御する必要があるサード パーティ統合には推奨されます。

*On*: OSD に不在着信の通知が表示されます。

例: Video OSD MissedCallsNotifications: On

## Video OSD AutoSelectPresentationSource

プレゼンテーションのソースを自動的に選択するかどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: プレゼンテーション ソースの自動選択をディセーブルにします。

*On*: プレゼンテーション ソースの自動選択をイネーブルにします。

例: Video OSD AutoSelectPresentationSource: Off

## Video OSD CallSettingsSelection

ユーザが、[設定 (Settings)] メニューから簡単にコール設定を変更しないようにするには、[管理者設定 (Administrator Settings)] メニューからコール設定を使用できます。管理者設定はパスワードで保護できます。OSD (オン スクリーン ディスプレイ) では、リモート コントロールで、メニュー、ダイアログ、アイコン、インジケータ、およびナビゲーションを見ることができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: コール設定は、[管理者設定 (Administrator Settings)] の [会議 (Conference)] 設定から使用できます。

*On*: [コール (Call)] メニューは、[設定 (Settings)] メニューから使用できます。

例: Video OSD CallSettingsSelection: Off

## Video OSD TodaysBookings

この設定は、メイン オンスクリーン メニューに今日のシステムの予約を表示するために使用できます。これには、たとえば Cisco TelePresence Management Suite (TMS) などの外部予約システムからシステムを予約可能である必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: 今日の予約を表示しません。

*On*: このシステムの予約に関する情報を画面に表示します。

例: Video OSD TodaysBookings: Off

## Video OSD MyContactsExpanded

ローカル連絡先が、オンスクリーンの電話帳ダイアログに表示されるように設定します。OSD (オン スクリーン ディスプレイ) では、リモート コントロールで、メニュー、ダイアログ、アイコン、インジケータ、およびナビゲーションを見ることができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

*Off*: ローカルの連絡先は、電話帳ダイアログで MyContacts という別のフォルダに配置されます。

*On*: 電話帳内のローカルの連絡先が電話帳ダイアログの最上位に表示されます。

例: Video OSD MyContactsExpanded: Off

## Video OSD Output

オンスクリーン メニュー、情報、およびアイコンを表示するモニタを定義します。OSD (オン スクリーン ディスプレイ) では、リモート コントロールで、メニュー、ダイアログ、アイコン、インジケータ、およびナビゲーションを見ることができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/1/2>

*Auto*: システムはモニタがビデオ出力に接続されたときに検出し、接続した最初のモニタに OSD を送信します。マルチ モニタを設定し、すべてのモニタがシステムをオンにする前に接続されている場合、OSD は Video OSD Output 1 から始まる小さい番号からビデオ出力を送信します。OSD が目的のモニタに表示されない場合、すべてのモニタの接続を解除してモニタを再接続します。

範囲1-2: OSD を特定の出力に送信する場合は、HDMI 出力として [1] を選択するか、DVI-I 出力として [2] を選択します。対応するビデオ出力コネクタにモニタを接続していることを確認してください。

例: Video OSD Output: Auto

## Video OSD InputMethod InputLanguage

コーデックで、画面のメニューでのキリル文字入力をイネーブルにできます。Video OSD inputMethod Cyrillic が [オン (On)] に設定されていることが必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Latin/Cyrillic>

Latin: リモコンを使用してラテン文字を入力できます (デフォルト)。

Cyrillic: リモコンを使用してキリル文字を入力できます。キリル文字の字体を持つ Cisco TelePresence リモート コントロールが必要です。

例: Video OSD InputMethod InputLanguage: Latin

## Video OSD InputMethod Cyrillic

画面のメニューでメニュー入力言語をキリル モードに設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: 画面のメニューでキリル モードをメニュー入力言語として使用できません。

On: 画面のメニューでキリル モードをメニュー入力言語として使用できます。これにより、Video OSD InputMethod InputLanguage の設定が可能になります。

例: Video OSD InputMethod Cyrillic: Off

## Video OSD LoginRequired

オン スクリーン メニューへのアクセス前に、システムがユーザのログインを要求するかを決定します。有効にすると、ユーザは自分のユーザ名と自分の PIN コードを入力する必要があります。ユーザのログイン後、ユーザは自分のロールで許可されているコンフィギュレーション変更とコマンドだけを実行できます。OSD (オン スクリーン ディスプレイ) では、リモート コントロールで、メニュー、ダイアログ、アイコン、インジケータ、およびナビゲーションを見ることができます。

注: PIN コードはこの設定を有効にする前に設定する必要があります。これは、Web インターフェイスを使用して実施されます。Web ブラウザからシステムにログインし、[設定 (Configuration)] > [ユーザ管理 (User Administration)] に移動し、ユーザを選択して PIN コードを追加します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: メニュー オン スクリーン (OSD) へのログインは必要ありません。

On: ユーザはメニュー オン スクリーン (OSD) にアクセスするためにログインする必要があります。

例: Video OSD LoginRequired: Off

## Video Output HDMI [1,2] Location HorizontalOffset

HorizontalOffset 設定および VerticalOffset 設定は、各ビデオ出力に関連付けられています。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対的な位置を信号で送信するために使用されます。

HorizontalOffset = 0 および VerticalOffset = 0 はディスプレイが水平および垂直の両方で中央に位置することを示します。負の水平オフセットは、モニタが中心の左にあり、正の水平オフセットはモニタが中心の右にあることを示します。負の垂直オフセットは、モニタが中心の下にあり、正の垂直オフセットはモニタが中心の上にあることを示します。オフセットの大きさはディスプレイが (他のディスプレイと比較して) どれくらい中央から離れているかを示します。

例: 一つは中央、もうひとつはその左にある 2 台のディスプレイがあるとします。ここでは次の設定が適用されます。中央のディスプレイは HorizontalOffset = 0、左側のディスプレイは HorizontalOffset = -1 となります。

例: 一つは中央、もうひとつはその下にある 2 台のディスプレイがあるとします。ここでは次の設定が適用されます。中央のディスプレイは VerticalOffset = 0、下側のディスプレイは Vertical Offset = -1 となります。

各出力のデフォルト値は次の通りです。

Video Output HDMI [1] Location: HorizontalOffset = 0, VerticalOffset = 0

Video Output HDMI [2] Location: HorizontalOffset = 1, VerticalOffset = 0

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <-100..100>

範囲: 値は -100 ~ 100 である必要があります。

例: Video Output HDMI 1 Location HorizontalOffset: 0

## Video Output HDMI [1,2] Location VerticalOffset

HorizontalOffset 設定および VerticalOffset 設定は、各ビデオ出力に関連付けられています。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対的な位置を信号で送信するために使用されます。

HorizontalOffset = 0 および VerticalOffset = 0 はディスプレイが水平および垂直の両方で中央に位置することを示します。負の水平オフセットは、モニタが中心の左にあり、正の水平オフセットはモニタが中心の右にあることを示します。負の垂直オフセットは、モニタが中心の下にあり、正の垂直オフセットはモニタが中心の上にあることを示します。オフセットの大きさはディスプレイが（他のディスプレイと比較して）どれくらい中央から離れているかを示します。

例：一つは中央、もうひとつはその左にある 2 台のディスプレイがあるとします。ここでは次の設定が適用されます。中央のディスプレイは HorizontalOffset = 0、左側のディスプレイは HorizontalOffset = -1 となります。

例：一つは中央、もうひとつはその下にある 2 台のディスプレイがあるとします。ここでは次の設定が適用されます。中央のディスプレイは VerticalOffset = 0、下側のディスプレイは Vertical Offset = -1 となります。

各出力のデフォルト値は次の通りです。

Video Output HDMI [1] Location: HorizontalOffset = 0, VerticalOffset = 0

Video Output HDMI [2] Location: HorizontalOffset = 1, VerticalOffset = 0

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <-100..100>

範囲: 値は -100 ~ 100 である必要があります。

例: Video Output HDMI 1 Location Vertical Offset: 0

## Video Output HDMI [1,2] RGBQuantizationRange

HDMI 出力に接続されたデバイスは CEA-861 で規定されている RGB ビデオ量子化範囲の規則に従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは規格に準拠していません。その場合、ディスプレイの完全なイメージを取得するために、この設定を使用して設定を上書きできます。ほとんどの HDMI ディスプレイは完全な量子化範囲を予期するため、デフォルト値は [フル (Full)] に設定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Full/Limited>

Auto: RGB の量子化の範囲は、AVI インフォフレームの RGB 量子化範囲ビット (Q0, Q1) に基づいて自動的に選択されます。AVI インフォフレームが使用できない場合、RGB 量子化範囲は CEA-861-E に従ったビデオ形式に基づいて選択されます。

Full: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CEA-861-E で規定されています。

Limited: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CEA-861-E で規定されています。

例: Video Output HDMI 1 RGBQuantizationRange: Full

## Video Output HDMI [1,2] CEC Mode

HDMI 出力は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートしています。この設定が [オン (On)] の場合 (デフォルトは [オフ (Off)])、システムはシステム自体がスタンバイに移行する際にモニタをスタンバイ状態に設定するために CEC を使用します。同様に、システムがスタンバイから復帰するとき、システム自身がモニタを起動します。これを実現するには、出力に接続されるモニタは CEC と互換性があり、CEC がモニタに設定されている必要があります。

CEC については、製造業者によって異なるマーケティング名称が使用されていることに注意してください。例: Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、BRAVIA Sync (Sony)、HDMI-CEC (日立)、Kuro Link (パイオニア)、CE-Link および Regza Link (東芝)、RIHD (オンキヨー)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (Panasonic)、EasyLink (Philips)、NetCommand for HDMI (三菱)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: CEC 制御をディセーブルにします。

On: CEC 制御をイネーブルにします。

例: Video Output HDMI 1 CEC Mode: Off



## Video Output HDMI [1,2] MonitorRole

モニター ロールは、ビデオ出力コネクタに接続されたモニターにどのビデオ ストリームを表示するかを示します。すべての出力用の Video Monitors 設定および MonitorRole 設定とともに、各モニターに表示されるレイアウト (ビデオ ストリーム) を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/First/Second/PresentationOnly>

*Auto*: モニターが接続されたときにシステムが検知し、Video Monitors 設定に対応するモニター ロール ([第1 (First) ], [第2 (Second) ]) を自動的に割り当てます。

*First/Second*: マルチ モニター設定でのモニターの役割を定義します。 モニター ロール First に設定できるのは、1 つの HDMI 出力のみであることに注意してください。

シングル モニター設定では、First と Second との違いはありません。

*PresentationOnly*: アクティブな場合プレゼンテーション ビデオ ストリームを表示し、他のものは表示しません。このモニター ロールのモニターおよび出力は Video Monitors 設定によって無視されません。

例: Video Output HDMI 1 MonitorRole: First

## Video Output HDMI [1,2] OverscanLevel

モニターによっては、画像全体を表示できない可能性があります。これはモニターに表示したときに、ビデオシステムから送信される画像の外側が、切断されることを意味します。

ビデオ システムに使用可能なフレームの外側を使用しないように指示するには、この設定を使用します。この部分はモニターによって切断されている可能性があります。この場合、画面上のビデオとメッセージの両方が拡大縮小されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <None/Medium/High>

*None*: ビデオ システムは出力解像度すべてを使用します。

*Medium*: ビデオ システムは出力解像度の外側 3 % を使用しません。

*High*: ビデオ システムは出力解像度の外側 6 % を使用しません。

例: Video Output HDMI 1 OverscanLevel: None

## Video Output HDMI [1,2] Resolution

HDMI 出力に接続されたモニターの解像度とリフレッシュ レートを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/1024\_768\_60/1280\_1024\_60/1280\_720\_50/1280\_720\_60/1920\_1080\_50/1920\_1080\_60/1280\_768\_60/1360\_768\_60/1366\_768\_60>

*Auto*: システムは接続されたモニターのネゴシエーションに基づいて自動的に最適な解像度の設定を試行します。

1024\_768\_60: 解像度は 1024 x 768、更新間隔は 60 Hz です。

1280\_1024\_60: 解像度は 1280 x 1024、更新間隔は 60 Hz です。

1280\_720\_50: 解像度は 1280 x 720、更新間隔は 50 Hz です。

1280\_720\_60: 解像度は 1280 X 720、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

1920\_1080\_50: 解像度は 1920 X 1080、リフレッシュ レートは 50 Hz です。

1920\_1080\_60: 解像度は 1920 x 1080、更新間隔は 60 Hz です。

1280\_768\_60: 解像度は 1280 x 768、更新間隔は 60 Hz です。

1360\_768\_60: 解像度は 1360 x 768、更新間隔は 60 Hz です。

1366\_768\_60: 解像度は 1366 x 768、更新間隔は 60 Hz です。

例: Video Output HDMI 1 Resolution: Auto

## Video Wallpaper

アイドル状態のときのビデオ画面の背景イメージ (壁紙) を選択します。

Web インターフェイスを使用してビデオシステムにカスタムの壁紙をアップロードできます。サポートされるファイル形式は BMP、GIF、JPEG、PNG です。最大ファイル サイズは 2 MByte です。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <None/Custom/Growing/Summersky/Waves/Blue>

*None*: 画面に背景画像がありません。背景は黒です。

*Custom*: 画面の背景画像としてカスタムの壁紙を使用します。カスタム壁紙がシステムにアップロードされていない場合、設定がデフォルト値に戻ります。

*Growing, Summersky, Waves, Blue*: 選択した背景画像が画面に表示されます。

例: Video Wallpaper: Summersky

## 試験的設定

試験的設定は、テストのためだけのもので、シスコと同意したのではない限り使用できません。これらの設定は記載されておらず、以降のリリースで変更されます。



## 第 4 章

# パスワードの設定

## システム パスワードの設定

システム パスワードは、ビデオ システムを保護します。Web インターフェイスおよびコマンドライン インターフェイスを利用するにはサイン インする必要があり、タッチ 8 コントローラから [管理者 (Administrator)] 設定へアクセスしなければなりません。

### admin ユーザ

ビデオ システムは完全な資格情報を持つデフォルトのユーザ アカウントに提供されます。ユーザ名は admin であり、初期状態ではデフォルト ユーザにパスワードは設定されていません。



システム設定へのアクセスを制限するために、admin ユーザにパスワードを設定する必要があります。同様の認証情報を持つ他のユーザ用のパスワードも設定します。

パスワードをメモし、安全な場所に保管してください。パスワードを忘れた場合は、ユニットを初期化する必要があります。

admin ユーザのパスワードが設定されるまで、システム パスワードが設定されていないことを示す警告が表示されます。

### リモート制御とオンスクリーン メニュー使用時の管理者設定へのアクセスについて

リモート コントロールの使用時に使用可能なオンスクリーン [管理者設定 (Administrator Settings)] メニューは、システム パスワードで保護されていないため、メニューのパスワードを設定しなければならないことに注意してください (次のページを参照)。

### 他のユーザ アカウント

ビデオ システムに任意の数のユーザ アカウントを作成できます。

ユーザ アカウントの作成と管理の方法に関する詳細情報は、▶ 「[ユーザ管理](#)」の項で確認できます。

## システム パスワードの変更

システム パスワードを変更するには、次の手順に従います。

パスワードが現在設定されていない場合は、[現在のパスワード \(Current password\)](#) を空白の状態で使用します。パスワードを削除するには、[新しいパスワード \(New password\)](#) フィールドを空白のままにします。

1. ユーザ名と現在のパスワードを使用して Web インターフェイスにサインインします。
2. 右上隅のユーザ名をクリックして、ドロップダウン メニューの [パスワード変更 \(Change password\)](#) を選択します。
3. [現在のパスワード \(Current password\)](#) と [新しいパスワード \(New password\)](#) の入力フィールドにそれぞれパスワードを入力後、新しいパスワードを再入力します。  
パスワードの形式は、0 ~ 64 文字の文字列です。
4. [パスワード変更 \(Change Password\)](#) をクリックします。

## 他のユーザのシステム パスワードの変更

管理者権限を持っている場合は、次の手順を実行して、すべてのユーザのパスワードを変更できます。

1. ユーザ名とパスワードを使用して Web インターフェイスにサインインします。
2. [設定 \(Configuration\)](#) タブに移動し、[ユーザ管理 \(User Administration\)](#) を選択します。
3. 対象のユーザをリストから選択します。
4. 新しいパスワードと PIN コードを入力します。
5. [Save \(保存\)](#) をクリックします。

## メニュー パスワードの設定

このメニュー パスワードは、リモート コントロール使用時にオンスクリーン使用可能な [管理者設定 (Administrator Settings)] メニューを保護します。

ビデオ会議システムの初回起動時は、メニュー パスワードが設定されていないため、誰でもこれらの設定にアクセスすることができます。



管理者設定はシステムの動作に大きく影響するので、メニュー パスワードを設定することを強く推奨します。

ソフトウェア バージョン TC7.0 以降のメニュー パスワードは、オンスクリーン [管理者設定 (Administrator Settings)] メニューにのみ適用されることに注意してください。タッチ 8 コントローラの [管理者 (Administrator)] メニューには適用されません。

### Web インターフェイスからのメニュー パスワードの設定

1. ユーザ名と現在のパスワードを使用して Web インターフェイスにサインインします。
2. [設定 (Configuration)] > [システム (System)] に移動します。
3. [管理者設定メニューパスワードの設定/変更 (Set/Change Administrator Settings menu password)] をクリックして、メニュー パスワード ダイアログを開きます。
4. 入力フィールドにパスワードを入力します。
5. [保存 (Save)] をクリックしてパスワードを設定/変更します。



リモート コントロールおよびオンスクリーン メニュー、またはタッチ コントローラを使用して、IP アドレス (IPv4 または IPv6) を検索します。

リモート コントロールおよびオンスクリーン メニュー：  
[ホーム (Home)] > [設定 (Settings)] > [システム情報 (System Information)] に移動します。

タッチ コントローラ：タッチ コントローラの左上隅をタップして、ドロップダウンウィンドウを開きます。次に、[設定 (Settings)] > [システム情報 (System Information)] をタップします。

### リモコンを使用したメニュー パスワードの設定

1. 画面上のメニューから、[ホーム (Home)] > [設定 (Settings)] > [管理者設定 (Administrator settings)] > [メニュー パスワードの設定 (Set menu password)] の順に移動します。  
パスワードは、0 ~ 255 文字の文字列である必要があります。  
パスワードを非アクティブ化するには、パスワード入力フィールドを空白にします。
2. 入力フィールドにメニューのパスワードを入力します。入力したパスワードは表示されず、各文字はアスタリスク (\*) に置き換えられます。  
リモート コントロールの # キーを押すと、小文字、大文字、数字 (abc/ABC/123) を切り替えできます。
3. 変更内容を保存するには [保存 (Save)] を選択し、保存しない場合は [キャンセル (Cancel)] を選択します。
4. [ホーム (Home)] (🏠) を押して終了します。



# 付録

## 電源ボタンおよび LED インジケータ

電源ボタンは図に示すように、上部のふたに配置されています。ボタンを囲む LED リングがあります。

### コーデックをオンにする

コーデックが自動的に起動しない場合、電源ボタンをやさしく押し、電源をオンにします。

起動中 LED が点灯します。円を描くように光るのが停止して LED が点灯したら、システムが使用可能になります。

### コーデックをオフにする

コーデックをオフにするには、電源ボタンをやさしく押し、完全に消灯するまで押し続けます。

### スタンバイ モードの開始/終了

スタンバイ モードの開始/終了は、電源ボタンを押すだけです。



LED インジケータ  
付き電源ボタン

### LED インジケータ

#### 点灯

コーデックが使用可能です。

#### LED がゆっくり点滅する

コーデックはスタンバイ モードです。

#### LED が点滅している

コーデックは、たとえば LAN 接続がない場合等、注意喚起をしています。

#### LED の光が時計回りにまわっている

コーデックは起動 (ブート) 中で、まだ使用可能ではありません。

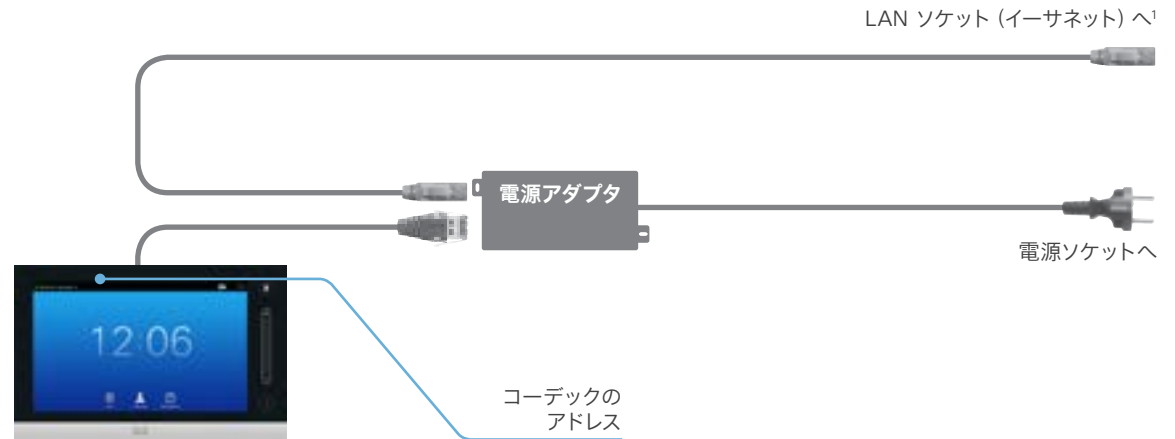
#### 赤色 LED

カメラ コネクタがシリアル モードです (カメラ制御はディセーブル)

## Touch 8 ユーザ インターフェイスの接続

Cisco TelePresence Touch 8" ユーザ インターフェイスはリモコンと画面メニューに代わる装置です。

タッチ 8 がコーデックに接続されている場合、リモコンは使用できません。リモコンを使用するには、タッチ 8 の接続を解除 (ペア解除) しなければなりません。



### タッチ 8 の接続

タッチ 8 は LAN を介してコーデックに接続する必要があります。接続は、上の図のように、同梱の電源アダプタで行います。

接続できるように、コーデックの [ネットワーク サービス (Network Services)] > [SSH] > [モード (Mode)]<sup>2</sup> 設定が [オン (On)] になっていることを確認してください。

タッチ 8 をコーデックに関連付ける処理をペア化と呼びます。コーデックは、スイッチをオンにしてから 30 分間のみペア化が可能であることをシグナリングしていることに注意してください。

タッチ 8 とビデオ システムを同じサブネット上に保つことを推奨します。

### Touch 8 の設定

Touch 8 が電源に接続されると、設定手順が始まります。画面に表示される指示に従います。

コーデックがタッチ コントローラに表示される使用可能なコーデックのリストにない場合、その IP アドレスを入力してコーデックを手動で選択できます。

タッチ 8 にソフトウェアのアップグレードが必要な場合は、設定手順の一部で新しいソフトウェアがコーデックからダウンロードされ、自動的にユニットにインストールされます。アップグレード後に Touch 8 が再起動します。

コーデック アドレスが上部バナーに表示されているかチェックすれば、タッチ 8 がコーデックに正常にペア化されていることを確認できます。

タッチ インストールの詳細情報は、シスコの Web サイトにある『Cisco TelePresence Touch 8 inch Installation Guide』を参照してください。

<sup>1</sup> インライン パワー アダプタはイーサネット スイッチからの PoE 入力をサポートしていないので、Power over Ethernet (PoE) はイーサネット スイッチでディセーブルにする必要があります。

<sup>2</sup> この設定は、画面上のメニュー (リモコン) の [詳細設定 (Advanced Configuration)] または Web インターフェイスの [システム設定 (System Configuration)] ページにあります。



## Touch 10 ユーザ インターフェイスの接続 (1/2 ページ)

SX20 コーデック用のユーザ インターフェイスとしてタッチ 10 を使用するには、にタッチ 10 をネットワーク (LAN) 経由でコーデックとペアリングする必要があります。これは、リモート ペアリングと呼ばれます。

### LAN 経由でのタッチ 10 のコーデックへの接続

図のように、タッチ 10 とコーデックを壁のネットワーク ソケットまたはネットワーク スイッチに接続します。

#### Touch 10 の設定

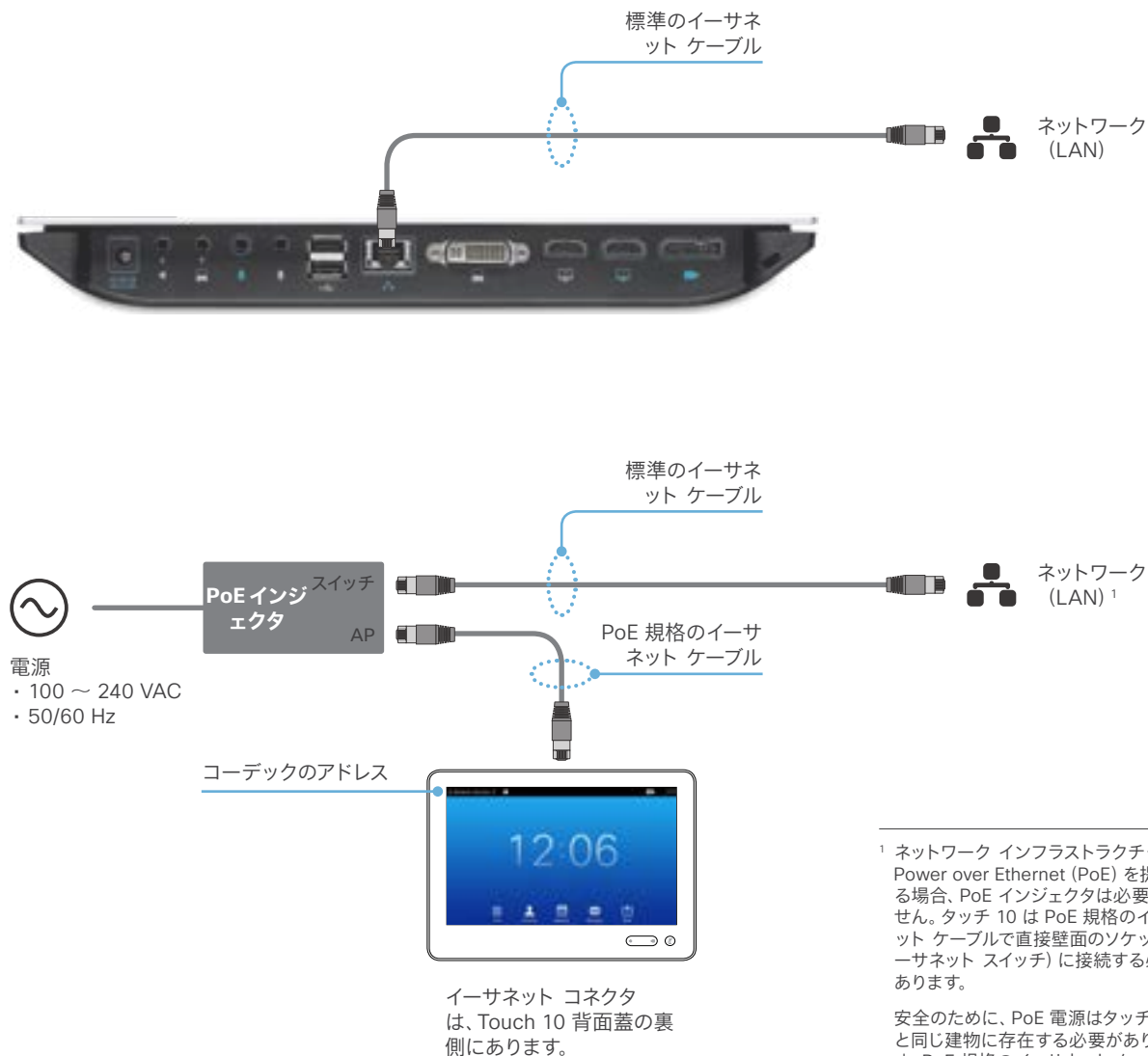
Touch 10 が電源に接続されると、設定手順が始まります。画面に表示される指示に従います。

[ペアリング対象のコーデックを選択 (Select codec to pair with)] ダイアログが表示されたら、以下に注意してください。

- ペアリング可能なシグナリング中コーデックのリストが、ダイアログに表示されます。ペアリングするコーデック名をタップして、続いて[ペアリング開始 (Start Pairing)]をタップします。  
コーデックをリストに表示するには、次を満たしている必要があることに注意してください。
  - コーデックおよびタッチ 10 が同じサブネット上にある必要があります。
  - コーデックは、直近の 10 分間に再起動されている必要があります。コーデックがリストに表示されない場合は、コーデックを再起動してください。
- コーデックが使用可能なコーデックのリストに表示されない場合は、デバイスを手動でペアリングすることができます。[コーデックを手動で選択... (Select codec manually...)] をクリックして、コーデックの IP アドレスまたはホスト名を入力し、[ペアリング開始 (Start Pairing)] をタップします。
- ペアリングを開始するために、コーデックの管理者のユーザ名およびパスワードを入力する必要があります。

タッチ 10 にソフトウェアのアップグレードが必要な場合は、設定手順の一部で新しいソフトウェアがコーデックからダウンロードされ、自動的にユニットにインストールされます。アップグレード後にタッチ 10 が再起動します。

コーデック アドレスが上部バナーに表示されているかチェックすれば、タッチ 10 がコーデックに正常に接続されていることを確認できます。

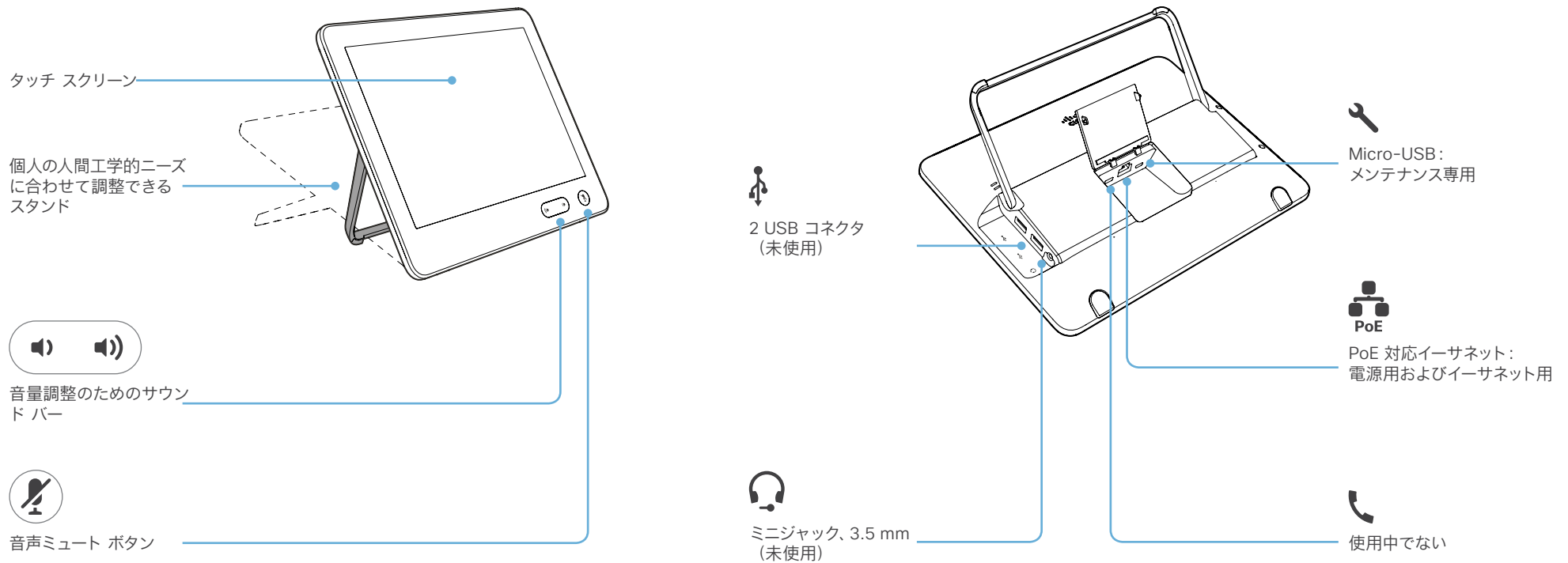


<sup>1</sup> ネットワーク インフラストラクチャが Power over Ethernet (PoE) を提供する場合は、PoE インジェクタは必要ありません。タッチ 10 は PoE 規格のイーサネット ケーブルで直接壁面のソケット (イーサネット スイッチ) に接続する必要があります。

安全のために、PoE 電源はタッチ 10 と同じ建物に存在する必要があります。PoE 規格のイーサネット ケーブルは最大 100m (330 フィート) です。

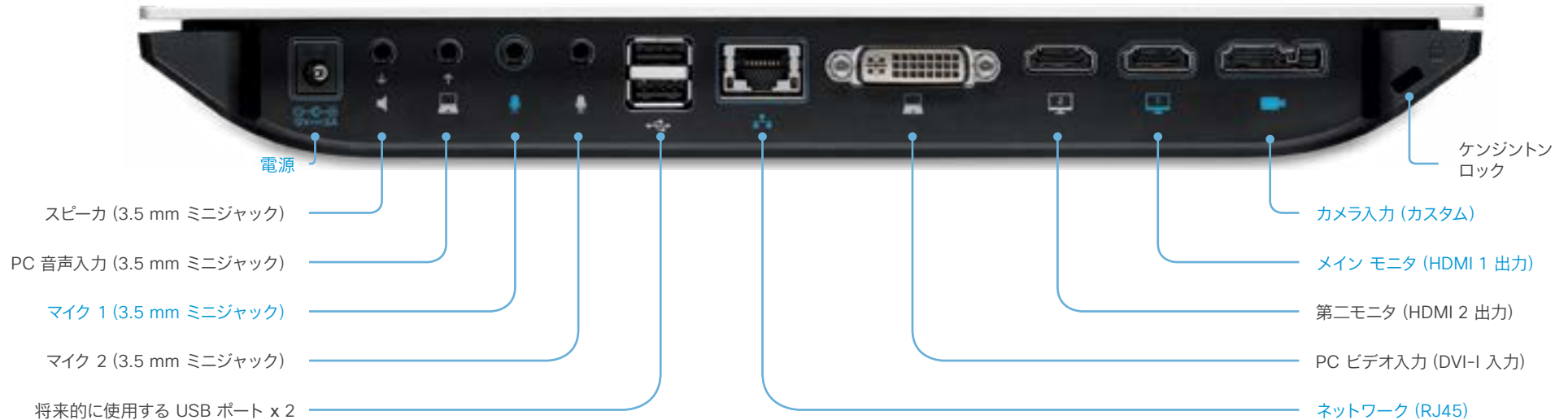
## Touch 10 ユーザ インターフェイスの接続 (2/2 ページ)

### Touch 10 物理インターフェイス



## 背面パネル

基本設定で使用されるコネクタは、**青字**で強調表示されています。



### 電源ソケット

提供されている Lite-On PA-1600-2A-LF 電源供給を常に使用します。

電源アダプタからコーデックへの出力: 5 A、12 V

電源アダプタへの入力: 2 A、100 ~ 240 V、50 ~ 60 Hz

### スピーカ (出力回線)

3.5 mm ミニジャック、3 コンダクタ コネクタ。発言中の参加者の使用限定 (組み込みの増幅器)。

### PC 音声入力 (入力回線)

3.5 mm ミニジャック、3 コンダクタ コネクタ。PC または DVD プレーヤーなどのその他の外部再生デバイスに接続するときに使用されます。

### マイク 1 および 2

3.5 mm ミニジャック、4 コンダクタ コネクタ。

Cisco Table Microphone 20 の使用を推奨しています。別のマイクを使用する場合は、次のページのマイク コネクタ仕様に準拠していることを確認してください。

### USB X 2

未使用。また RS-232 アダプタでのシリアル通信用。

### ネットワーク コネクタ

イーサネット インターフェイス、1 X 10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

### PC ビデオ入力

DVI-I ソケット、PC のプレゼンテーション用デジタル/アナログ ビデオ入力。

### モニタ出力 (メインおよび第 2)

メイン モニタ用 HDMI ソケット、デジタル ビデオおよび音声出力、第 2 モニタ用デジタル ビデオ出力。

### カメラ入力、組み込み HDMI、およびカメラ制御

カスタム カメラ ソケットは、カメラからのデジタル ビデオの入力用 HDMI コネクタ、およびカメラ制御と電源供給用コネクタから構成されます。

カメラ制御 (パン、チルト、ズーム) のための VISCA™\* プロトコルがサポートされています。ピン番号 20 により、メイン カメラに 12 VDC、1.5 A が供給されます。

### ケンジントン ロック

コーデックの移動または盗難を防止するために、ケンジントン ロックを使用できます。

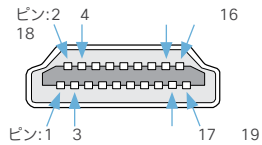
\*VISCA™ は Sony Corporation の商標です。

## ピン配列方法

このページは SX20 のオーディオ、ビデオおよびカメラ コネクタのピン配列方法を示しています。

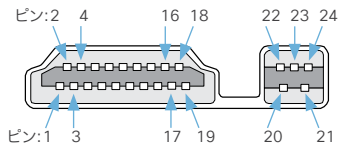
### HDMI のピン配列

ソケットの外観図



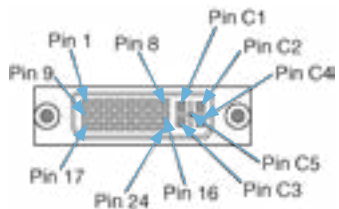
### カメラのコネクタのピン配列

ソケットの外観図



### DVI-I ソケットのピン配列

ソケットの外観図



### カメラ コネクタと HDMI ピン配列\*

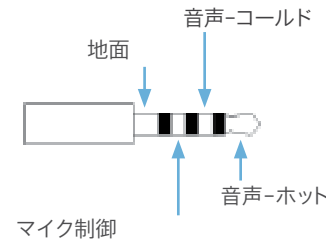
ピン	割り当て
1	TMDS データ 2+
2	TMDS データ 2 シールド
3	TMDS データ 2-
4	TMDS データ 1+
5	TMDS データ 1 シールド
6	TMDS データ 1-
7	TMDS データ 0+
8	TMDS データ 0 シールド
9	TMDS データ 0-
10	TMDS クロック +
11	TMDS クロック シールド
12	TMDS クロック -
13	CEC
14	予約済み (デバイスでは N.C.)
15	SCL
16	SDA
17	DDC/CEC アース
18	+5 V の電力 (最大 50 mA)
19	ホット プラグ検出
20	+12 V の電源 (最大 2 A)
21	地面
22	RS232 レベル (出力)
23	地面
24	RS232 レベル (入力)
Shell	地面

\* HDMI のピンは 1 ~ 19 のみですが、カメラ コネクタのピン 1 ~ 24 存在します。

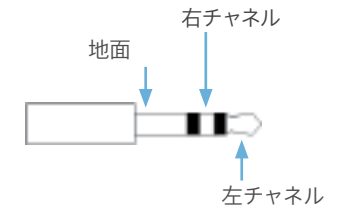
### DVI-I ソケットのピン配列

ピン	割り当て
1	TMDS データ 2-
2	TMDS データ 2+
3	TMDS データ 2/4 シールド
4	TMDS データ 4-
5	TMDS データ 4+
6	DDCクロック
7	DDC データ
8	アナログ垂直同期
9	TMDS データ 1-
10	TMDS データ 1+
11	TMDS データ 1/3 シールド
12	TMDS データ 3-
13	TMDS データ 3+
14	+5 V
15	地面
16	ホット プラグ検出
17	TMDS データ 0-
18	TMDS データ 0+
19	TMDS データ 0/5 シールド
20	TMDS データ 5-
21	TMDS データ 5+
22	TMDS クロック シールド
23	TMDS クロック +
24	TMDS クロック -
C1	アナログ赤
C2	アナログ緑
C3	アナログ青
C4	アナログ水平同期
C5	アナログ アース

### 3.5 mm ミニジャック、4 コンダクタ (マイク)



### 3.5 mm ミニジャック、3 コンダクタ (極) (ライン入力/ライン出力)



### オーディオ コネクタ (ミニジャック)

	マイク	入力回線	出力回線
コネクタのピン配列	Tip = ホット Ring 1 = コールド Ring 2 = マイク制御 シールド = GND	チップ = 左チャンネル リング = 右チャンネル シールド = GND	チップ = 左チャンネル リング = 右チャンネル シールド = GND
信号タイプ	[Balanced]	アンバランス	アンバランス
コネクタ (コーデック)	3.5 mm ミニジャック、4 コンダクタ	ミニジャック 3.5 mm、3 コンダクタ (極)	3.5 mm ミニジャック、3 コンダクタ
入力インピーダンス	1.5 kΩ/leg	18 kΩ	該当なし
出力インピーダンス	該当なし	該当なし	100 Ω
最大入力レベル	-18.3 dBu +/- 2 dB	9.0 dBu +/- 2 dB	該当なし
最大出力レベル	該当なし	該当なし	8.2 dBu +/- 2 dB
ファントム電源	11 V +/- 1 V	該当なし	該当なし
ファントム電源抵抗のピン「tip」	1.7 kΩ	該当なし	該当なし
ファントム電源抵抗のピン「ring 1」	1.7 kΩ	該当なし	該当なし
周波数応答	20 Hz ~ 20 kHz +/- 1 dB	20 Hz ~ 20 kHz +/- 1 dB	20 Hz ~ 20 kHz +/- 1 dB
信号対ノイズ比	-85 dB	-95 dB	-95 dB

## Cisco VCS プロビジョニング

Cisco VCS (Video Communication Server) プロビジョニングを使用する場合、Cisco TMS (TelePresence Management System) に、プロビジョニング可能なすべての設定が含まれているテンプレートをアップロードする必要があります。これは Cisco TMS プロビジョニング設定テンプレートと呼ばれます。

このテンプレートには、ビデオ システムの詳細設定がすべて含まれています。[システムユニット名 (*SystemUnit Name*)] と [SIPプロフィールファイル[1..1]URI (*SIP Profile [1..1] URI*)] を除くすべての設定をビデオ システムに自動的にプロビジョニングできます。

設定は、このマニュアルの▶「システム設定」の章で説明していません。デフォルト値またはサンプル値による例が含まれています。

### プロビジョニング設定テンプレートのダウンロード

次の URL からテンプレートをダウンロードできます。

▶ <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/products-release-notes-list.html>

各ビデオ システム モデルの各ソフトウェア リリースに、1 つのプロビジョニング設定テンプレート ファイル (XML ファイル) があります。該当するファイルをご確認の上、使用してください。

Cisco TMS へのファイルのアップロード方法や、プロビジョニングするパラメータの希望値の設定方法については、『Cisco TMS Provisioning Deployment Guide』を参照してください。Cisco TMS で設定しない場合は、デフォルト値が使用されます。

## モニタについて

### メイン モニタへの接続

メイン モニタは、ビデオ出力 HDMI 1 (メイン モニタのデフォルト コネクタ) または HDMI 2\* に接続できます。


コーデックはモニタのネイティブ解像度を識別し、可能であればこれを出力します。通常はこれにより、接続されたモニタの最適な画像が提供されます。自動処理に失敗した場合、[\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[HDMI n\] > \[解像度 \(Resolution\)\]](#) 設定を使用して解像度を手動で選択しなければなりません。

### HDMI 1 への接続

メイン モニタを HDMI 1 に接続すると、画面上 (OSD - オン スクリーン ディスプレイ) のメニュー、アイコン、その他の情報は自動的にモニタに表示されます。これは、HDMI 1 がコーデックのデフォルトのビデオ出力であるためです。

### HDMI 2 への接続

メイン モニタを HDMI 2\* 出力に接続すると、メニュー、アイコン、その他の情報は自動的に画面上に表示されません。OSD を選択された出力に移す必要があります。

 HDMI 2 には音声がありません。

SX20 コーデックのビデオ出力



### OSD の移動

リモコンまたは Web インターフェイスを使用して OSD 出力を移すことができます。

#### リモート制御

メイン モニタに接続されているコネクタを特定し、リモコンで次のキー シーケンスを実行します。

- ・ `Disconnect * # * # 0 x #` x=1 (HDMI 1) x=2 (HDMI 2)

例 : HDMI 2 を OSD の出力として設定。

 - \* - # - \* - # - 0 - 2 - #

#### Web インターフェイス

[システム設定 (System Configuration)] ページを開きます。[\[ビデオ \(Video\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#) に進み、メイン モニタのビデオ出力コネクタを選択します。

### デュアル モニタ

 Dual Display オプションが必要です。

デュアル モニタの設定を実行したい場合、メイン モニタをビデオ出力 HDMI 1 に接続し、第 2 モニタをコーデックのビデオ出力 HDMI 2 に接続します。

#### デュアル モニタの設定

レイアウトを 2 台のモニタに分散するには、[詳細設定 (Advanced configuration)] (画面上のメニュー) に進みます。または [システム設定 (System Configuration)] ページ (Web インタフェース) を開きます。[\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニタ \(Monitors\)\]](#) に移動し、[デュアル (Dual)] を選択します。

\* HDMI 2 の使用には Dual Display オプションが必要です。

## 最適鮮明度プロファイル

理想的な光の条件下で、帯域幅（コール レート）の要件を大幅に減らすことができます。

最適鮮明度プロファイルは、会議室の光の状態とビデオ入力（カメラ）の品質に合わせる必要があります。光の状態とビデオ入力が高ければ、プロファイルも向上します。このとき、良い光の条件下で、ビデオ エンコーダは指定のコール レートに一層優れた品質（高解像度またはフレーム レート）を提供します。

一般に、最適鮮明度プロファイルを [標準 (Normal)] に設定することが推奨されます。ただし、光の条件が良い場合は、プロファイルを設定する前にさまざまな最適鮮明度プロファイル設定でエンドポイントをテストすることを推奨します。

Web インターフェイスの [システム設定 (System Configuration)] に進み、[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [ソース [1..n]] > [Source [1..n]] > [最適化定義 (OptimalDefinition)] > [プロファイル (Profile)] に移動して、優先する最適鮮明度プロファイルを選択します。

解像度のしきい値を設定して、60 fps のビデオ送信を可能にするタイミングを指定できます。このしきい値より低いすべての解像度では、最大送信フレーム レートは 30 fps とします。それより高い解像度では、使用可能な帯域幅が十分であれば 60 fps にすることが可能です。

Web インターフェイスの [システム設定 (System Configuration)] に進み、[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [ソース [1..n]] > [Source [1..n]] > [最適化定義 (OptimalDefinition)] > [しきい値 60fps (Threshold60fps)] に移動して、しきい値を設定します。

最適鮮明度設定を有効にするには、ビデオ入力の品質設定を [モーション (Motion)] に設定する必要があります。ビデオ入力の品質を [シャープさ (Sharpness)] に設定すると、エンドポイントはフレーム レートに関係なく、可能な限り高解像度で送信します。

Web インターフェイスの [システム設定 (System Configuration)] に進み、[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [ソース [1..n]] > [Source [1..n]] > [品質 (Quality)] に移動して、ビデオ品質パラメータを [モーション (Motion)] に設定します。

▶ 「システム設定」の章で、ビデオ設定の詳細情報を確認できます。



### High

通常、ビデオ会議専用の部屋で使用されます。優れた全体的なエクスペリエンスを実現するには、非常に良い光の条件と高品質のビデオ入力が必要です。

理想的な条件下では、帯域幅要件が [標準 (Normal)] と比べて最大 50% 削減できます。



### Medium

通常は、安定した良い光の条件と高品質のビデオ入力を備えた会場で使用されます。

帯域幅要件は [標準 (Normal)] と比べて最大 25% 削減できます。



### Normal

この設定は、室内の光が中程度か不十分であるオフィス環境でよく使用されます。

さまざまな最適鮮明度プロファイル、コール レート、フレーム レートで使用される一般的な解像度

フレーム レート	最適鮮明 度プロフ ایل	コール レート						
		256 kbps	768 kbps	1152 kbps	1472 kbps	2560 kbps	4 Mbps	6 Mbps
30 fps	Normal	512X288	1024X576	1280X720	1280X720	1920X1080	1920X1080	1920X1080
	Medium	640X360	1280X720	1280X720	1280X720	1920X1080	1920X1080	1920X1080
	High	768X448	1280X720	1280X720	1920X1080	1920X1080	1920X1080	1920X1080
60 fps	Normal	256X144	512X288	768X448	1024X576	1280X720	1280X720	1920X1080
	Medium	256X144	768X448	1024X576	1024X576	1280X720	1920X1080	1920X1080
	High	512X288	1024X576	1280X720	1280X720	1920X1080	1920X1080	1920X1080

## パケット損失の復元力: ClearPath

ClearPath により、高度なパケット損失復元メカニズムを導入できます。これらのメカニズムは、エラーを起こしやすい環境でビデオシステムを使用した場合の品質を向上させます。

ClearPath はシスコ独自のプロトコルです。TC ソフトウェアを実行するすべてのエンドポイントが ClearPath に対応しています。

関係するエンドポイントとインフラストラクチャ要素が ClearPath に対応している場合、ポイントツーポイント接続ですべてのパケット損失復元メカニズムが使用されます。オプションの組み込みの MultiSite 機能を使う場合は、一部のメカニズムだけがサポートされます。



## SX20 に接続するスピーカ システムの要件

シスコは、TelePresence エンドポイントでのカメラからスクリーンへの遅延を最小限にするために、多くの作業を行っています。

新しいコンシューマ TV には通常、「モーション フロー」または同様のテクノロジーが装備されており、標準フレームの間に新しいビデオ フレームを挿入して、よりスムーズなイメージが作成されるようにしています。この処理には時間がかかるため、リップ同期を維持するために、TV は音声を遅らせて音声とビデオが同時に受信されるようにします。

シスコのエンドポイントのエコー キャンセラは、このような遅延を最大 30 ミリ秒にまで処理できます。多くの顧客の TV は、リアルタイムのビデオ通信用に作られていないため、遅延が 30 ミリ秒よりも長くなる場合があります。

SX20 とともにこのような TV を使用する場合、さらなる遅延を生じさせる「モーション フロー」、「ナチュラル モーション」またはその他のビデオ処理を無効にすることをお勧めします。

また、一部のコンシューマ TV は、TV エクスペリエンスを向上させる「仮想サラウンド」効果や「ダイナミック コンプレッション」などの高度な音声処理をサポートしています。このような処理はアコースティック エコー キャンセラの不具合を引き起こすため、無効にする必要があります。

一部のモニタには「ゲーム モード」と呼ばれる設定が装備されています。このモードは、応答時間を短縮するために設計されており、通常は遅延を軽減できます。

## コーデックの初期設定へのリセット

**!** 初期化すると、元に戻すことはできません。  
初期化する前に、必ずログ ファイルおよび現在の設定のバックアップを実行してください。Web インターフェイスを開いてログインし、次の手順に従ってください。

- [メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] に移動し、[バックアップ (Backup)] タブを選択します。
- [ログのダウンロード (Download Logs)] と [設定のバックアップのダウンロード (Download configuration backup)] をクリックし、手順に従ってファイルをコンピュータに保存します。

ビデオ システムに重大な問題が発生した場合、最後の手段として初期化できます。

初期化する前に、以前に使用していたソフトウェア バージョンに戻すことを必ず検討してください。多くの場合これでシステムをリカバリします。現在および以前のソフトウェア イメージの両方がシステムに存在することに注意してください。ソフトウェアの交換については、▶「以前に使用していたソフトウェア バージョンへの復元」の項を参照してください。

システムを初期化するには、タッチ コントローラまたは Web インターフェイスを使用することを推奨します。これらのインターフェイスが使用できない場合、ビデオ システムの電源ボタンも使用できます。

リモコンと画面上のメニューでは出荷時の状態へのリセットを行えません。

ビデオ システムを初期化すると、以下のことが起きます。

- 通話履歴が削除されます。
- パスワードがデフォルト値にリセットされます。
- すべてのシステム パラメータがデフォルト値にリセットされます。
- システムにアップロードされていたファイルは、すべて削除されます。これには、カスタム背景、証明書、お気に入りリスト（個人アドレス帳）などがあります。
- 以前の（非アクティブな）ソフトウェア イメージが削除されます。
- リリース キーとオプション キーは影響を受けません。

システムはリセット後に自動的に再起動されます。これは、以前と同じソフトウェア イメージを使用しています。

### ユーザ インターフェイス: タッチ

1. ユニットがスリープ モードの場合、タッチ スクリーンを静かにタップします。
2. [設定 (Settings)]\* メニューを開き、[管理者 (Administrator)] > [(リセット) Reset] に移動します。[管理者 (Administrator)] メニューにアクセスするには、管理者のユーザ名とパスワードでログインしなければなりません。
3. [初期化 (Factory Reset)] ボタンをタップします。

システムが初期化され、自動的に再起動されます。これには数分かかります。

システムが再起動し、初期化されたことを確認する通知がメイン画面に表示されます。通知は約 10 秒後に非表示になります。

### ユーザ インターフェイス: Web

- i** タッチ コントローラで [設定 (Settings)]\* メニューを開き [システム情報 (System Information)] をタップするか、リモート コントロールを使用して [ホーム (Home)] > [設定 (Settings)] > [システム情報 (System information)] に移動してシステムの IP アドレス (IPv4 または IPv6) を確認します。

1. Web ブラウザを開き、ビデオ システムの IP アドレスをアドレス バーに入力します。
2. [メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] に移動し、[初期化 (Factory Reset)] タブを選択します。
3. 表示された情報をよく確認してから、[初期化 (Perform a factory reset...)] をクリックします。
4. 確認して初期化を実行するには、赤い [はい (Yes)] ボタンをクリックします。

システムが初期化され、自動的に再起動されます。これには数分かかります。

システムが再起動し、初期化されたことを確認する通知がメイン画面に表示されます。通知は約 10 秒後に非表示になります。

### 電源ボタンの使用方法

1. LED が完全に消灯するまで電源ボタンを押したままにしてシステムをシャット ダウンし、電源をオフにします。
2. LEDs がゆっくり点滅しはじめるまで電源ボタンを押し続けます (約 10 秒間)。その後、ボタンを離します。
3. LEDs が点滅しはじめてから 4 秒以内に、電源ボタンを 2 回押します。

システムが初期化され、自動的に再起動されます。これには数分かかります。

システムが再起動し、初期化されたことを確認する通知がメイン画面に表示されます。通知は約 10 秒後に非表示になります。

- i** 電源ボタンを 4 秒以内に 2 回押せないと、システムはデフォルトの工場出荷時設定に戻されず、確認メッセージは表示されません。この場合、手順 1 に戻り、再試行してください。



LED インジケータ付き電源ボタン

\*[設定 (Settings)] メニューは、タッチ 10 コントローラの左上隅の連絡先情報をタップすると表示されるドロップ ダウン ウィンドウからアクセスできます。

## Touch 8 ユーザ インターフェイスの初期化

新しいメッセージ インジケータやミュート ボタンを使用して、タッチ 8 ユーザ インターフェイスを工場出荷時のデフォルト設定にリセットできます。

タッチ 8 を初期設定へリセットすると、ログが削除されて設定およびペアリング情報が失われます。

タッチ 8 はリセット後に再起動され、ビデオ システムに改めてペア化する必要があります。ペア化に成功すると、ビデオ システムから新しい設定を受け取ります。



工場出荷時設定にリセットすると、元に戻すことはできません。

1. **新しいメッセージ インジケータ**と**ミュート**ボタンの位置を確認します。

**新しいメッセージ インジケータ**は少し見分けにくいですが、感嘆符の付いたボタンです。



2. **新しいメッセージ インジケータ**を押し、点灯するまで押し続けます (約 10 秒)。

3. **ミュート** ボタンを 2 回押します。

タッチ コントローラが工場出荷時設定へと自動的に戻され、再起動されます。

## Touch 10 ユーザ インターフェイスの初期化

Touch 10 ユーザ インターフェイスにエラーが発生した場合、接続を再確立するために初期化が必要となる場合があります。その場合は、必ずシスコのサポート組織に連絡して実行する必要があります。

Touch 10 を初期化するとペアリング情報が失われ、(ビデオ システムではなく) Touch 10 本体の設定が工場出荷時のデフォルトに戻されます。

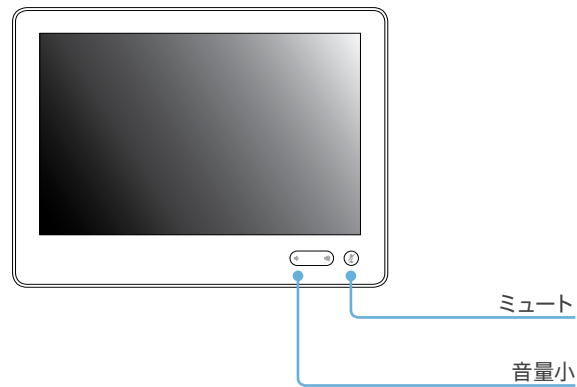
タッチ 10 はリセット後に再起動され、ビデオ システムに改めてペア化する必要があります。ペア化に成功すると、ビデオ システムから新しい設定を受け取ります。



初期化すると、元に戻すことはできません。

### Touch 10 の初期化

1. ミュートおよび音量小ボタンを見つけます。



2. (赤と緑が) 点滅しはじめるまで、ミュート ボタンを押します。約 10 秒かかります。
3. 音量小ボタンを 2 回押します。  
Touch 10 が自動的に初期化され、再起動されます。

## SX20 Quick Set の技術仕様

### 製品互換性

標準準拠テレプレゼンスおよびビデオ システムとの完全互換性

### ソフトウェアの互換性

Cisco TelePresence ソフトウェア バージョン TC5.1 以降

### コンポーネント

セットの同梱物:

- ・ SX20 コーデック
- ・ Cisco TelePresence PrecisionHD 1080p 2.5x、PrecisionHD 1080p 4xS2 または PrecisionHD 1080p 12x カメラ
- ・ Cisco TelePresence Table Microphone 20
- ・ リモート制御
- ・ ケーブル
- ・ 電源モジュール

### オプション コンポーネント

- ・ Cisco TelePresence Touch 8
- ・ 壁面取り付けキット
- ・ 追加の Cisco TelePresence Table Microphone 20

### 帯域幅

最大 6 Mbps ポイントツーポイントの H.323 および SIP

### 解像度とフレーム レートの最小帯域幅

- ・ 768 kbps から 720p30
- ・ 1152 kbps から 720p60
- ・ 1472 Kpbs から 1080p30
- ・ 2560 kbps から 1080p60

### ファイアウォール トラバース

- ・ Cisco TelePresence Expressway テクノロジー
- ・ H.460.18 および H.460.19 ファイアウォール トラバース
- ・ SIP ICE (Interactive Connectivity Establishment)

### ビデオ標準

- ・ H.263
- ・ H.263+
- ・ H.264

### ビデオ機能

- ・ ネイティブ 16:9 ワイド画面
- ・ 高度な画面レイアウト
- ・ インテリジェント ビデオ管理
- ・ ローカル自動レイアウト

### ビデオ入力 (2 系統)

HDMI × 1 (バージョン 1.3)、DVI-I × 1 (アナログおよびデジタル) 入力。

次のような最大 1920 × 1080@60fps (HD1080p60) までのフォーマットをサポート

- ・ 640 × 480
- ・ 720 × 480
- ・ 720 × 576
- ・ 800 × 600
- ・ 848 × 480
- ・ 1024 × 768
- ・ 1152 × 864
- ・ 1280 × 720
- ・ 1280 × 768
- ・ 1280 × 800
- ・ 1280 × 960
- ・ 1280 × 1024
- ・ 1360 × 768
- ・ 1366 × 768
- ・ 1400 × 1050
- ・ 1440 × 900
- ・ 1680 × 1050
- ・ 1920 × 1080

Extended Display Identification Data (EDID)

### ビデオ出力 (2 系統)

HDMI 出力 × 2 (バージョン 1.3)

次のような最大 1920 × 1080@60fps (1080p60) までのフォーマットをサポート

- ・ 1280 × 720 (720p)
- ・ 1280 × 768 (WXGA)
- ・ 1360 × 768 (WXGA)
- ・ 1366 × 768 (WXGA)
- ・ 1920 × 1080 (1080p)

VESA モニタ電源管理

Extended Display Identification Data (EDID)

次のような最大 1920 × 1080@60fps (HD1080p60) までのエンコードまたはデコード ビデオ フォーマットをサポート

- ・ 176 × 144 (QCIF) (デコードのみ)
- ・ 352 × 288 (CIF)
- ・ 512 × 288 (w288p)
- ・ 576 × 448 (448p)
- ・ 640 × 480 (VGA)
- ・ 704 × 576 (4CIF)
- ・ 768 × 448 (w448p)
- ・ 800 × 600 (SVGA)
- ・ 1024 × 576 (w576p)
- ・ 1024 × 768 (VGA)
- ・ 1280 × 720 (HD720p)
- ・ 1280 × 768 (WXGA)
- ・ 1920 × 1080 (HD1080p)

### 音声標準

- ・ G.711
- ・ G.722
- ・ G.722.1
- ・ G.728
- ・ G.729AB
- ・ 64 kbps および 128 kbps AAC-LD

### 音声機能

- ・ CD クオリティ 20 kHz ステレオ (入力回線)
- ・ 音響エコー キャンセラ 2
- ・ オートゲイン コントロール (AGC)
- ・ オート ノイズ リダクション
- ・ アクティブ リップ シンク

### 音声入力 (4 系統)

- ・ マイク 2 本、4 ピン ミニジャック
- ・ 入力回線用 ミニジャック 1 (ステレオ)

### 音声出力 (2 系統)

- ・ 出力回線用 ミニジャック 1 (ステレオ)
- ・ 1 HDMI (デジタル メイン音声)

### デュアル ストリーム

- ・ H.239 (H.323) デュアル ストリーム
- ・ BFCP (SIP) デュアル ストリーム
- ・ 1080p30 (1920 × 1080) までの解像度をサポート

### マルチポイント サポート

- ・ 4 画面分割の内蔵 SIP/H.323 マルチポイント (MultiSite を参照)
- ・ Cisco TelePresence Multiway のサポート (Cisco TelePresence Video Communication Server [Cisco VCS] および Cisco TelePresence MCU が必要)
- ・ Cisco TelePresence Multipoint Switch (CTMS) でホストされるマルチポイント会議にネイティブに参加する機能

### MULTISITE 機能

(埋め込みマルチポイント)

- ・ 4 方向の SIP/H.323 MultiSite: 最大 576p30 の解像度
- ・ 完全個別音声および映像トランスコーディング
- ・ MultiSite 連続プレゼンスの個別レイアウト (自画面を除く)
- ・ 同一会議中の H.323/SIP/VoIP
- ・ 最大 1080p30(SXGA)の解像度で、任意の参加者からのプレゼンテーション (H.239/BFCP) をサポート
- ・ 最適な印象 (自動連続プレゼンス レイアウト)
- ・ 任意のサイトからの H.264、暗号化、およびデュアル ストリーム
- ・ IP ダウンスピード機能
- ・ ダイアル インとダイヤル アウト
- ・ 追加の通話 (ライセンスは不要)
- ・ 最大 6 Mbps の帯域

### プロトコル

- ・ H.323 および SIP (デュアル コール スタックのサポート)
- ・ ISDN (Cisco TelePresence ISDN Link が必要)

#### IP ネットワーク機能

- ・ サービス設定を行うためのドメイン ネーム システム (DNS) のルックアップ
- ・ デイファレンシエーテッド サービス (Quality of Service (QoS))
- ・ IP 帯域幅最適化コントロール (フロー制御を含む)
- ・ 自動ゲートキーパー検出
- ・ ダイナミック再生およびリップシンクのバッファリング
- ・ H.323 で H.245 デュアルトーン多重周波数 (DTMF) トーン
- ・ ネットワーク時間プロトコル (NTP) による日付および時刻のサポート
- ・ パケット損失時のダウンスピード機能
- ・ Uniform Resource Identifier (URI) ダイアル
- ・ TCP/IP
- ・ Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)
- ・ IEEE 802.1x ネットワーク認証
- ・ IEEE 802.1q VLAN
- ・ IEEE 802.1p QoS およびサービス クラス
- ・ ClearPath
- ・ Medianet: Mediatrace とメタデータ

#### IPv6 ネットワークのサポート

- ・ DHCP, SSH, HTTP, HTTPS, DNS, および DiffServ に対するデュアル スタックの IPv4 および IPv6
- ・ スタティック IP アドレスの割り当て、ステートレス自動設定および DHCPv6 をサポート

#### 組み込み暗号化

- ・ H.323 および SIP ポイントツーポイント
- ・ 規格準拠: H.235 v3 および Advanced Encryption Standard (AES)
- ・ キーの自動生成と交換
- ・ デュアル ストリームのサポート

#### CISCO UNIFIED COMMUNICATIONS MANAGER (Cisco UCM バージョン 8.6 以上が必要)

- ・ Cisco Unified Communications Manager へのネイティブ登録
- ・ Cisco Unified Communications Manager の基本プロビジョニング
- ・ Cisco Unified Communications Manager からのファームウェア アップグレード
- ・ Cisco Discovery Protocol および DHCP オプション 150 のサポート
- ・ 保留、保留解除、転送、および社内ディレクトリ検索などの基本的なテレフォニー機能

#### セキュリティ機能

- ・ HTTPS および SSH を使用して管理
- ・ IP 管理パスワード
- ・ メニュー管理パスワード
- ・ IP サービスの無効
- ・ ネットワーク設定の保護

#### ネットワーク インターフェイス

- ・ 1 LAN およびイーサネット (RJ-45) 10/100/1000 Mbps

#### その他のインターフェイス

- ・ 2 USB ホスト (将来的に使用)
- ・ USB および RS-232 アダプタ、あるいは Y ケーブルを使用したカメラ ポートを通じて利用可能なシリアル ポート

#### PRECISIONHD 1080P 12X カメラ

- ・ 12 × 光学ズーム
- ・ 電動式チルト +15°/-25°
- ・ 電動式パン +/-90°
- ・ 垂直視野角 43.5°
- ・ 水平視野角 72°
- ・ F 1.7
- ・ 焦点距離: 0.3 m ~ 無限
- ・ 1920 × 1080 ピクセル プログレッシブ @ 60fps
- ・ その他のサポート対象フォーマット (Dip-switch にて設定可能): 1920 × 1080@60 fps (HDMI のみ)、1920 × 1080@50 fps (HDMI のみ)、1920 × 1080@30 fps、1920 × 1080@25 fps、1280 × 720@60 fps、1280 × 720@50 fps、1280 × 720@30 fps、1280 × 720@25 fps
- ・ 自動または手動フォーカス、輝度およびホワイト バランス
- ・ 遠端カメラ制御
- ・ HDMI および HD-SDI 出力、およびデジター チェーン
- ・ 画像の上下逆置きと自動裏返し

#### PRECISION 40 (PRECISIONHD カメラ 1080P 4XS2)

- ・ 4 × 光学ズーム
- ・ 電動式チルト +15°/-25°
- ・ 電動式パン +/-90°
- ・ 垂直視野角 43.5°
- ・ 水平視野角 70°
- ・ F 1.7
- ・ 焦点距離: 0.3 m ~ 無限
- ・ 1920 × 1080 ピクセル プログレッシブ @ 60fps
- ・ 自動または手動フォーカス、輝度およびホワイト バランス
- ・ 遠端カメラ制御
- ・ デュアル HDMI およびカメラ制御
- ・ 画像の上下逆置きと手動による裏返し

#### PRECISION 20 (PRECISIONHD カメラ 1080P 2.5X)

- ・ 2.5 × 光学ズーム
- ・ 電動式チルト +5°/-25°
- ・ 電動式パン +/-30°
- ・ 垂直視野角 51.5°
- ・ 水平視野角 83°
- ・ F 2.0
- ・ 焦点距離: 0.3 m ~ 無限
- ・ 1920 × 1080 ピクセル プログレッシブ @ 60fps
- ・ 自動または手動フォーカス、輝度およびホワイト バランス
- ・ 相手先 (遠端) カメラの制御
- ・ デュアル HDMI およびカメラ制御および USB 出力
- ・ 画像の上下逆置きと自動裏返し

#### システム管理

- ・ Cisco TelePresence Management Suite のサポート
- ・ 埋め込み SNMP, Telnet, SSH, XML, および SOAP によるトータル管理
- ・ Web サーバ、SCP、HTTP、および HTTPS を使用したりモート ソフトウェアのアップロード

#### ディレクトリ サービス

- ・ ローカル ディレクトリ (個人アドレス帳) のサポート
- ・ 社内ディレクトリ
- ・ Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) および H.350 (Cisco TelePresence Management Suite 利用可能) をサポートするサーバ ディレクトリを使用してエントリ無制限
- ・ 社内ディレクトリ数無制限 (Cisco TelePresence Management Suite で使用可能)
- ・ 受信コールの日付と時刻
- ・ 発信コールの日付と時刻
- ・ 不在着信の日付と時刻

#### ユーザ インターフェイス

- ・ リモコン (TRC5) と画面メニュー
- ・ Cisco TelePresence Touch 8 (オプション)
- ・ Cisco TelePresence Touch 10 (オプション)

#### 電源

- ・ 自動検知電源
- ・ 外部電源供給: Lite-On PA-1600-2A-LF
  - AC 入力: 2 A、100-240 V、50-60 Hz
  - DC 出力: 5.0 A、12.0 V
- ・ コーデックおよびメイン カメラについて IEC 60950-1 で定義されている通常の動作状況での消費電力は 25 W

#### 温度範囲

- 動作温度および湿度:
- ・ 周囲温度: 0 ~ 35°C (32 ~ 95°F)
  - ・ 相対湿度 (RH): 10 ~ 90%

#### 保管および輸送の温度

- ・ RH 10 ~ 90% では -20 ~ 60° (-4 ~ 140°F) (結露しないこと)

#### SX20 コーデックの寸法

- ・ 幅: 300 mm (11.8 インチ)
- ・ 高さ: 34 mm (1.4 インチ)
- ・ 奥行: 180 mm (7.1 インチ)
- ・ 重量: 1.4 kg (3.1 ポンド)

#### 認定および適合規格

##### EU/EEC

指令 2006/95/EC (低電圧指令)

- 規格 IEC/EN 60950-1

指令 2004/108/EC (EMC 指令)

- 規格 EN 55022、クラス A
- 規格 EN 55024
- 規格 EN 61000-3-2/-3-3

指令 2011/65/EU (RoHS)

警告: 本製品はクラス A 製品です。国内環境で本製品を使用すると、電波障害を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザが十分な対策を講じるように求められることがあります。

##### USA

UL 60950-1 認証取得

FCC15B クラス A に準拠

注: この機器は、FCC 規定の Part 15 に基づくクラス A デジタル デバイスの制限に準拠していることがテストによって確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

##### カナダ

CAN/CSA C22.2 No. 60950-1 認証取得

このクラス A デジタル装置は、カナダの ICES-003 に準拠

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada

すべての仕様は予告なしに変更される場合があります。システム仕様は異なる場合があります。

これらのドキュメントの画像はすべて説明目的でのみ使用され、実際の製品とは異なる場合があります。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.

2015 年 7 月

## サポートされている RFC

RFC (Request For Comments) シリーズには、Internet Engineering Task Force (IETF) によって作成される技術仕様およびポリシー文書など、インターネットに関する技術および組織のドキュメントが含まれます。

### サポートされる最新の RFC および草案

- RFC 2190 『RTP Payload Format for H.263 Video Streams』
- RFC 2460 『Internet protocol, version 6 (IPv6) specification』
- RFC 2617 『Digest Authentication』
- RFC 2782 『DNS RR for specifying the location of services (DNS SRV)』
- RFC 2976 『The SIP INFO Method』
- RFC 3016 『RTP Payload Format for MPEG-4 Audio/ Visual Streams』
- RFC 3261 SIP 『Session Initiation Protocol』
- RFC 3262 『Reliability of Provisional Responses in SIP』
- RFC 3263 『Locating SIP Servers』
- RFC 3264 『An Offer/Answer Model with SDP』
- RFC 3311 『UPDATE method』
- RFC 3361 『DHCP Option for SIP Servers』
- RFC 3388 『Grouping of Media Lines in the Session Description Protocol (SDP)』
- RFC 3420 『Internet Media Type message/sipfrag』
- RFC 3515 『Refer method』
- RFC 3550 RTP 『RTP: A Transport Protocol for Real-Time Applications』
- RFC 3551 『RTP Profile for Audio and Video Conferences with Minimal Control』
- RFC 3581 『Symmetric Response Routing』
- RFC 3605 『RTCP attribute in SDP』
- RFC 3711 『The Secure Real-time Transport Protocol (SRTP)』
- RFC 3840 『Indicating User Agent Capabilities in SIP』
- RFC 3890 『A Transport Independent Bandwidth Modifier for SDP』
- RFC 3891 『The SIP “Replaces” Header』
- RFC 3892 『Referred-By Mechanism』
- RFC 3960 『Early Media』
- RFC 3986 『Uniform Resource Identifier (URI): Generic Syntax』
- RFC 4028 『Session Timers in SIP』
- RFC 4091 『The Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics for the Session Description Protocol (SDP) Grouping Framework』
- RFC 4092 『Usage of the Session Description Protocol (SDP) Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics in the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 4145 『TCP-Based Media Transport in the SDP』
- RFC 4235 『An INVITE-Initiated Dialog Event Package for the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 4566 『SDP: Session Description Protocol』
- RFC 4568 『SDP: Security Descriptions for Media Streams』
- RFC 4574 『The Session Description Protocol (SDP) Label Attribute』
- RFC 4582 『The Binary Floor Control Protocol』  
draft-ietf-bfcpbis-rfc4582bis-00 『Revision of the Binary Floor Control Protocol (BFCP) for use over an unreliable transport』
- RFC 4583 『Session Description Protocol (SDP) Format for Binary Floor Control Protocol (BFCP) Streams』  
draft-ietf-bfcpbis-rfc4583bis-00 『Session Description Protocol (SDP) Format for Binary Floor Control Protocol (BFCP) Streams』
- RFC 4585 『Extended RTP Profile for RTCP-Based Feedback』
- RFC 4629 RTP Payload Format for ITU-T Rec.H.263 Video』
- RFC 4733 『RTP Payload for DTMF Digits, Telephony Tones and Telephony Signals』
- RFC 4796 『The SDP Content Attribute』
- RFC 4862 『IPv6 stateless address autoconfiguration』
- RFC 5104 『Codec Control Messages in the RTP Audio-Visual Profile with Feedback (AVPF)』
- RFC 5168 『XML Schema for Media Control』
- RFC 5245 『Interactive Connectivity Establishment (ICE) : オファーまたはアンサー プロトコル用のネットワーク アドレス変換 (NAT) 通過のためのプロトコル』
- RFC 5389 『Session Traversal Utilities for NAT (STUN)』
- RFC 5577 『RTP Payload Format for ITU-T Recommendation G.722.1』
- RFC 5589 『SIP Call Control Transfer』
- RFC 5626 『Managing Client-Initiated Connections in the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 5766 『Traversal Using Relays around NAT (TURN) : Session Traversal Utilities for NAT (STUN) のためのリレ一拡張』
- RFC 5768 『Indicating Support for Interactive Connectivity Establishment (ICE) in the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 5905 『Network Time Protocol Version 4: Protocol and Algorithms Specification』
- RFC 6156 『Traversal Using Relays around NAT (TURN) Extension for IPv6』
- RFC 6184 『RTP Payload Format for H.264 Video』
- RFC 6185 『RTP Payload Format for H.264 Reduced-Complexity Decoding Operation (RCDO)』



## シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション

一般に、Cisco TelePresence 製品のユーザ マニュアルはこのサイトから入手できます。

▶ <http://www.cisco.com/go/telepresence/docs>

お使いの製品が見つかるまで、右ペインの製品カテゴリを選択する必要があります。以下の順にパスをたどってください。

TelePresence 統合ソリューション >  
[TelePresence クイック セット (TelePresence Quick Set) ] >  
[Cisco TelePresence Quick Set Series]

また、マニュアルを検索するために次の短いリンクを使用できます。

▶ <http://www.cisco.com/go/quickset-docs>

ドキュメントは、次のカテゴリに編成されます。

インストール ガイド:

インストールとアップグレード > インストールとアップグレード ガイド

スタートアップ ガイド:

インストールとアップグレード > インストールとアップグレード ガイド  
保守と運用 > メンテナンスとオペレーション ガイド

管理者ガイド:

保守と運用 > メンテナンスとオペレーション ガイド

ユーザ ガイドとクイック リファレンス ガイド:

保守と運用 > エンドユーザ ガイド

API リファレンス ガイド:

リファレンス ガイド | コマンド リファレンス

ナレッジ ベースの記事とよく寄せられる質問 (FAQ):

トラブルシューティングとアラート > トラブルシューティング ガイド

CAD 図面:

リファレンス ガイド > テクニカル リファレンス

ビデオ会議室ガイドライン:

設計 > 設計ガイド

ソフトウェア ライセンス情報:

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > ライセンス情報

法令準拠および安全上の注意:

インストールとアップグレード > インストールとアップグレード ガイド

ソフトウェア リリース ノート:

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > リリース ノート

## 知的財産権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開拓しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト ([www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices)) をご覧ください。

TANDBERG はシスコの一部です。TANDBERG® は Tandberg ASA に帰属する登録商標です。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(1110R)

## シスコのお問い合わせ先

シスコの Web サイトでは、シスコの世界各地のお問い合わせ先を確認できます。

移動先: ▶ <http://www.cisco.com/web/siteassets/contacts> [英語]

本社  
Cisco Systems, Inc.  
170 West Tasman Dr.  
San Jose, CA 95134 USA